

教室問題・食堂問題の現状と

解決策検討のための諸条件

—郊外型キャンパスの特徴を生かして—

教室・食堂問題を考えるプロジェクトチーム

答申



2011年8月22日

表紙の挿絵は 2011 年度多摩キャンパス スポーツフェスティバルの企画の一つ、エコミュージアムラリーで使われたイラストマップです。2011 年度多摩キャンパス スポーツフェスティバル 学生実行委員の一人、ラリー班のメンバーでもあった池田芽里さん(社会学部 2 年)が描きました。

はじめに

本プロジェクトチームは、多摩キャンパスの教室・食堂問題について検討するために、法政大学の多摩四学部長により、2010年度内を任期として2010年11月に設置された。以来、4回の会合をもって当該問題について検討してきた。

その間、法政大学施設部に対し、教室問題、食堂問題それぞれについて一回ずつ、計二種類の調査依頼も行った。これらの調査依頼のうち、一回目のもの、教室問題に関する調査依頼については、調査を実施した設計会社から文書回答を受けるとともに、担当常務理事及び施設部課長、同設計会社から、「説明会」において口頭での説明を受け、意見交換を行った。

本プロジェクトチームは2011年3月17日に予定していた第5回の会議を最終とし、ここにおいて答申内容の概要をまとめる予定であった。しかしその一週間前、2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の影響によって、予定した会議を開催できなくなり、年度末であったため、同第5回会議は中止せざるをえなくなった。そこで本答申は、第4回会議までの討議をもとに座長の荒井がまとめ、その内容について各委員の意見を求めたうえで、座長の責任において修正し、完成させた。

このような事情があったとはいえ、座長の不手際から、答申のまとめが遅れ、提出が年度を越え、相当に遅れてしまったことをお詫び申し上げる。

なお、施設部に対する二回目の調査依頼、食堂問題に関する調査依頼については、調査依頼項目中の一部について、施設部より2011年5月中旬にデータの提供を受けた。そこでこのデータについては座長の責任において検討し、答申内容に若干反映させたにとどまり、チーム全体での集団討議に付すことはできなかったことをお断りしておく。

郊外型キャンパスである多摩キャンパスは、各学部が学部棟をもち、そこを拠点に教育活動をおこなっている。敷地が広いこともあり、外部からは一見、施設的に余裕があるかのように受け止められがちである。しかし、実際にはさまざまな理由から中規模の教室が不足しており、近年は、教室変更で対応しきれず、受講生が教室からあふれる事態も起きている。それゆえここ数年、関係学部から施設増設の要望が切迫感をもって要求されてきた。また、食堂についても近年その経営状態が悪化し、経営担当事業者から営業時間短縮・店舗経営撤退等の要望が出され、一部実施せざるをえない事態となっている。

食堂問題については、エッグドーム食堂の経営状態悪化・担当事業者の経営撤退申請に際し、2009年度、多摩学生委員会内にワーキング・グループが設置された。同グループは多摩キャンパス全体の食堂問題を見据えた検討を重ね、エッグドーム食堂の今後について一定の見解をまとめた。この見解を受け、2010年度には多摩学生委員会を離れたプロジェクトチームが組織され、エッグドーム食堂に限ってではあるが、さらに具体的な検討が重ねられた。その成果は、エッグドーム食堂新規参入候補業者の理事会への提案、そして当該食堂の教員・学生参加による新方式での運営へと、2011年度からのさまざまな挑戦に具

体化してきている。しかし、多摩キャンパス“全体”の食堂問題について本格的検討はまだこれからという段階である。

多摩キャンパスにおける教室問題、食堂問題はこのように深刻な状況であるが、しかしその解決策を導き出すことも容易ではなく、また、本プロジェクトがこれらの問題について多摩キャンパス関係部署全体で検討するはじめての機会となること、さらに検討期間が年度内わずか4か月という短期間であることもふまえて、本プロジェクトチームは、次年度に類似の委員会による検討が継続されることを期待し、その将来の委員会での議論の土台となる諸条件を確認することを自らの目標にすえた。

特に本プロジェクトチームの審議では、教室・食堂問題についての学部を越えたはじめての検討であることをふまえ、それぞれの学部の事情を相互に理解し合うことに心を砕くとともに、他方で、各学部の課題を越えて多摩キャンパス全体の諸条件を確認することに努めた。特に後者については、より客観的な条件をつかむために、前述のように施設部への調査依頼を行うとともに、食堂問題については2010年度段階で多摩キャンパスの食堂経営を担っていたすべての業者と、エッグドーム食堂について検討してきた前述のワーキング・グループ及びプロジェクトチームの委員を招いて懇談会を開催し、食堂経営の事情や先行した検討による知見の情報収集も行った。

本プロジェクトチーム4回の討議経過の詳細については、座長が用意した議題（第2回～4回まで）のほか、配布資料の一部、事務局作成の議事メモ（第1回～第3回まで）を末尾に付すのでこれをご参照いただきたい。合わせて、施設部への調査依頼文書とそれへの回答、提供されたデータについても、末尾に付す。

以下、答申本文では、これらの審議経過を踏まえ、座長の責任のもとに、次の類似委員会の検討に役立つと思われる情報、見解を、本プロジェクトチームでの検討の道筋に即しながらまとめ、報告する。

目次

はじめに	i
1 教室問題について	
(1) 多摩キャンパスの施設全体像	1
(2) 各学部教室不足の現状—各学部の事情とデータ	2
1) 経済、社会、現代福祉学部では受講登録者が教室定員を上回る講義が多数ある。	
2) 各学部ごとに中規模以上の教室の回転率が100%を超える曜日・時限がある。	
3) 各学部ごとに中規模以上の教室の回転率が低い曜日、時限もある。	
4) 教室の使用頻度にばらつきがでる理由	
5) 講義・カリキュラムの質と教室不足との関係ほか	
6) 教室数には各曜日・時限ごとにある程度の余裕が必要である。	
(3) 新築・増設可能性の検討	4
1) 教室増設の模索とその可能性についての調査依頼	
2) 調査結果—新設・増設の可能性・合理性は低い	
(4) 課題解決の二つの方法	6
1) 講義用緊急時教室貸与システムの構築	
—四学部の教室はもとより他棟の会議室も対象に、	
教室不足時に空き教室・会議室等を相互提供・活用し合う。	
2) 小規模棟新築の検討	
—低コストで維持・修繕費を低く抑えられ、	
しかも緑の多い多摩キャンパスにふさわしい新棟の建設	
2 食堂問題について	
(1) 多摩キャンパス内食堂経営の概要—経営困難	7
(2) 多摩キャンパスの「食」の現状と食堂経営における諸問題	
—食堂経営を担っている業者等との懇談から	8
1) 学生たちの食生活の変化—少食の傾向	
2) 食堂経営上の問題—経営状態悪化による時間短縮・撤退の状況	
3) 食堂経営困難の理由—利用者数の減少ほか	
4) 経営困難についての解決策	
(1) 外部（大学）からの支援—厨房の水光熱費補助	
(2) 下膳施設の改善による経費削減	
(3) 施設部への調査依頼と回答の一部として提供されたデータ	
—「説明会」（2011.2.22）でのやりとりも含めて	12

1) 施設部への調査依頼	
2) 「説明会」(2011.2.22)でのやりとり	
3) 施設部から回答の一部として提供されたデータ(2011年5月)について	
(1) 水光熱費 業者負担部分(ホール以外)の現状	
(2) 他大学における食堂経費補助の状況	
(4) 調査依頼項目以外の観点	
— 昼食時混雑問題の調査・確認と合わせた検討の必要	13
1) 昼食時混雑実態調査の必要性	
2) 昼食時に特化した「食」提供の工夫	
3) 大学の主体的判断による食堂別営業時間の設定と利用者数に配慮した経費補助	
(5) 食堂問題改善のための方法—今後の検討課題も含めて	15
1) 厨房部分も含めた水光熱費の大学による補助の妥当性・有効性	
2) 修繕と合わせた合理的設備改善の具体化	
— 一時期・時間による利用数変動傾向に対応する解決策もふまえて	
3) キャンパス全体としての食堂経営(営業時間等をふまえた食堂配置)の、	
大学としての検討・調整	
おわりに	16
関連事項	18
1 諮問事項	
2 委員(所属・身分は2010年度当時)	
3 会議経過(日程等)	
4 会議各回の議題、配布資料、討議記録リスト	
5 施設部への調査依頼と回答及びデータリスト	
添付資料リスト	21
添付資料	22

(添付資料のページは001～077)

1 教室問題について

(1) 多摩キャンパスの施設全体像

多摩キャンパスには現在、1～18号までの棟がある。四つの学部がそれぞれ独立して学部棟をもっている。各学部の講義は原則としてそれぞれの学部が占有する棟の教室で行われているが、一部、共有して使われている棟もある。

私たちはまず、審議の前提として、各学部が教室として使用している各学部所属の棟及び共有棟と、その使用状況について、情報を確認した。その結果は以下の通りである。

経済学部が使用している教室棟は、いわゆる「経済学部棟」と呼ばれる8号館、9号館、10号館である。

社会学部が主として使用している教室棟は、いわゆる「社会学部棟」と呼ばれる4号館、5号館と、現代福祉学部と共有しているいわゆる「大教室B棟」と呼ばれる7号館である。

現代福祉学部が主として使用している教室棟は、いわゆる「現代福祉学部棟」と呼ばれる17号館と、社会学部と共有しているいわゆる「大教室B棟」と呼ばれる7号館である（現在、この7号館については教室B201とB301を社会学部が、B202を現代福祉学部が優先的に使用している）。

スポーツ健康学部が主として使用している教室棟は、いわゆる「スポーツ健康学部棟」と呼ばれる18号館である。

このほか、多摩キャンパスでは、学部の講義については、いわゆる「総合棟」とよばれる1号館のLL教室及び情報関係の教室を、語学関連の講義、情報関連の講義で、また、いわゆる「体育棟」とよばれる15号館を体育関係の講義で使用している。さらに、講義によっては、いわゆる「研究・実験棟」とよばれる12号館の施設などが講義に使用される場合もある。

なお、多摩キャンパスにはほかに1,000人規模の収容が可能な「大教室A棟」（2号館）もある。しかしこれは、新学期及び学期中の学部ガイダンスと年1回の多摩キャンパスコンサートで定期的に利用される他は、シンポジウム等に利用されるにすぎず、その利用回数は少ない（ただし2010年度は社会学部が読売新聞と共催で開催した「連続市民講座」で、例年に比べよく利用された）。この施設は、現在、講義では使用されていない。

また本プロジェクトチームの検討対象ではないが、大学院の講義で使用する教室についても触れておくと、経済学部、社会学部に関係する大学院では多摩キャンパスと市ヶ谷キャンパスの両方で講義を展開しており、多摩キャンパスでの展開においてはそれぞれの学部棟内の教室及び研究室が使用されている。また現代福祉学部に関係する大学院については総合棟（1号館）内に専用の教室が配置されている。

末尾に本プロジェクトチームの会議時に討議資料としたキャンパスマップ、関係棟ごとの部屋配置図を添付する（第2回会議時に資料として配布したが、使用した図が必ずしも分かりやすいものではなかったため、本答申作成にあたり改めて作成しなおした）。また、会議資料としては配布できなかったが、多摩キャンパス内の教室一覧で、各教室の定員と

設備が分かる表も末尾に添付する（末尾添付資料（資料番号 61～64））。

（２） 各学部教室不足の現状—各学部の事情とデータ

本ワーキンググループの第 1 回会議では、座長の互選のあと、多摩キャンパスの施設全体に関わる意見・期待などを自由に語り合いつつ、特に教室問題については 4 学部それぞれの事情、これまで考えてられてきた改善案なども、大まかに情報交換した。その中で、特に 300 人前後の中規模教室の不足が、経済、社会、現代福祉の 3 学部から、当該学部の教室割振り上のむずかしさとして語られた。また、まだ報告を準備中の段階ではあったが、各学部の教室不足状況についての多摩事務部による調査結果の概要も、口頭で報告された。そこで次は中規模教室不足状況の各学部ごとの正確な情報を提供しあうことになった。

第 2 回の会議ではまず多摩事務部から上記の調査報告、すなわち各学部の講義のうち受講登録者が教室定員を上回っている講義の数と、該当講義ごとの情報（使用教室の定員と受講登録者数）の 2010 年度データが提示された（末尾添付資料（資料番号 51）参照）。

それによると受講登録者が教室定員を上回っている講義数は、経済学部で 62 科目と際立っており、深刻な事態であることが分かった。また他学部でも社会学部は 37 科目、現代福祉学部は 22 科目と、経済学部ほどではないが、相当の数であることが確認された。

この第 2 回会議ではさらに社会学部事務課の澁澤委員から、中規模の教室が不足しているという課題意識の下に、社会学部における教室不足問題についての分析レポートが提出された。そこでは、社会学部が使用している定員 100 名以上の教室 7 つについて、その回転率を過去 4 年にわたって試算したデータも、「回転率」※表として、使用曜日及び時限別に提示された（詳細は末尾添付資料（資料番号 53）参照）（※この「回転率」は各学部で配当できる中規模以上の教室の数に対する、講義形態の科目—演習・実習・語学等ではないもの—の数の割合で試算されている。澁澤委員の説明によれば、受講制限のない講義科目は受講者数があらかじめ確定していないため、中規模以上の教室に配置するように時間割が調整されているためとのことである。）

このデータから、授業配置の曜日・時限によっては中規模教室でも空いている教室があること、他方でこの 7 つの教室では賄いきれない曜日・時限もあること—その場合には受講登録者を下回る定員の教室をそのまま使用するか、あるいは学部外（7 つの教室以外）の教室を使用して対応している—を改めて確認することができた（これはデータ上では回転率 100%を超える値として示されることになる）。そこでこの澁澤委員発案の回転率試算方法を他学部でも適応して試算し、次回第 3 回会議にもちよることにした。

第 3 回会議では、経済学部と現代福祉学部からも中規模教室の回転率表が提示された。経済学部では定員 100 名以上の教室、10 教室について、また現代福祉学部では定員 100 名以上の教室、3 教室について、その回転率表が提示され、現代福祉学部ではさらに、定員 60 名以上の教室、4 教室についてもその回転率表が示された。ここから経済学部と現代福祉学部においても、教室不足は曜日・時限によって偏りがあることが分かった。

これら、第2回、第3回の会議を通じて提供されたデータとそれを踏まえた各学部での教室不足に関する事情報告等をまとめると以下のようなになる。

1) 経済、社会、現代福祉学部では受講登録者数が教室定員を上回る講義が多数ある。

2010年度、各学部でそれぞれ、62、37、22の講義数となっている。特に中規模以上の教室について、その問題が深刻で、経済学部、社会学部については、上回る数が100人を超える講義も多数あり、講義環境として問題が大きい。

2) 各学部ごとに中規模以上の教室の回転率が100%を超えている曜日・時限がある。

これは、本来、中規模以上の教室を使用すべき講義を、それ以下の定員の教室を使用するか、あるいは、学部が通常使用していない棟の教室を使用している（他学部の教室を借用等）という意味である。

3) 各学部ごとに中規模以上の教室の回転率が低い曜日、時限もある。

たとえば、社会学部では金曜日の使用頻度が低い。経済学部では、月曜日、金曜日、また、4時限目以降の使用頻度が低い。現代福祉学部では、木曜日に使用頻度が低い。

4) 教室の使用頻度にばらつきがでる理由

教室定員を上回る受講登録者のいる講義の問題を解消するには、教室回転率をみて、その値が低い曜日・時間帯に受講生の多い講義を配置すればよいとも考えられるが、実際にはそのように単純に対応できない各学部の事情がある。

① カリキュラムとの関係

たとえば、経済学部では演習を4時限目以降に置くことにしており、これと関連させて、講義形態による科目受講を演習受講生に保障するため、4時限目以降は講義科目をできるだけ配置しないという方針をとっている。

社会学部は大学院社会学研究科に所属している教員が多い。この研究科は多摩キャンパスと市ヶ谷キャンパスの両方で、曜日を分けて講義を開講しており、週の後半、木曜日・金曜日は市ヶ谷で開講することになっている。このため金曜日に多摩キャンパスで専任教員が担当する講義数が少なくなり、これも、回転率の偏りに影響を与えている。

② 教授会、学部内委員会活動との関係

経済学部は金曜日の午後に教授会があり、午前中には各種委員会の会議が入るため、専任教員担当の講義数が少なくなって、この曜日は中規模教室の回転率が低くなっている。社会学部では火曜の午後に教授会があり、このためこの曜日・時限には中規模教室の回転率が低くなっている。

5) 講義・カリキュラムの質と教室との関係

受講生が多い大規模授業は教育上望ましくないため、社会学部では、その解消をすべく検討している。しかし、その解消法として講義を二つに分割する案が検討されても、配置する教室の確保ができず、改善策を展開できなくなっている。

経済学部では通常使用している教室に大規模な教室が一つもないため、受講生が特に多い講義への対応に苦慮している（なお、経済学部では小規模教室の数も必ずしも十分ではなく、専門演習の数を増やす方針を立てにくくなっている）。

現代福祉学部では 2009 年度新学科が設置され、二学科制となった。この設置に当たって文部科学省から必修科目の増設を求められた。現代福祉学部の学生定数は各学年 200 名程度と多くはないが、このように必修科目が増えたため、当初予定した以上に中規模以上の教室使用が増えた。2011 年度は新学科設置 3 年目を迎え、さらに必要度が高まると予想される。

なお現代福祉学部の中規模以上の教室使用増加は、社会学部で主として利用してきたいわゆる「大教室 B 棟」7 号館での教室使用の競合状態を招き、社会学部での教室不足問題に連動してきている。

6) 教室数には各曜日・時限ごとにある程度の余裕が必要である。

大学の講義は通常定員制をとっていない。そこで予想を越える受講生が登録する場合もあり、それは年度初めの登録時に分かるため、もはや各講義ごとに確定している曜日・時間の変更は難しく、教室定員との食い違いは教室変更で対応せざるをえない。そこで一般講義の多い曜日・時限には、ある程度の規模をもつ教室を余裕をもって確保しておくことが望まれる。

なお、スポーツ健康学部は 2009 年度開設され、2010 年度現在まだ完成年度を迎えていない。現在、同学部では教室不足の問題は起きていない。

(3) 新築・増設可能性の検討

1) 教室増設の模索とその可能性についての調査依頼

これまで、教室不足問題は、各学部ごと、年度初めの大規模な教室変更（変更する必要のない講義にも影響）や他学部の教室の借用等で対応してきた。しかし、近年では受講生の数にみあった教室をどうしても措置できず、教室にポータブル椅子を持ち込んで対応するという事態も広がりつつある（なお、現代福祉学部では隣接の社会学部の教室を借用することが多く、社会学部の講義の教室を変更して融通されることもある。しかし、それでも対応できず、現代福祉学部から歩いて 15 分以上かかる総合体育館、すなわち 14 号館の教室を使用したという事例が本プロジェクトチームの会議の中で紹介され、教室手配の厳しさが浮き彫りになった）。

受講者数が教室定員を上回る事態は本来あってはならないことである。また年度初めの大幅な教室変更は、変更の必要がない講義、他学部の講義にまで影響を及ぼし、受講環境に大きな混乱を招く。

このような事態を解消する方法としてこれまで想定されてきたのは教室増設であった。多摩キャンパスでは各学部とも学部棟で講義を展開するのが原則であるため、教室増設に

は、各学部棟の隣接地での新棟新築もしくは既存棟増築による増床を想起するのが自然であり、ここ数年、各学部からの施設関連予算要求においても、新棟新築、既存棟増築の要求がなされてきた。これらの要求をふまえて2010年度には、多摩事務部総務課から、経済学部棟周辺と、社会学部棟及び現代福祉学部棟周辺と、そのそれぞれに一棟ずつ、計2棟を新築する請求が、2011年度新築工事及び修繕工事の予算請求第2位として提示された。

ところで新棟新築・既存棟増築には、増設教室の利便性はもとより、キャンパス全体の景観等、他の諸条件にも配慮する必要がある。しかし、これまで各学部での議論を越え、多摩キャンパス全体を見渡して教室問題を議論する場はもうけられてこなかった。加えて、新築の予算請求がなされている場所や含め、その他のスペースや各棟の増築可能性について、まだ、その建築上の諸条件が正確に確認されていないことがわかった

そこで本プロジェクトチームでは、具体的な検討に先立って、まず多摩キャンパス内の建築諸条件を確認するため、教室問題解決にとって妥当かつ可能性があると思像されるスペースや棟の全てについて、新築・増築の建築上の可能性を本学施設部に調査依頼した。具体的には以下の5棟の増床可能性と4つのエリアでの新棟建設の可能性について調査依頼をした（詳細は別紙「多摩キャンパス教室不足問題解決策検討のための基礎調査のお願い」2010年12月21日一末尾添付資料（資料番号41）一参照）。

〔1〕増床可能性について調査依頼した棟

- (1) 1号館（大教室A棟）の上部の増設可能性。
- (2) 5号館（社会学部低層棟）2Fの上部
- (3) 7号館（大教室B棟）3F上
- (4) 10号館（経済学部C棟）3Fの上部
- (5) 17号館（現代福祉学部棟）3～4Fの上部

〔2〕新棟建築の可能性について調査依頼したスペース

- (1) 経済学部棟南側プレイグラウンド
- (2) 8号館（経済学部A棟）北側駐車場上（1階を駐車場として使用）
- (3) 現代福祉学部棟南側プレイグラウンド
- (4) 社会学部棟と現代福祉学部棟の間の緑地

2) 調査結果—新設・増設の可能性・合理性は低い

調査を請け負った(株)類設計事務所から2011年1月20日に調査結果が「多摩キャンパス教室不足問題解決策検討のための基礎調査願ひに関する回答について」として文書で回答された（末尾添付資料（資料番号42））。さらにこの回答文書をもとに、担当常務理事と施設部、類設計事務所による、本プロジェクトチームへの「説明会」が2011年2月22日に開催された（「説明会」の記録は本プロジェクトチーム第4回会合の議題に書き込んだ荒井メモ—末尾添付資料（資料番号2）一参照）。

類設計事務所の回答によると、まず増築（増床）については、既存建物に悪影響があり、建築行政上制約が大きく、新築よりもコストがかかり、そもそも「建築基準法等関連法規」

の改正後は、「既存建物上部への増築は実質不可能」、すなわち、増築は困難とのことだった。また、新築については、既存棟との「連結動線」についての配慮、「開口部等の改修」など、合わせて既存棟に関わる改修が必要であるが、建築条件としては可能との回答だった（引用は前掲、同事務所の回答文書より）。

この回答についての「説明会」（前述）では、設計事務所の説明だけでなく、常務理事及び施設部の部長・課長と本プロジェクトチーム委員との間の質疑応答、意見交換も行われた。そこでは多摩キャンパスのゆったりとした施設配置・景観への配慮を考えると、空きスペースへの新棟設置よりも、既存施設の増築が好ましいが、それが難しいのであれば、既存棟の立て直しを検討できないかとの質問も出された。そしてこの質問を契機に、新棟設置も含めた、新築・増築のそもそもの合理性をめぐる議論が展開された。以下、このときの質疑応答・意見交換における、施設部からの説明を要約すると以下ようになる。

.....

大学の建物は通例 60 年が耐用年数となっている。多摩キャンパスの建物はかなり質が高い。このように質の高い建物を維持するためには維持費がかかり、現在、修繕費を 10 年計画で 10 億円予算化している。このように維持費が高く、質の高い既存施設であるから、できるだけ工夫をして、最大限活用してほしい。増築は不可能であり、また既存棟を壊して新棟を新築することは全く不合理である。

.....

（４）課題解決の二つの方法

調査依頼についての回答と常務理事、施設部、類設計事務所による「説明会」を経て、本プロジェクトチームとしては、教室問題解決のために以下の二つの方法が現実的であり、かつ今後さらに詰めて検討をする必要があるのではないかという緩やかな結論をもった。

1) 講義用緊急時教室貸与システムの構築

—四学部の教室はもとより他棟の会議室も対象に、

教室不足時に空き教室・会議室等を相互提供・活用し合う。

教室数を増やせないとしても、受講生が教室定員を上回る講義を放置することは問題である。従って各学部では教室数も配慮した時間割を組む必要がある。そのためには講義時間の配当に関する教員の協力はもとより、カリキュラム上の工夫も必要である（物的条件によってカリキュラムに制約が起こることは本末転倒ともいえるが、学生に劣悪な学習環境を強いることになれば、望ましいカリキュラムのそもそもの実効性が疑われるであろう）。

そのうえで、このような各学部でのカリキュラム変更も含めた講義時間配当の工夫・改善をしてもなお教室不足問題が生じる場合のために、従来、社会学部・現代福祉学部間で行われてきた緊急時の教室貸与の方法を四学部全体に広げ、さらに、従来、教室としては利用されてこなかった会議室や施設も対象に、講義用の教室貸与システムを開発しておく必要がある。

前述したように、近辺の教室が確保できず、歩いて15分以上かかる総合体育館（14号館）の教室を使用したという現代福祉学部の事例が本プロジェクトチームの会議で紹介されたとき、経済学部から、その曜日ならこちらの空き教室を使ってもらえばよかったという意見が出された。また、現代福祉学部はスポーツ健康学部と比較的近い立地にあるので、両者での教室貸与も可能ではないかというアイデアも話題となった。

そこで、このような議論を生かし、4学部の曜日・時間割りごとの教室回転率もふまえ、多摩キャンパスの施設全体を見渡した、緊急時教室貸与システムについて、本格的な開発を提案したい。

2) 小規模棟新築の検討—低コストで維持・修繕費を低く抑えられ、

しかも緑の多い多摩キャンパスにふさわしい新棟の建設

郊外型キャンパスとして自然豊かな環境、ゆとりのある空間を利点として強調すべき多摩キャンパスにとって、空きスペースを埋めていく新棟設置は、費用問題以前に、キャンパス・アメニティーの観点から、必ずしも望ましいといえない。一方、教室問題は、各学部での努力や上記1)の貸与システム開発と合わせれば、300名程度の定員の中規模教室を2～3増やすことで、不足問題がかなり改善されると思われる。

従って高層の大規模な棟ではなく、低層で維持・修繕費もあまりかからず、周りの自然環境に適合した新棟の設置は検討されうるであろう。そしてその場合には、新棟はキャンパス全体の防災対応の要素も含め、さらに多摩キャンパスで別途求められている文化施設—博物館、劇場等、学生のキャンパスライフを支え、さらに地域に文化的に貢献できるもの—との複合なども検討されてよいと思われる。

2 食堂問題について

(1) 多摩キャンパス内食堂経営の概要—経営困難—

多摩キャンパスには、9つの食堂がある。このうちスポーツ健康学部は給食制をとっているので同学部の食堂については、本プロジェクトチームによる検討対象から外す。残りの8つ食堂について概観すると以下ようになる。

2010年度まではこれらの食堂は法政大学生生活協同組合（以下、法政大学生協と略す）と新東京食堂の二業者が営業していた（2011年度からこれにNPO「やまぼうし」が新規参入したが、本答申では2010年度までの状況について記述する）。

営業主体別の食堂は、以下の通りである（スポーツ健康学部棟（18号館）の食堂は除く）。

(1) 法政大学生協が経営するもの

6号館食堂（社会学部に隣接）

11号館食堂（経済学部棟内）

9号館食堂（経済学部棟内—軽食堂）

エッグドーム食堂（軽食堂—2011年度からはNPO「やまぼうし」に業者が交代した。）

17号館食堂（現代福祉学部棟内—軽食堂）

(2) 新東京食堂が経営するもの

総合棟食堂

体育館食堂

なお、近年は経営困難ということで、それぞれの業者が食堂の営業時間を短縮し、エッグドーム食堂については2009年度に法政大学生協が経営困難とのことで経営からの撤退を申請するに至った。

(2) 多摩キャンパスの「食」の現状と食堂経営における諸問題

—食堂経営を担っている業者等との懇談から

以上の概況把握のもと、本プロジェクトチームではまず、学生たちの食生活の様子もふまえて多摩キャンパスにおける食堂の経営実態を知るため、2011年1月24日の第3回会議において、関係者との懇談を行った。

具体的には、食堂を運営している二つの業者それぞれから現在の経営上の問題と、さらに、食堂経営を通して見えてくる多摩キャンパスの学生たちの食生活の現状について所見を伺った。これに加えて、2009年度に多摩学生委員会の部会としてエッグドーム食堂問題に取り組んだ食堂問題ワーキング・グループと2010年度にこれを引き継ぎ、同食堂の新たな業者による新たな経営方針を提案したエッグドーム食堂・売店プロジェクトの、双方のメンバーかつ責任者であった平塚真樹教授（社会学部）に、この間の検討から分かってきた多摩キャンパスの「食」環境に関する知見と、2011年度からエッグドーム食堂の営業を担うことが決まったNPO「やまぼうし」の情報を伺った。

その結果、食堂経営を通してとらえられる多摩キャンパスの学生たちの食生活の様子と、食堂問題—経営状況と改善のための課題—が、以下のように具体的に見えてきた。

1) 学生たちの食生活の変化—少食の傾向

新東京食堂が経営している総合棟食堂の店長及び体育館食堂の職員の印象であるが、近年の学生は全体として食が細くなっていることを実感するとのことだった。体育館食堂は体育会所属部で活躍する選手の利用が多いが、そのように身体運動を集中して行っている学生でさえも食が細くなっていると感じるとのことだった。

また法政大学生協からは、食にお金をかけない傾向から、カップ麺やパックのおむすび、菓子パンなどで昼食を済ませる学生が増えてきているとの指摘があり、本プロジェクトチームの委員からも類似の印象が語られた。

2) 食堂経営上の問題—経営悪化による時間短縮・撤退の状況

ところで、近年、多摩キャンパス内の食堂では、営業時間の短縮・担当業者の店舗経営からの撤退などの問題が生じている（数年前、現代福祉学部棟の食堂の初代担当業者が経営から撤退し、その後、法政大学生協が引き継ぐことになった。また前述のように、法政大学生協はエッグドーム食堂の経営を断念し、撤退を大学に申し出るに至った）。そこには多摩キャンパスの食堂経営では採算がとれないという、経営上のむずかしさがあると予想

される。この経営問題について、新東京食堂、法政大学生協それぞれから、その事情を伺ったところ以下のものであった。

・新東京食堂の場合

新東京食堂は、学内で、食堂のみの営業を行っているが、経営上の理由から、10年ほど前から、総合棟食堂を午後4時で閉店としている（以前は午後8時まで営業していた）。また経費を切り詰めるために、店長以外はパート職員を雇って経営しているが、店長が過労状態である。

同じく新東京食堂が営業している体育館食堂については、土日も含め年中無休としているが、やはり経営は楽ではなく、体育棟を合宿等で学外団体に貸し出すときに集中して需要があるおかげで、何とか採算がとれている状態だ。

・法政大学生協の場合

多摩キャンパスで担当している五つの食堂はどれも赤字経営が続いている。そこで以前は土曜日も開店していた6号館食堂を、パンショップ土曜開店と引き換えに土曜は閉店にしている。エッグドーム食堂は2010年度まで担当し、それ以後は経営から撤退することになった。

9号館食堂は現在撤退（閉店）を提案している。

11号館食堂、6号館食堂も営業時間短縮することを提案しており、特に6号館食堂は現在が午後7時半まで営業しているが、これも午後5時までに短縮することを提案している。

3) 食堂経営困難の理由—利用者数の減少ほか

何故、多摩キャンパスの食堂は、経営上採算をとることが厳しいのか、それぞれの担当業者の見解を伺ったところ、以下のものであった。

法政大学生協、新東京食堂とも、まず、利用者数の減少をあげた。

法政大学生協は、その理由として、環境の変化による登校者数の減少（「2008年度からキャンパスでの他学部の体育授業がなくなるなど」との例示が示された）、景気後退による学生の食への支出抑制傾向（「弁当持参、おにぎり、カップ麺等の軽い昼食」への移行）、セブンイレブンの開店（これは、食堂というよりも、パンショップとの競合とみることもできるが、学生の食への支出抑制傾向と連動して、食堂利用減少につながるということだろう—荒井）を指摘した（引用は、法政大学生協生活協同組合専務理事 関根明「多摩キャンパス 食堂を考えるPJへのご報告」2011年1月24日より）。

また新東京食堂からは、総合棟食堂について、その存在自体が現在、学生たちに十分周知されていず、その理由に、バスロータリーから体育棟までのバス路線の開通があるとの指摘もなされた。

これに加えて、法政大学生協からは、移転前に想定されていた利用者数が、実際の移転で大きく減少した問題も指摘された（全学移転ではなくなったということ）。

なお、多摩キャンパス内の食堂が経営困難になる原因については、上記のような問題を2009年度の「エッグドーム食堂問題ワーキング・グループ」が、その最終報告書（2010年

2月25日)でより体系的に指摘しているので、是非そちらを参照いただきたい(末尾添付資料(資料番号65))。

4) 経営困難についての解決策

このような経営困難を解決するために、前述のように担当業者は営業時間短縮、特定食堂についての店舗経営からの撤退を提案し、その一部が実施されてきている。しかし、郊外型キャンパスとしての多摩キャンパスでは、周辺至近距離に一般の食堂がなく、学外に出てで食事をとることは容易ではない。そこでキャンパス内の店舗縮小、時間短縮は、学生の食生活の選択肢を狭め、不便を来すだけでなく、健康に配慮した食事摂取が損なわれる恐れもある。

では、営業時間を短縮したり、経営自体を断念したりする以外に、赤字経営を脱する方法はないのか。この点も今回の懇談会で話題とし、担当事業者の意見を伺い、懇談した。その中から以下の二つが、検討すべき課題として浮き上がり、調査の必要性が確認された。

(1) 外部(大学)からの支援—厨房の水光熱費補助

前述のエッグドーム食堂ワーキング・グループは、その最終報告書(前掲)のなかで、「過去の多摩学生委員会が行った調査によれば、他大学でのヒアリングにおいて、大学における人口が6000人以下になると食堂経営が赤字化するとの知見も得た」とし、「多摩キャンパスの学生・教職員人口が、食堂事業の営業環境として十分なものであるかについて検討する課題がある」と指摘している。法政大学生協は今回、本プロジェクトチームでの懇談会で、現在の多摩キャンパスの在籍者数を約9000人、平均登校率を65%と想定し、多摩キャンパスの「人口」を約6000名と試算していると報告した(前掲 法政大学生生活協同組合専務理事 関根明「多摩キャンパス 食堂を考えるPJへのご報告」より)。これに、先にみた近年の利用者数の減少問題を加えると、食堂経営の厳しさは、単に経営努力だけで乗りこえられる問題ではないともいえる。つまり外部からの何らかの補填が必要であるということだ。

そこで、担当業者からの要求・交渉もあり、法政大学でも2009年度から食堂のホール部分の水光熱費は大学の方で支払うことに変更された(前掲、エッグドーム食堂ワーキング・グループ「最終報告書」末尾添付資料(資料番号65)参照)(なお、この懇談会では、移転当初は食堂の水光熱費を全額大学の方で支払っていたのではないかとの意見も出され、その事実確認とともに、もしそうであるなら、なぜ途中から支払われなくなったのか、その理由を別途確認する必要があるだろうということになった)。しかし、今回の懇談会で両業者から話を聞いた限りでは、食堂経営上大きな負担になるのは、ホール部分の水光熱費ではなく、厨房部分の水光熱費であるとのことだった。そこでこの厨房部分の水光熱費を大学から補填してもらえば、食堂経営がかなり改善されるのではないかと、しかし、いったい年間いくらぐらい厨房の光熱費はかかっているのか、またホールも含め、食堂の水光熱費の各食堂ごとの総額はいくらぐらいになるのか、その額は大学で負担できる額なのかと、確認すべき事項がつつぎと上ってきた。

さらに、担当者から、正確ではないが水光熱費の総額は 700 万円ぐらいではないかとの意見が出され、これをめぐって、その程度の額をなぜ大学は補填しないのか、学生がキャンパス内でゆっくりと食事ができる環境を保障するには必要な経費ではないかと議論が展開した。合わせて、多摩キャンパスのような郊外型キャンパスで、近隣に食堂街等がないような大学でのキャンパス内の食堂経営はどうなっているのか、大学での経費補填はどうなっているか、その状況も知りたいということになった。

そこで、まず正確な情報を得るために、これらの問題についても、教室問題と同様、施設部に調査依頼することになった。

(2) 下膳施設の改善による経費削減

ところで、前述のエッグドーム食堂ワーキング・グループの「最終報告書」では、移転時の予定学生数の変更の段階から、食堂施設が実際の利用学生数に比して「コスト高」になる設計となっていること、また、移転以来、25 年経過してなお、食堂について厨房・ホールとも修繕が一度もなされていないことも指摘されていた。これはすなわち、食堂施設を修繕しなければならない時期が迫っており、これを機に、利用学生数に対応した合理的設備への切り替えが実現すれば、不必要な経費を削減し、経営状況の改善になるという指摘と受け止められる。そこで今回の懇談会では、それぞれの業者に、経費削減のためにはどのような施設改善が必要か尋ねた。

そうしたところ新東京食堂から「下膳」設備の改善が提案された。現在、ベルトコンベアーに食器ごとトレイを載せて返却するシステムになっているが、この方法では職員を下膳場所に常駐しなければならない（ベルトコンベアーでは、トレイの滞留等で下膳がストップしてしまうため、いつも一人、下膳の仕事に従事していなければならない）。もし利用者が下膳コーナーで食べ残しを捨て、場合によっては水洗いして返却するシステムに戻せば（以前に大学キャンパス内の食堂で普及していたのはこの方法だった）、職員常駐の必要がなくなり、一人分の人件費が削減できるとのことだった。これについては、法政大学生協からも類似の意見が出され、さらにベルトコンベアーは故障しやすく、その修理に経費がかさむとのコメントもあった（ただし法政大学生協からは、食堂利用者にとっては、ベルトコンベアーならばトレイを置くだけですみ、下膳の順番待ちもないので便利であり、下膳場の混雑も避けられるというメリットもある。そこで移転時、大量の学生利用への対応としてこの方式が下膳システムとして選択されたと思われるというコメントもあった）。

そこで、両業者がともに経費削減のための対策として「下膳」施設の改善をその重要な一つとしてあげるのであれば、それぞれの食堂で望ましいスタイルでの「下膳」施設に変更するにはどれくらいの費用がかかるのか、その額を知りたいということになり、これも、先の水高熱費補助に関する調査と合わせて施設部に調査依頼することになった。

(3) 施設部への調査依頼と回答の一部として提供されたデータ

—「説明会」(2011.2.22)でのやりとりも含めて

1) 施設部への調査依頼

施設部への調査依頼は、2011年2月21日に「多摩キャンパス食堂問題解決策検討のための基礎調査のお願い」として施設部長宛に提出した(末尾添付資料(資料番号43)参照)。依頼した調査項目は以下の通りである。

〔1〕 食堂業者の光熱水費負担について

- ・法政大学生協、新東京食堂それぞれが運営している複数の食堂(前者五つ、後者二つ)ごとの厨房・事務室部分の光熱水費の2008年度、2009年度実績
- ・多摩キャンパスの食堂の、厨房に関する、大学としての光熱費補助実績(「水光熱費」の意図であったが、調査依頼文では「光熱費」と誤記してしまった)。

〔2〕 類似環境にある他大学でのキャンパス内食堂への経費補助事例

2) 「説明会」(2011.2.22)でのやりとり

前述の「教室不足」問題に関する施設部による「説明会」(2011.2.22)では、直前にこの食堂問題に関する調査依頼書ができあがり、前日に担当理事にeメールで送付したこともあり、「食堂問題」も話題とすることができた。

「説明会」当日、本プロジェクトチームから、この食堂問題に関する調査依頼について説明し、正式な回答は後日という前提のもとで、常務理事及び施設部から若干の説明を受け、相互の意見交換も行った(記録は、本プロジェクトチーム第4回会合時の議題に書き込んだ荒井メモ末尾添付資料(資料番号2)参照)。

ここでは特に担当理事から、大学による水光熱費補助の現状とその認識についての説明があった。それによると、法政大学では2008年度から部分的な水光熱費補助を開始し、現在、総額は、全学で年間4000万円であること、また、この額は他大学の食堂補助実態を踏まえた「最低限」の対応であり、そのことを総長も含め理事会も認識しており、この対応をこれで良しとしているのではなく、現在はあくまで「様子見」の段階と考えている、とのことだった。

3) 施設部から回答の一部として提供されたデータ(2011年5月)について

すでに本プロジェクトチームの任期終了後であったが、2011年5月中旬に2008年度・2009年度の業者負担「水光熱費」及び2010年度現在の他大学における食堂経費補助実態についてのデータファイルが多摩事務部総務課に届いた。ただし他の調査依頼項目、下膳施設改修にかかる費用と、食堂への過去における厨房部分も含めた水光熱費補助実績という二項目についての報告はまだ届いていず、今回送付されたデータについても説明が付されていないため、正式な回答は今後のことと承知している。

そのうえで、送付されたデータについて、ここでは座長の荒井の責任のもとに概観しておく(データそのものは「業者負担 水光熱費(2008年度、2009年度)(2011/2/22)」、「2010

年度他大学食堂経費区分調査【最終版】(20113.4)―末尾添付資料(資料番号 44-1、44-2)―参照)。

(1) 水光熱費 業者負担部分(ホール以外)の現状

送付されたデータは、各食堂ごとの業者負担水光熱費(ホール部分を除く)と多摩キャンパス内全食堂についてのその総額である。多摩キャンパスの食堂に関するその総額は2008年度9,087,821円、2009年度7,746,849円(2009年度には18号館〔スポーツ健康学部棟〕の食堂が給食方式で経営を開始した。この水光熱費分を合わせると88,023,546円になる)であった。

なお、この額を業者ごとの負担額に分けて試算してみると、法政大学生協は2008年度7,003,058円、2009年度6,183,994円、新東京食堂2008年度2,084,763円、2009年度1,562,855円である(荒井の試算より)。

(2) 他大学における食堂経費補助の状況

他大学の事例については、17大学について、食堂経営を担当している主な業者、水光熱費の厨房部分・ホール部分の負担者、清掃費用の厨房・ホール部分の負担者の2010年度の情報が提示された。これによると、ホール部分の水光熱費はすべての大学で大学側が経費負担をしている。一方、厨房部分(これには業者の事務室も含まれている)については、三大学が全部または一部の経費負担をしている。そのうち中央大学は食堂により異なるとのことだが、概要としては半分を大学が負担している。また東洋大学では2010年度から25%を、明治大学の生田キャンパスでは2010年度途中から「全額」を大学が負担しているとのことである。特に明治大学では、厨房の水光熱費の全額負担をすることで「値下げやメニュー増加を促進させている」とのコメントが備考に付されている。

なお、この他大学のデータ表の中で、法政大学では2009年度からホール部分の水光熱費が「全て大学負担となった」と明記されている(しかし、本プロジェクトチームのもう一つの調査依頼項目である、過去の経費補助実績についてはまだ回答されていない)。

(4) 調査依頼項目以外の観点―昼食時混雑問題の調査・確認の必要

施設部からの今回の情報提供では、まだ「食堂問題」に関する調査依頼への回答としては不十分なので、回答に関する正式な検討は、追加のデータの提供及びコメントを受けたのちの、新委員会での議論にゆだねたい。

ところで、本プロジェクトチームでの議論及び2011年2月22日の「説明会」では、「食堂問題」について、今回調査依頼した観点以外の課題意識である昼食時の混雑問題についても、合わせて検討すべき課題として議論となった。

今回、食堂業者からは利用者数の減少が特に問題として指摘されたが、食堂については、従来はむしろ、昼食時の混雑が問題となっていた。例えば2003年度現代福祉学部新設に際しては、6号館食堂の混雑が予想されたため、同学部開設以前から大きな検討事項となった。そして食堂テラス他の野外スペースへのテーブル設置、弁当販売の強化等が実施さ

れた。また、2009 年度に開設されたスポーツ健康学部が給食システムを導入したのは、既存大規模食堂から遠いという立地上の理由の他に、既存食堂施設では学生たちに十分な昼食を提供できないとの判断もあったと、改めてその理由が本プロジェクトチームの会議で紹介された。

法政大学生協の試算によると、同生協担当外の食堂も含めて、多摩キャンパスの全食堂の座席数は現在、2419 席（このうち法政大学生協が経営している食堂の座席数合計は 1838 席）であるという（前掲 法政大学生協生活協同組合専務理事 関根明「多摩キャンパス 食堂を考える PJ へのご報告」より）。前述したように同生協では、多摩キャンパスの 1 日あたりの「人口」を約 6000 名とみていることから、単純に比較すれば、教職員が同じ時間帯に昼食をとった場合、食堂座席数が大幅に不足していることになる。

1) 昼食時混雑実態調査の必要性

そこで昼食時の食堂混雑の現状はどうなっているのか、混雑対策は必要なのか、学生の軽食志向が指摘されているが、昼食時の食堂混雑がその傾向を促しているのではないかなど、改めて調査しておく必要があると思われる。

一般に、大学キャンパスの食堂では、食事提供の必要数に、昼食時とその他の時間帯との間で極端な違いがあり、また長期休暇時の利用者数の極端な減少という問題もある。さらに、一般に混雑する昼食時でも、学期はじめ・試験期間と、その他の時期とではその度合いが大きく異なる。そこで利用者数の統計も、時間帯だけでなく時期別に検討する必要がある。

このような調査をしたうえで、もし昼食時に、現在でもなおひどい混雑が続いているのであれば、下膳設備等を「利用者の減少」という認識のもとに改修すれば、昼食時は逆に混雑が増して、問題が悪化する恐れもでてくる。その場合、学生数規模に見合った設備への改修と、昼食時の混雑への対応とは、合わせて検討していく必要がある。

2) 昼食時に特化した「食」提供の工夫

本プロジェクトチームの会議では、このような昼食時の混雑という仮説的課題意識の下、各学部教授会他ですでに出されているアイデア等を参考にしつつ、次のような意見も出された。

すなわち、混雑が想定される昼食時には、大量需要の特徴を積極的に生かした魅力的な「食」提供の方法を既存業者に求めること、また、可能かつ必要であれば、昼食に特化して参入できる新たな業者の開拓を試みることである。このような取り組みを支援するために、昼食時に限って、厨房を備えた移動式食堂施設などに特定の場所を大学とて無料提供することも考えられる。

3) 大学の主体的判断による食堂別営業時間設定と利用者数に配慮した経費補助

また利用者の多い昼食時は全店舗で営業を展開するが、利用者が少ない時間帯は特定店舗に集中して食事提供を行うという方法を、個別の担当事業者ごとの要求に即しておこなうのではなく、キャンパス内の食堂すべてを対象に、大学として主体的に検討すべきであ

る。例えば、学生の利便を考慮してキャンパスの中央部の食堂には、利用者数の少ない時間帯、たとえば夕食時や休暇期間中も営業を継続することとし、その代わりに、そのような時間帯・期間の営業については、その事業に対して、大学として特別の経費補助を重点的に行うなどの方法もありうるであろう（なお、利用者過小時に限らず、食堂を中央部一か所に集中させてはどうか、具体的には、A棟（1号館）改築による食堂展開をしてはどうかという意見も「説明会」（2011.2.22）で出されたが、これについては、A棟改築そのものが不合理な提案として、施設部から懸念が示された）。

（５） 食堂問題改善のための方法—今後の検討課題も含めて

1) 厨房部分も含めた水光熱費の大学による補助の妥当性・有効性

「食堂問題」の調査依頼に関して今回施設部より提供されたデータによると、水光熱費の総額は、本プロジェクトチームで予想していた額に近いことがわかった。本プロジェクトチームの議論ではすでに予想額については、この程度の額であれば大学として全額補助すべきではないかとの判断だった。類似環境の他大学での経費補助事例では、明治大学（生田キャンパス）が、大学による水光熱費全額補助を2010年度から開始し、さらに「値下げやメニュー増加を促進させている」という考え方を示しており、郊外型キャンパスにおける食堂経営の困難さを補うという姿勢を越えて、さらに学生への積極的な食生活支援施策への発展がみられ、本学でもこれに大いに学ぶ必要があると思われる。従って厨房部分も含めた水光熱費の大学による補助は妥当かつ有効である。

2) 修繕と合わせた、合理的設備改善の具体化

—時期・時間による利用数変動傾向に対応する解決策も含めて—

なお、下膳施設改善の可能性及びその改善のあり方については、調査依頼への回答を待つ必要があるが、前節で触れた昼食時の混雑問題への対応にも配慮しつつ、長期修繕の一環としての食堂修繕過程で、合理的な施設改善が具体化されることが望まれる。

3) キャンパス全体としての食堂経営（営業時間等を踏まえた食堂配置）の、

大学としての検討・調整

合わせて、今後、四学部体制になった多摩キャンパス全体を踏まえ、食堂の営業時間、営業内容、場合によってはそれらの条件を踏まえた食堂配置全体を、大学の主体性のもとに再検討し、調整していく必要がある。

おわりに

本プロジェクトチームとしての審議経過にそくした答申内容は本文に譲る。

ここでは最後に、今回本プロジェクトチームが組織されたことで、諮問内容を越えて生み出された成果について付言しておきたい。

本プロジェクトチームでは、多摩四学部のそれぞれの教員（副主任）と事務課職員、多摩事務部総務課職員、学生生活課職員が学部・担当部署の壁を越えて、相互の学部・部署の事情について情報交換はもとより意見交換、創意工夫の方法等について討議を重ねることができた。その中で、従来、憶測で語られていたキャンパス内の建築諸条件の確認の他、統一した見地のないまま進んでいるキャンパス内各施設利用実態も、学部・担当部署を越えて話題とすることができた。

わずか4回、施設部による「説明会」を加えても5回の会議では、教室問題と食堂問題の双方の検討は過多であったが、あえてこの二つの課題に一つのチームで取り組んだことで、同じ施設問題として、双方がその解決策において関連していることが分かった。たとえば食堂については、経済学部からホール部分を営業時間帯外で学生が自由に利用できる施設（学生ホールのような施設）として活用できないかという意見が出された。これは教室としての活用という意見ではないが、逆に、昼食時に混雑する食堂を嫌って教室で食事をする学生が少なからずいる現状などとも合わせて考えるとき、今まだ具体案は出てきていないが、教室不足問題と食堂問題の両方を合わせた大胆な施設利用・施設配置の可能性を示唆しているともいえる。

そして、さらに興味深いことだったが、既存施設の有効利用という議論は終盤で、私たちの視点を、教室・食堂問題を越えて、事務系の部屋その他、他の部屋の利用方法についての再検討にまで導いた。なぜその部局がその部屋に配置されているのか。キャンパス内の配置としてその位置にあることが本当に妥当なのか。他の部局、そして教室、食堂の配置との関係ではどうなのか。少ない会議数であるにも関わらず、私たちの議論は、諮問事項である教室・食堂問題の議論を越えて、既存施設全体の利用方法に関する再検討の必要を自覚することへと発展していった。

本プロジェクトチームへの諮問事項にはその第3項目目に、多摩キャンパス全体の施設構想への言及も挙げられていた。座長としては、本プロジェクトチームの最初の会合から、この機会を教室・食堂問題を越え、多摩キャンパスの発展にとって必要な施設について学部を越えて相互に夢を語り合う場にしたいと考えていた。実際にはこの第3項目について本格的に議論することはできなかった。しかし今振り返ると、本プロジェクトチームでの議論の展開は結局そこにたどりついたのではないかと思われる。すなわち、教室・食堂問題という緊急課題が、施設の有効利用というその現実的な対応をふまえて考えれば考えるほど、実はある意味で「夢」や「希望」を含んだ多摩キャンパス全体の合理的施設構想の中でしかその解決策が見いだせないということである。

「はじめに」で述べたように、本プロジェクトチームは当初から、次の年度での審議につ

なげる土台としての諸条件の確認と、また多摩キャンパス全体を見渡して議論する意義・可能性の確認を目標としてきた。本プロジェクトチームでの検討に意義があるとするれば、2011年度にこれを引き継ぐチームが組織され、そこでの審議に本プロジェクトチームの議論が生かされることにあるだろう。幸いなことにすでに2011年度にも各学部副主任を中心に、教室・食堂問題のプロジェクトチームが組織され、本プロジェクトチームの成果を引き継いでくださることを知った。答申が遅れてしまったが、何とか新チームの議論に生かし、検討を発展させていただければ幸いである。

なお加えて、一点、本プロジェクトチーム委員構成についての反省点に言及する。それは本プロジェクトチームに多摩学生センター長が参加していなかった点である。

教室・食堂問題についての本格的な検討は、食堂問題が学生生活という学生センター関連の問題であるだけでなく、前述のように、多摩キャンパス全体の施設構想に大きく関係している。その点、四学部を越えて多摩キャンパスの学生生活環境に全体として関わる多摩学生センター長がここに参加入っていればさらに有効な議論が展開できたかと思われる。また各学部の副主任が参加し、学生生活課の課長も参加する本プロジェクトチームの構成は、多摩学生委員会の構成に類似しているため、多摩学生センター長の参加は多摩学生委員会での議論の連動としても有意義であっただろう。

2011年度のチームはすでに発足しているかと思われるが、もし構成メンバーに多摩学生センター長が入っていないのであれば、何らかの形で同センター長がチームの討議に加わる運営となることを期待したい。

なお、周知のように、今回の東日本大震災を受けて多摩キャンパスでも防災対応の不備が改めて議論となった。2011年度の検討においては当然のことであろうが、多摩キャンパスの将来の施設構想においてこの教訓が生かされることも期待したい。

最後になってしまったが、お忙しいなか懇談会にご出席くださった食堂担当業者のみなさま、食堂問題ワーキング・グループ（2009年度）及びエッグドーム食堂・売店プロジェクト（2010年度）メンバー及び責任者としての平塚眞樹教授、また我々の調査依頼に対応くださった施設部、類設計事務所、「説明会」での説明と質疑に応じてくださった加藤前常務理事に深く感謝申し上げます。今後も、多摩キャンパスの教職員のみならず、大学全体の理事・教職員とともに、また担当者とともに、協力しあって多摩キャンパスの環境改善・発展を推進できることを願っている。

関連事項

1 諮問事項

- ① 3学部（経済・現代福祉・社会）の教室不足の解消
- ② 多摩キャンパス全体の食堂の問題
- ③ これからの多摩キャンパスの建物、施設の大まかなトータルプランの作成
(第1回議事メモ参照)

2 委員（所属・身分は2010年度当時）

所属	身分	担当	氏名
総務課	課長		金子 良作
		事務局	堀内 剛
経済学部	教授		竹口 圭輔
	主任		三宅 克巳
社会学部	教授	座長	荒井 容子
	主任		澁澤 知宏
現代福祉学部	教授		久保田 幹子
	課長補佐		蛸島 慎一郎
	主任		半妙 宏一
スポーツ健康学部	准教授		高見 京太
	次長		照井 博康
学生センター	課長		佐藤 健

3 会議経過（日程等）

- ・第1回 2010年11月1日（月） 於 総務課会議室
- ・第2回 2010年12月10日（金） 於 総務課会議室
- ・第3回 2011年1月21日（金） 於 総務課会議室
- ・施設部による説明会（教室問題に関する調査依頼への回答について）

2011年2月22日

- ・第4回 2011年2月24日（木） 於 総務課会議室
(第5回が2011年3月17日（木）に予定されていたが、東日本大震災による会議開催環境悪化のため、中止となった。)

4 会議各回の議題、配布資料、討議記録リスト

- (1) 第1回 2010年11月1日（月）

配布資料

- ・諮問文「教室・食堂問題検討審議会（仮称）」

多摩キャンパス4学部長諮問」(本報告書添付)

※この文書は、組織名称、組織構成とも、実際の「教室・食堂問題プロジェクトチーム」と若干の齟齬があるが、教室・食堂問題プロジェクトチームの第1回会議において配布され、これをもとに、チームへの諮問事項が前述の3点として確認された。

第1回事メモ(本報告書添付)

(2) 第2回 2010年12月10日(金)

議題(本報告書に添付)

配布資料

- ・名簿
- ・4学部長連絡会(2010年7月30日)議事メモ
- ・「多摩キャンパスにおける今後の施設修繕に関する要望・意見」
(社会学部長より、理事・施設部長・多摩事務部長宛)

2010年2月9日

- ・2010年度予定工事一覧
- ・2011年度 新築工事及び修繕工事 予算要求統括表

2010年6月21日

- ・多摩キャンパスイラストマップ(本報告書に添付)
- ・各学部施設図、総合棟、エッグドーム施設図(本報告書に添付)
- ・「経済学部定員オーバー科目(62科目)」(本報告書に添付)
- ・「社会学部定員オーバー科目(37科目)」(本報告書に添付)
- ・「現代福祉学部定員オーバー科目(22科目)」(本報告書に添付)
- ・「教室問題に関する論点について(メモ)」(本報告書に添付)
(含「社会学部講義科目教室回転率」表(2007-2010年度))

社会学部事務課 澁澤 2010年12月10日

第2回議事メモ(本報告書に添付)

(3) 第3回 2011年1月21日(金)

議題(本報告書に添付)

配布資料

- ・「経済学部講義科目教室回転率」表(2007-2010年度)(本報告書に添付)
- ・「現代福祉学部・人間社会研究科 講義科目(マ)教室回転率」表
(2008-2010年度)(本報告書に添付)
- ・「多摩キャンパス 食堂を考えるPJへのご報告」(本報告書に添付)

法政大学生生活協同組合専務理事 関根明 2011年1月24日

- ・「エッグドーム食堂問題ワーキング・グループ最終報告書」

2010年2月25日（本報告書に添付）

- ・「エッグドーム食堂・売店の新規開業（2011年4月）に向けて」
エッグドーム食堂・売店プロジェクト
（エッグドーム食堂・売店運営協議会準備会）2011年10月26日
（含【添付資料】「エッグ食堂企画運営プロジェクト経過報告
2010年7月8日）
- ・教室問題に関する調査依頼
「多摩キャンパス教室不足問題解決策検討のための基礎調査の
お願い」2010年12月21日

第2回議事メモ（本報告書に添付）

(4) 第4回 2011年2月24日（木）

議題（本報告書に添付）

配布資料

- ・食堂問題に関する調査依頼
「多摩キャンパス食堂問題解決策検討のための基礎調査のお願い」
2011年2月21日

第3回議事メモ（本報告書に添付）

5 施設部への調査依頼と回答及びデータ

(1) 教室問題に関する調査依頼と回答

- ・「多摩キャンパス教室不足問題解決策検討のための基礎調査のお願い」
（教室・食堂問題を考えるプロジェクトチームより施設部長宛、2010年12月21日
（本報告書に添付）
- ・「多摩キャンパス教室不足問題解決策検討のための基礎調査願に関する
回答について」
（株式会社 類設計室より法政大学施設部宛、2011年1月20日）

(2) 食堂問題に関する調査依頼と提供データ表

- ・「多摩キャンパス食堂問題解決策検討のための基礎調査のお願い」
（教室・食堂問題を考えるプロジェクトチームより施設部長宛）2011年2月21日
（本報告書に添付）
- ・業者負担 水光熱費（2008年度、2009年度）（2011/2/22）
- ・2010年度他大学食堂経費区分調査【最終版】（2011.3.4）

添付資料リスト

(添付資料内のページ)

1. 諮問文 (資料番号 1)001
2. 各回議題 (第2回～第4回) (資料番号 2)002
3. 各回議事メモ (第1回～第3回) (資料番号 3)009
4. 調査依頼文及び回答
 - (1) 「多摩キャンパス教室不足問題解決策検討のための基礎調査のお願い」
2010年12月21日 (資料番号 41)019
 - (2) 「多摩キャンパス教室不足問題解決策検討のための基礎調査願に関する回答について」
類設計室からの施設への回答) 2011年1月20日 (資料番号 42)021
 - (3) 「多摩キャンパス食堂問題解決策検討のための基礎調査のお願い」
2011年2月21日 (資料番号 43)022
 - (4) 施設部提供データ 2011年5月 (施設部より総務課に送付)
 - ・業者負担 水光熱費 (2008年度、2009年度) (2011/2/22) (資料番号 44-1)024
 - ・2010年度他大学食堂経費区分調査【最終版】 (2011.3.4) (資料番号 44-2)025
5. 各学部ごとの教室使用関係データ
 - (1) 教室定員オーバー科目 (多摩キャンパス 学部別) (資料番号 51)027
 - ・「経済学部定員オーバー科目 (62科目)」
 - ・「社会学部定員オーバー科目 (37科目)」
 - ・「現代福祉学部定員オーバー科目 (22科目)」
 - (2) 中規模以上の教室の回転率 (多摩キャンパス 学部別) (資料番号 52)031
 - ・「経済学部講義科目教室回転率」表 (2007-2010年度)
 - ・「社会学部講義科目教室回転率」表 (2007-2010年度)
(「教室問題に関する論点について (メモ)」より)
 - ・「現代福祉学部・人間社会研究科 講義課目(マ)教室回転率」表 (2008-2010年度)
 - (3) 「教室問題に関する論点について (メモ)」
(社会学部事務課 澁澤 10年12月10日) (資料番号 53)034
6. その他
 - (1) 多摩キャンパスイラストマップ (資料番号 61)050
 - (2) 多摩キャンパス 各学部関連教室棟の施設図 (資料番号 62)051
 - (3) 多摩キャンパス 総合棟・A棟・エッグドームの施設図 (資料番号 63)055
 - (4) 多摩地区教室一覧 (定員・設備等)
(『教員ハンドブック』専任教員用 2011年度より) (資料番号 64)067
 - (5) 「エッグドーム食堂問題ワーキング・グループ最終報告書」
2010年2月25日 (資料番号 65)069

教室・食堂問題検討審議会（仮称） 多摩キャンパス 4 学部長 **諮問**

現在、多摩キャンパスの3学部（経済、現代福祉、社会）では教室不足が深刻な問題になっており、早急に解決したいと考えている。またスポーツ健康学部では、ほかの3学部との授業の乗り合い（公開科目など）を検討中である。

また、一方、同3学部では食堂問題が大きな問題になっている。そもそも現代福祉にはカフェしかなく、学生は社会学部の食堂も使っている。経済学部の食堂は狭く、さらに老朽化している。そのうえ、経済学部棟の食堂、総合棟の食堂は営業時間が年々、短くなってきている。

このような状況のなかで、これからの多摩キャンパスの教室問題、食堂問題をどうするべきかを併せて検討する委員会を設置したい。

構成メンバーは次の通り。

- ・各学部事務課長か主任
- ・経済・社会は教員ふたり、現福・スポーツ健康はひとり
- ・総務から **ふたり ひとり**
- ・学生センターからひとり
- ・理事（加藤理事か徳安理事：ただし毎回出席の必要なし）

諮問事項は次の通り。

① 3学部の教室不足の解消。スポーツ健康学部の他学部授業への乗り入れもふくめて。

まず、4学部がそれぞれ独自に解決案をさぐるべきか、それとも4学部が共同して解決案をさぐるべきかという問題がある。また、2学部、あるいは3学部が共同ということも考えられるかもしれない。

例えば、エッグドームを教室棟にして、学生施設をほかに移せば、4学部共通で使える教室ができる。1限目、2限目、また5限目の授業には都合がよいかもかもしれない。またエッグドームに隣接している私営の駐車場を借り上げて教室棟を建てることも考えられる。さらに、総合棟を教室棟にすることなども考えられる。

これまで、多摩キャンパスは「経済：社会・現福：スポーツ健康」という3地域に分け考えられることが多かったが、4学部をどこか1点でつなぐという発想で解決できる問題があるのかもしれない。とくに現福とスポーツ健康の授業は重なるものも多い。

② 多摩キャンパス全体の食堂、食問題の解決（エッグドーム2Fの食堂をふくむ）。建物の問題と、業者の問題。

この件に関しても、4学部共同で考えるべきか、各学部で考えればよいのかをまず検討してほしい。

ただ、大学における食問題はこれからさらに重要になってくるはずで、できるだけ早いうちに多摩キャンパス全体の方向性を確認する必要がある。

③ これからの多摩キャンパスの建物、施設の大まかなトータルプランの作成。

以上。

資料番号 2

教室・食堂問題を考えるプロジェクトチーム会議（第2回）

12月10日（金）15：30～17：00 総合棟4階 総務課会議室

議題

1 事前の確認事項－手続きについて

- (1) 4学部長会議による諮問内容の再確認（経過も含めて）
修繕計画との関係－過去の経緯、情報－来年度食堂整備計画の有無など
——資料有（追加）
- (2) 修繕計画・施設整備計画進め方に関する－過去の要望
- (3) 4学部共同で討議することの意義
キャンパスのバランスよい施設設備
施設の相互提供、共同使用施設に関する企画・要望の強化

2 物的諸条件についての確認

- (1) 来年度に向けた多摩キャンパス修繕・施設整備のための予算請求内容（請求済）
——資料有 予算請求内容リスト
- (2) 施設の強度、施設建設可能地特定の必要性
手続き：理事会に調査要求をする必要があるとのこと。
→調査依頼内容について検討
→各学部を持ち帰って検討し、結果を次回に持ち寄る。

3 多摩キャンパスにおける教室設備の問題について

- (1) 「教室」施設の現状－利用状況
——配布資料 多摩キャンパス全図
各棟の施設図と利用状況（不足状況など）

各学部

経済

社会

現代福祉

スポーツ健康学部

学部以外の施設

総合棟

A棟

エッグ・ドーム

- (2) 意見交換
教室増設・共有その他のアイデア
アイデアの実効性を確認するための必要な情報内容の確認

4 今後の進め方

(1) 本プロジェクトの年度内での目標確認

案 課題の共有・確認

解決策の提示

(予算と度外視して考える。

多摩キャンパスの環境維持・改善について、「夢」のある案を複数提示する。)

物的諸条件の調査依頼とその結果の確認 (これは間に合わないかもしれない)

(2) 今後のスケジュールの確認 (会合日程と課題、理事との懇談など)

案

1月

1 「教室」増設・修繕についての要望の集約

2 多摩キャンパスにおける物的諸条件に関する調査依頼内容の確認

→依頼 (本日の確認をもとに各部で検討しておいてもらう)

3 エッグドーム食堂問題プロジェクトとの懇談

2月 1 食堂問題に関する各学部での問題状況に関する意見交換

(各学部での意見集約をもとに)

2 多摩キャンパス全体での食堂問題の確認と対策案の確認

3月 多摩キャンパスにおける教室・食堂問題の確認と対策案の確認

(物的諸条件の確認も含めて)

→4学部長に対しての答申

教室・食堂問題を考えるプロジェクトチーム会議（第3回）

2011年1月21日（金）15：30～17：00 総合棟4階 総務課会議室

議題

1 多摩キャンパスにおける物的諸条件に関する調査依頼

2011/01/12 依頼済み

2 教室問題

(1) その後、各学部での教室利用状況実態調査などあれば・・・報告

(2) 教室問題での答申内容 ポイント

1) 各学部での教室不足の実態 データをもとる

①経済学部での教室不足 大規模教室の不足、中規模教室の不足

(大教室を不足として入れるか?・・・「大規模授業」削減も含めて考えると)

②社会学部、現代福祉学部での中規模教室不足

2) 教室不足解消にむけての考え方

① 200～300人規模の教室が不足している。

② 教室増設に当たっては、キャンパス全体の環境を踏まえて検討したい。

③ 依頼している調査結果を踏まえて、4学部で増設方法を提案したい。

④ その折には、教室以外の施設の要望も合わせて提案したい。

(多摩キャンパスの価値をアピールする施設上のアイデアなど)

博物館、劇場、軽スポーツ施設増設ほか

3 食堂問題 エッグドーム食堂プロジェクト、生協、新東京食堂の方々との懇談

1) 生協、新東京食堂

① 営業時間、店舗ごとの利用者層・利用者数の変化、売れ筋の「食事」傾向など（おおざっぱな内容で構わない）。

② 多摩キャンパスの食環境について

ーキャンパス内の食堂を担っている立場から見えてくる課題・改善点
他大学の情報ほか（もし情報をお持ちなら）ー

2) エッグドーム食堂プロジェクト 平塚先生

①一昨年のワーキング・グループの活動から見えてきた多摩キャンパスの「食」環境
（可能なら学生たちの動きなども含めて）

②「やまぼうし」の情報

3) 意見交換 各学部の状況

経済

社会

現代福祉

スポーツ健康

4 今後のスケジュールの確認（会合日程と課題、理事との懇談など）

（1）日程と議題

2月 1 食堂問題に関する各学部での問題状況に関する意見交換
（各学部での意見集約をもとに）

2 多摩キャンパス全体での食堂問題の確認と対策案の確認

3月 多摩キャンパスにおける教室・食堂問題の確認と対策案の確認

（物的諸条件の確認も含めて）

→4 学部長に対しての答申

（2）理事との懇談

答申提出のときか？

5 その他

教室・食堂問題を考えるプロジェクトチーム会議（第4回）

2011年2月24日（木）13:30～15:30 総合棟4階 総務課会議室
荒井容子（社会学部）

議題（若干、荒井のコメントも追記）

1 2011年2月22日（火）施設部からの回答・説明

（加藤理事、施設部長、同課長ほか職員と類設計事務所）

（1）多摩キャンパスにおける物的諸条件（教室問題に関わって）

調査依頼（2011/01/12 依頼）への回答

2011年2月22日（火）回答と説明の会 報告

- ・ 既存施設の上部建増は困難－強度、経費の合理性からみて
- ・ 空きスペースへの新築 可能 周辺施設との関係への配慮は必要
←
- ・ 施設設置自体の合理性問題
- ・ 大学の建物は60年を耐用年数と考えるとのこと。
- ・ 多摩キャンパスの建物は「かなり」質が高いものとのこと。
- ・ 質の良い建物を維持するために、維持費がかかる。
- ・ 修繕費をほぼ10億円予算化しているとのこと。←これは10年計画でのこと？
- ・ 教室回転率、学部相互間の協力、講義配置の工夫など、こちら側が想定している自己努力について、それを怠っているというような誤解があるようだったので、その点の誤解を解消するような懇談にもなった。

（2）食堂問題に関する調査依頼 当日、手渡し（前日、ファイル送付済み）

依頼文書は別紙参照（eメールで2011/02/21 回覧済み）

回答は今後くださるとの前提のもとで、若干の意見交換となった。

- ・ 2008年から部分的光熱費補助を開始した。総額は全学で年間4000万円。これは他大学の食堂補助実態を踏まえた「最低限」の対応ということは総長も含め理事会として自覚しているとのこと（つまり他大学ではもっと手厚い補助をしていることは承知とのこと）。現在、「様子見」とのこと←効果を？
- ・ 厨房の光熱費補助について（類設計事務所の方？） 補助額が拡大していく恐れがある。環境不備をキャンパス内でまかなおうとしても無理。周辺と協力すべきとの意見。←多摩キャンパスの周辺地域に関する認識不足の意見と思われるが。
- ・ 食堂の集中化－教室問題とのからみで議論を展開したが・・・A棟の建替え・食堂センター化など
←A棟の建替えは無理・問題外との反応。しかし食堂の集中化には共感？
- ・ 昼時利用ピーク時限定の外部の移動食堂等検討の余地あり。

2 教室問題 食堂問題 まとめに向けて 意見交換

(1) 教室問題での答申内容 ポイント

1) 各学部での教室不足の実態 データを確認する。

①経済学部での教室不足 大規模教室の不足、中規模教室の不足

(大教室を不足として入れるか?・・・「大規模授業」削減も含めて考えると)

②社会学部、現代福祉学部での中規模教室不足

2) 教室不足解消にむけての考え方

① 200～300 人規模の教室が不足している。

② 教室増設に当たっては、キャンパス全体の環境を踏まえて検討したい。

③ 依頼している調査結果を踏まえて、4 学部で増設方法を提案したい。

④ その折には、教室以外の施設の要望も合わせて提案したい。

(多摩キャンパスの価値をアピールする施設上のアイデアなど)

博物館、劇場、軽スポーツ施設増設ほか

以上は前回提示した項目。

追加

⑤ 学部間での教室使用に関する協力のシステムをつくる。

(2) 食堂問題 前回の懇談会を踏まえて 自由に意見交換

①学生の食事内容を豊かにするという視点からの食環境整備のあり方

②学生・教職員の多摩キャンパスでの活動保障としての食堂設備－時間・場所

－のあり方

アクセス・時間だけでなく、「交流」なども含め

③周辺地域・自治体と共有するという発想でのキャンパス内の「食堂」「施設」構想

(3) 教室・食堂問題——どうも、合わせて考えた方が、もっと創造的なアイデアがでそうでは・・・。

改めて考えたいこと

- ① 食堂施設と関連させた構想もありうるか。
(一部の食堂を閉鎖→教室へ変更)
- ② 代わりに昼食時の外部からの移動食堂(自動車)駐車スペース、食事スペースの設備を整える。
- ③ 夜間・土曜営業する食堂に限り、厨房の光熱水費の補助を行う。
- ④ A棟ホールのロビーや中庭も、食堂として活用できないか。
- ⑤ A棟を改築して、多様な利用を可能にできないか。
- ⑥ 高層ビル、中層ビルを建てるのではなく、森林景観を活用した建物を建てるという方法はないか。
その場合には、周辺自治体への交渉が可能ではないか。

3 今後のスケジュールの確認(会合日程と課題、理事との懇談など)

(1) 日程と議題

- 3月 多摩キャンパスにおける教室・食堂問題の確認と対策案の確認
(物的諸条件の確認も含めて)
→4学部長に対しての答申

(2) 4学部長への答申提出

4 その他

教室・食堂問題を考えるプロジェクトチーム会議（第1回）（議事メモ）

日時：2010年11月1日（月）13:00～14:20

場所：総合棟4階 総務課会議室

出席者：（総務）金子課長、堀内課員（事務局）

（経済）竹口教授、三宅主任

（社会）荒井教授、澁澤主任

（現福）蛸島課長補佐

（ス健）高見准教授、照井次長

（学セ）佐藤課長

欠席者：（現福）久保田教授

議題

1. 4学部長連絡会議事メモ確認・自己紹介

2. 本プロジェクトチームの目的

（1）多摩キャンパス4学部長からの諮問である。

①3学部の教室不足の解消

②多摩キャンパス全体の食堂の問題

③これからの多摩キャンパスの建物、施設の大まかなトータルプランの作成

（2）2010年度末までに方向性を議論して推進する。

3. 座長選出

社会学部長提案であったことを鑑み、執行部の荒井教授を選出した。

4. 討論（進行：荒井座長）

（1）名簿作成

・名簿を作成し、メールにて配布する。

（2）討論の進め方

諮問内容を基軸としながら、以下のような点を念頭に置きつつ自由に討議する。

・スポ健は独自に運用されているが、3学部およびEGGDOMEの食堂の在り方。全体の食問題が十分ではない。

・体育会に所属していない学生が簡単に体を動かすことができる環境づくり。

・建物のバリアフリー化が進んでいない。

・長期修繕計画の全体像が見えてこない。センタープラザ改修工事のように、実施に際して施設を使用する者の意向をふまえて議論を重ねたケースがあった。

・関連する学部で協力して、多摩キャンパスについての修繕の課題を検討する。学生が来やすい、

周辺地域との関係を大事にする環境が必要である。

(4) 会議の開催頻度

- ・2010年度末までに一定の方向性を導き出すために、毎月1回程度の開催とする。

(5) 基礎データ

- ・教室の稼働状況を把握するための基礎データを次回までに用意する（総務）。
- ・生協食堂の稼働状況については、基礎データをすでに入手しているので、次回以降に内容を整理した上で提示したい（総務）。

5. フリートーク

- ・予算的な面、現実的な落とし所がわからない。（経済）
- ・2009年度から教室棟建設の予算要求をしているが、結局は予算が通らない。（総務）
- ・施設部では、多摩には新しい建物を建てない方針と聞いているが、本当なのか。（総務）
- ・（元施設部に所属していた者としての意見として）必ずしもそうではないと思う。各学部事務課から教室棟を建ててほしい等の要求上がるが、個別に要求するのは現実的ではない。多摩の事務と施設部の事務とで判断する次元ではなく、やるやらないは施設部の範疇を超えている。大学全体の政策としてどうするのかを議論することがポイントである。その意味では、多摩全体の総意として、要求をしていくより他はないと考える。そのための動かすベース（どのぐらいの規模の建物をどこに建てるのか等）について、この会議体で議論できればいいと考える。（現福）
- ・制約を設けずに議論をした上で、根拠あるものとする段階を経て、先行して実施すべきもの等を議論したい。（座長）
- ・教室増については、どのぐらいの費用がかかるのかを、現時点で施設部サイドは考えていないと思われる。一方では本当に教室は足りないのか、やりくりしてフル稼働すれば足りるのではないかという議論もある。うまく説得できる資料を用意しないと先に進まない。（現福）
- ・今回は、教室問題について議論を積み上げられるようにすることとして、今回は、教室、食堂、その他の問題について、話せる範囲で自由にご意見をいただきたい。（座長）

(1) 経済学部

- ・科目の受講生がどのぐらいの規模になるのかを過去の実績を参考にしつつ、大、中、小教室に割り当てることに時間割編成の担当が一番苦慮している。実際に履修登録をした結果、教室に収容しきれない場合があるし、その逆もありうるため、教室変更等で対応している現状である。
- ・時間割編成上、最も必要とされているのが200名前後の席数の中教室であり、2年ほど前に、10号館（経済学部C棟）の既存の2階の上に、構造的・強度的に可能かどうかはわからないが、さらに3階を増築できないのかを検討してもらった経緯がある。
- ・小教室であるゼミ室は当初24名程度の席数であったが、30名程度の席数に対応するために小さい机に変更しているが、全員が希望するゼミを受講できる状態ではない。
- ・現状のままでは机がないので難しいとは思いますが、2号館（大教室A棟）をうまく活用できたらと思う。
- ・小教室にプロジェクターが設置される等、設備面は少しずつ改善されてはいるが、一方で、ゼミ室にはプロジェクターがない。ゼミ室の席数を増やす努力はしているが、圧倒的に中教室が不足している状況である。

- ・11号館の食堂の営業時間が10:30～15:30に縮小と9号館（経済学部B棟）の食堂が閉鎖する問題がある。生協から入手した利用実態のデータによると、たしかに9号館の利用者は少ないが、昼時には利用者が集中しており対応できていない。特に4月・試験期は行列が並んでいる。メニュー縮小、サービス・質の低下、衛生面の管理等にしわ寄せが出てきている。生協にもある程度の努力をしてもらう必要がある。
- ・講義に出ていない学生の滞留する場所がない。屋根がないために雨の日には屋外に滞留することは難しい。学生ホールもあるが、食堂から溢れた学生が使用している。最近では教室でお昼を食べている学生がいる状況である。食堂の営業時間が終了するとホールから学生を締め出している。管理面からの問題なのかもしれないがもったいない。
- ・修繕に関しては、バリアフリー化工事にて障がい者対応が大幅に改善された。

(2) 現代福祉学部

- ・教室については、2010年度から学科再編を行っているために、必修科目がかなり増加した。これにより、200名前後の中教室が1年生のみで収容が危機的状況であり、14号館（総合体育館）の教室を使用している状況である。年次進行により、社会との5号館（社会学部B棟）のやりくりがより一層厳しくなる。17号館（現代福祉学部棟）には、140名前後の2教室分程度しかない。
- ・食堂については、ピーク時は若干混み合うが、教室に比べれば大きな課題ではない。メニューが少ないために、社会の食堂に流れていることもある。
→どこの学部の食堂がではなく、一緒に考える必要がある。（座長）
- ・その他、喫煙について、10/21に喫煙所の変更がされたばかりで、定着するまでは、タバコのポイ捨てが多くみられる。トイレについては、各建物のトイレ改修が進み、現福が古くなってきている状況である。

(3) スポーツ健康学部

- ・完成年度を迎えていない（2年目）が、いずれ体育館・プールの施設要求が出る可能性がある。
- ・食堂については、当初150名の席数であり、完成年度には600名となるため席数不足が問題であったが、増築工事により席数・厨房が改善される予定である。昼食後は厨房部分のみ閉鎖して、ホール部分は学生に開放している。
- ・多摩キャンパスは全面移転を予定していたため、経済の多目的グラウンドと現福のグラウンドは建設用地として確認申請をしていたはずである。
- ・空調機が工学部棟の頃のものから大きく変更していないため、個別空調方式ではなく中央管理方式のままである。事務室の空調機は修理部品の在庫がないため、故障すると対応できない状況である。
- ・フットサルコートとテニスコートのフェンスが低いため、ボールが飛び出してくることがあり、これまでに窓ガラスが2回割れている。
- ・バス停までの外灯がとても暗い。また、ショートカットできるケモノ道を利用する学生もいる。

(4) 社会学部

- ・履修登録者数が900名を超える科目が出てきており、5号館の301教室でも収容しきれない。
- ・教室変更が頻繁に発生する。半期で約50の講義で教室変更を行っている。
- ・時間割が週の前半の月曜～木曜に偏りがちである。原因としては、金曜の授業が相対的に少ない

こと、金・土に大学院に出講する先生が多いことが上げられる。開講数のバランスを取ることが課題と考えているが難しい。

- ・学生はできるだけ大学に来る回数を減らすために、週3、4回と特定の曜日に固めて履修登録する傾向があるため、平均化されにくく状況である。
- ・中教室については、学部棟で持っているのが4教室であり、内訳は370席、270席、153席が2教室となっている。残りは小教室となっている。特に153名の教室については席数が不足しており、ゼミ室から机・イス、パイプ椅子まで運び込み、座るだけで言えば200名程度の席数を確保している。パイプ椅子での受講というのは、全く好ましい状況ではないが、そのような手段を取らないと学生が地べたに座り、私語を始めて講義が崩壊してしまう。根本的な解決が望まれる。
- ・教室にはAV機器が設置されるようになったが、音響の伝わり方が十分でない教室があり、最近の学生は気にする傾向がある。一方で教室内での私語という問題もある。
- ・現福の教室利用や社会の授業に現代福祉の授業が乗り入れていることもあり、社会のみで考えていた教室利用と相容れなくなってきた。
- ・学生の食堂へのニーズを把握するとともに、経営面との擦り合わせが必要である。
- ・学生の滞留する場としては、食堂で食事をしながらゼミを行う等の活性化の議論ができればいいと考える。
- ・センタープラザの改修に際しては、半面は軽い運動ができるよう保証すべきとの話があったが、通行人との関係で危険なのではという話も出た。学生の意見を取り入れながらバスケットゴールの設置場所を含めて、ルールづくりをしようと考えている。
- ・外部にアピールできる魅力ある施設として、博物館、シアター等をEGGDOMEのレベルでなく考えられないか。また、ガーデニング等、自然環境を生かす設計はできないか。食堂や書店を外部に開かせると、経営的な改善、地域の経済循環の中に入ることはできないか。

(5) 学生センター

- ・2号館（大教室A棟）のように利用率が極端に低い建物について、教室に利用できないか総務で確認してほしい。
→社会が読売新聞と提携して、月1回「連続市民講座」を開講している。より活性化の議論ができればいい。（社会）

6. 次回

(1) 日時

- ・12月10日（金）15：30～

(2) 場所

- ・総合棟4階 総務課会議室

(3) 議題

- ・教室問題
- ・教室利用状況
- ・各学部の意見
- ・その他

以上

教室・食堂問題を考えるプロジェクトチーム会議（第2回）（議事メモ）

日時：2010年12月10日（金）15:30～

場所：総合棟（1号館）4階、総務課会議室

出席者：（経済）✓竹口教授、萩尾課員
 （社会）✓荒井教授、澁澤主任
 （現福）✓久保田教授、✓蛸島課長補佐
 （ス健）✓高見准教授、✓照井次長
 （学セ）✓佐藤課長
 （総務）金子課長、✓堀内課員（事務局）

議 事

1. 施設面での検討

建物強度調査、敷地（建設可能範囲）調査について、施設部長宛に座長名で依頼する。建て増し計画（案）として、各建物に1ないし2階の建て増しが可能か、または、同じフロア面積が確保できない場合は、どこまで有効面積として確保できるのかの調査を依頼する。

2. 各学部の教室不足

（1）経済学部

- ・他にゼミ室が不足している。少人数教育とゼミの充足率の両方を高めるという矛盾した目標がある。
- ・経済学部には、大教室B棟のような建物がない。
- ・施設面の改善に頼るだけでなく、ゼミの履修保証を外す等の運用面での方策を検討する必要がある。

（2）現代福祉学部

- ・カリキュラム変更の1年目にあたり、来年度（2011年度）以降、200名教室が不足してくる。

（3）スポーツ健康学部

- ・現在は充足しているが、完成年度（2012年度）にならないと見えてこない。

（4）総合棟（1号館）

- ・余分なスペースがない。

（5）大教室A棟（2号館）

- ・ホールの椅子を机付きの椅子に変更してほしい。授業には対応できるが、試験用紙を広げられないため試験には対応できない。
- ・1フロア建て増しする場合には、円形芝生は継承するものとし、さらにペDESTリアンデッキとの接続は円滑に行われるようにしたい。

3. 教室設備面での検討

- ・ 総合棟、スポーツ健康学部棟のバリアフリー化。健常者にはささいな坂であっても、障がい者にとっては、実際には移動が大変になる。
- ・ ICカードによる出欠管理。

4. 教室運用面（建物を建てないで済むような方策）での検討

- ・ 社会学部事務課作成の教室回転率資料を元に議論した。
- ・ 金曜日の回転率が低い。考えられる理由として、金曜日には大学院の授業が市ヶ谷キャンパスで行われるため。
- ・ 他3学部においても、回転率調査資料の作成が望ましい。

5. 今後のスケジュール

- ・ 1月 教室問題（第2回）
- ・ 2月 食堂問題
※エッグ食堂問題の委員との連携を図る。
- ・ 3月 答申（案）作成

6. 次回

(1) 日時

- ・ 2011年1月21日（金）15:30～

(2) 場所

- ・ 総合棟4階 総務課会議室

(3) 議題

- ・ 各学部教室回転率
- ・ 食堂問題の情報収集
- ・ その他

以上

教室・食堂問題を考えるプロジェクトチーム会議（第3回）（議事メモ）

日時：2011年1月21日（金）15:30～17:00

場所：総合棟（1号館）4階 総務課会議室

出席者：（経済）竹口教授、三宅主任
（社会）荒井教授（座長）、平塚教授、澁澤主任
（現福）久保田教授、半妙主任
（ス健）高見准教授、照井次長
（学セ）佐藤課長
（総務）金子課長、堀内課員（事務局）
法政大学生協同組合（生協） 2名
新東京食堂株式会社（新東京） 2名

議事

1. 多摩キャンパスにおける物的諸条件に関する調査依頼

1/12に別紙文書を施設部へデータにて提出済み。3/15が回答期限。

- ・感触は不明である。施設部での調査には費用がかかるとのこと。
- ・3月の最終会議で調査結果を確認することは可能であるが、内容を議論することは難しい。

2. 前回議事メモ確認

3. 各学部での教室回転率調査

（1）経済学部

別紙資料について説明。調査対象は10号館（101～103、201～203）、11号館（205、206、304、305）の大教室、計10教室。

- ・100%以上のコマを黄色で表示。必修科目に入れられるのは1～3限となる。
- ・金曜日は教授会が開催されるため、兼任講師がメインとなる。
- ・全体としては中教室が不足している状況。

（2）現代福祉学部

別紙資料を元に説明。調査対象は17号館（201～204）の中教室、計4教室。同（301、302）及び7号館（B202）の大教室、計3教室。

- ・2010年度からのカリキュラム変更に伴い、文科省から「必修科目の設置」の指導があったため、キャンパティを超える教室を設定せざるを得なかった。
- ・2011年度から100%を超える教室はさらに増える予定。
- ・火曜日2限のコマについては、14号館（総合体育館）の201教室を使用しているため、学生への負担が特に大きい。

(3) 今回の調査結果を受けて

- ・学部間で曜日による回転率のばらつきがあることが判明したため、今後、学部間でより積極的に教室をしあう可能性についても検討したらどうか。

4. 食堂業者との懇談

(1) 生協

生協から別紙資料を元に説明。現在、6号館（社会）食堂、11号館（経済）食堂、16号館（エッグ）食堂・売店、17号館（現福）食堂の計5食堂を担当。

- ・多摩キャンパスへの全学移転を想定した厨房、ホール設備となっているため、人件費、光熱水費、清掃費が高くなる傾向がある。
- ・小金井のみ黒字、市ヶ谷、多摩は赤字。多摩は赤字が特に大きい。
- ・他大学の例だと、附属校の光熱水費を大学が負担するケースがある。

(2) 新東京

新東京から説明。現在、1号館（総合棟）食堂、14号館（体育館）食堂の計2食堂を担当。

a. 総合棟食堂について

- ・以前に比べて、売上は4割減少している。
- ・体育館まで路線バスが乗り入れたことが利用者激減の大きな要因。
- ・学生が総合棟食堂の存在に気付かないケースがある。
- ・セブンイレブンの開店により、さらに売上が落ち込んでいる。
- ・男子学生の食が細い。大盛りの注文が減り、小ライスの注文が増えている。
- ・以前は20：00まで営業していたが、利用者減少により14：00営業終了とした。現在は16：00までの営業となっている。
- ・ベルトコンベアー方式の下膳設備のため、洗い場要員として2名ほどを配置する必要があり、人件費増の原因となっている。

b. 体育館食堂について

- ・体育会、外部団体の利用があるため、学生の休みに関係なく通年営業している。ただし、営業時間は11：00～13：30。
- ・日曜日は事前申込があれば、営業している。
- ・体育会学生についても、全般的に食が細い。

5. エッグドーム食堂・売店運営協議会準備会との懇談

社会学部平塚教授より、別紙資料を元に、多摩キャンパスにおける食環境をめぐる現状と課題について、食堂問題に関連する箇所を説明。

(1) 食堂施設環境の点検について

- ・食堂施設は全学移転の予定人口に合わせて設計されている。
- ・したがって、人員配置、光熱水費、消耗品等、コスト高になる構造であり、社会学部・経済学部の食堂施設の構造的赤字になっているとの指摘があった。
- ・現代福祉学部には学生数に見合った食堂施設がないため、社会学部食堂が混雑する原因になっている。

(2) 食堂施設の修繕について

- ・社会学部・経済学部の食堂は、開設以来25年以上、本格的な修繕・改装がされていない。
- ・前理事会当時から、多摩キャンパスの長期修繕計画が進んでいるが、食堂施設の修繕は予算計上されていない。

(3) ペイできない構造について

- ・多摩キャンパスの人口規模（通常登校する学生数約6,000名）そのものからみて現在の食堂営業の環境が適当であるかの検討が必要である。

(4) 環境への予算配分について

- ・法政大学は、食環境への予算配分が最低ランクである。
- ・附属中高は2009年度から、厨房・事務室・客席・ホール部分が全て大学負担となっている。大学については、厨房・事務室部分が食堂業者負担となっている。附属中高と同様にならないのか。
- ・他大学では、食器類の消耗品を負担しているケースがある。

(5) エッグドーム食堂・売店の新規開業（2011年4月）について

食堂業者との業務委託は事業室の所管であるため、エッグドームから生協の撤退が決定した後、事業室にて業者選定を進める予定であった。社会学部と経済学部教授会から、教学側の意向を反映してほしいと法人に伝えた経緯がある。

- ・2011年4月からエッグドーム食堂業者の事業契約主体は、NPO法人やまぼうしになる。
- ・運営はエッグドーム食堂・売店運営協議会になる。
- ・店名は、「エッグドームスローワールド」であり、やまぼうしの「里山耕房くらさわ」を主とする事業所となる。
- ・人員はくらさわから派遣され、食材はやまぼうしの平山台事務室から届けられる。
- ・東京都の補助金が付与されるため、食堂としてのコスト計算は優先されていない。

6. 今後の検討について

今後の検討のために、以下の2点について施設部に、生協及び新東京食堂へヒヤリングを行ってもらい、そのうえでデータ提供を依頼する。

(1) 厨房部分も含む光熱水費額の現状

(2) 合理的経営のために考えられる食堂施設改善の課題（改善工事にかかる費用見積りも含め）

例えば、調理場・配善場・下善場の一本化、

下善方法の変更（ベルトコンベアー方式の廃止と別方式導入）のための施設改善など

7. 次回

(1) 日時

- ・2011年2月24日（木）13:30～

(2) 場所

- ・総合棟4階 総務課会議室

(3) 議題

- ・「教室問題」に関する答申内容（前回未審議のため）
- ・食堂問題 前回の懇談を踏まえた意見交換と答申に向けた内容検討
- ・答申に向けて
- ・その他

以 上

2010年12月21日

施設部長殿

教室・食堂問題を考えるプロジェクトチーム
座長 社会学部 荒井容子

多摩キャンパス教室不足問題解決策検討のための基礎調査のお願い

多摩4学部では2010年7月30日の4学部長連絡会で社会学部長による「教室・食堂問題を考えるプロジェクトチーム」立ち上げの提案(資料1)を受け、検討した結果、これを諮問文として、同名のプロジェクトチームを立ち上げました。

この間11月1日プロジェクトチーム会議(第1回)、12月10日プロジェクトチーム会議(第2回)を開催し、各学部からの現状報告とその検討を重ねた結果、教室問題については完成年度を迎えていないスポーツ健康学部を除く、3学部が深刻な教室不足に陥っていることが、4学部間で確認できました。「2011年度新築工事及び修繕工事予算要求」での教室棟の新築(2棟)の要求がだされたのは、この実態に即したものであったことも、4学部ともどもで確認できました。

ところで、教室棟の新築(2棟)の予算要求は2010年度も行って採択に至っていません。教室棟新築は一般に大きな工事であり、容易に予算への採択が実現しないことを考えるとき、私たちは新築以外の教室増の可能性、また新築の場合の建設地棟の具体的な可能性も、多摩キャンパスで日々仕事をする立場から、自らより具体的に検討して、4学部合意で多摩キャンパスの施設整備計画を提案する必要性を、話し合いの中で痛感しました。

そこで私たち自身の力で、4学部協力し合って、より合理的で、多摩キャンパスの景観・アメニティを後退させない施設計画を検討するために、まず、多摩キャンパスの建物増築の可能性と、新築する場合のスペースの確認を、正確に把握したいと考えました。

つきましては、以下の2項目の、それぞれの細目について、正確な情報を調査いただきたく、よろしくお願い申し上げます。

1. 増設工事について

過去、多摩キャンパスでは、経済学部棟、(現)スポーツ健康学部棟で増設工事を行った経験があります。そこで、私たちは教室増築の可能性を検討したいと考えています。下記の棟について増設可能か、可能な場合には、どのような条件において可能か(例えば、一層なら可能、二層でも可能等、増築可能な層数、また、増築する場合の面積の限定、増築施設の強度、増築後の当該建物及びその周辺の景観の変質などもふくめて)調査してください。

(1) 大教室A棟の上部の増設可能性。

増設できる場合には、一層に部屋を複数(二つ以上)設けることができるかどうか。

(なお、この棟を増設する場合には、現在の円形芝生と同じ体裁のものを増設施設の

上に設けることが可能かどうか。その円形芝生はペDESTリアンデッキとつなぐことができるかどうかをご検討ください。

- (2) 5号館（社会学部低層棟）2Fの上部
- (3) 7号館（大教室B棟）3Fの上
- (4) 10号館（経済学部C棟）3Fの上部
- (5) 17号館（現代福祉学部棟）3～4Fの上部

2. 新築工事について

下記エリアが新築可能なエリアかどうか調査をお願いします。

- (1) 経済学部棟南側プレイグラウンド
- (2) 8号館（経済学部A棟）北側駐車場上（1階を駐車場として使用）
- (3) 現代福祉学部棟南側プレイグラウンド
- (4) 社会学部棟と現代福祉学部棟の間の緑地

以 上

多摩キャンパス教室不足問題解決策検討のための基礎調査願いに関する回答について

昨日ご依頼のありました「多摩キャンパス教室不足問題解決策検討のための基礎調査のお願い」(以下基礎調査依頼)に関する回答を以下にまとめましたのでご確認をお願いいたします。

記

1. 内 容

2011年1月12日付けの基礎調査依頼では、1)建物増築の可能性について、2)建物新築の可能性について、ご確認がありました。それぞれ複数案についての可能性を検討いたしました。

2. 可能性に関する回答について

1) 建物増築の可能性について

建物増築については、過去①経済学部棟、②(旧)工学部棟での増築実績があります。また現在、③(現)スポーツ健康学部棟で増築工事が進行中です。そのうち①及び②については、当初から建物上部への増築を見込んだ設計(当初から増築状況での確認申請を取得済み)であったため、容易な増築が可能でした。

一方、③については、敷地がメインキャンパスとは別敷地であること、構造耐力他で既存建物に影響が無いこともあり、行政協議の結果増築を認めていただくことができました。

頂いた基礎調査依頼にあります(1)～(5)までの案では、構造耐力他で既存建物に著しい影響があること、メインキャンパスでの建築行為は一団地申請等、一般的な敷地にかかる以上の制約等がかかること、同規模の新築建物を建てる以上にコストがかかることに加え、建築行政の改革に伴う建築基準法等関連法規の改正後は、既存建物上部への増築は実質不可能な状態となっていること、などの理由からいずれも実現は困難であると思われます。

2) 建物新築の可能性について

建物新築に関しては、メインキャンパスでの建築行為は一団地申請等、一般的な敷地にかかる以上の制約等がかかり手続きが複雑ですが、基礎調査依頼でお示しいただいた(1)～(4)のいずれの案も実現は可能です。

ただし、(1)、(3)については既存校舎との連結動線について、配慮が必要となります。

また(2)、(4)については、隣接する教室等との離隔距離によっては既存建物の開口部等に改修が必要となります。

以上

2011年2月17日

施設部長殿

教室・食堂問題を考えるプロジェクトチーム
座長 社会学部 荒井容子

多摩キャンパス食堂問題解決策検討のための基礎調査のお願い

本プロジェクトチームから2011年1月12日付文書「多摩キャンパス教室不足問題解決策検討のための基礎調査のお願い」にて教室不足問題についてのお願いをさせていただきました。

その後、「食堂問題」について、2011年1月21日にプロジェクトチーム会議（第3回）を開催し、食堂問題について各学部からの現状報告とその検討、並びに食堂業者との懇談を重ねてきました。その結果、現在、食堂増築工事が実施されている18号館（スポーツ健康学部棟）食堂を除く、法政大学生生活協同組合、新東京食堂株式会社の2業者計7食堂において、食堂施設環境の深刻な構造的赤字に陥っている可能性があることが4学部間で確認できました。

一方で、社会学部、経済学部の食堂は、開設以来25年以上、本格的な修繕・改装が行われていないにも関わらず、多摩キャンパスの長期修繕計画において食堂施設の修繕は盛り込まれていないことも確認できました。

そこで私たち自身の力で、4学部協力し合って、多摩キャンパスにおける学生の食の保証を確保するための食堂施設計画を検討するために、まず、食堂業者の光熱水費負担への改善策としての大学からの補助と、故障発生頻度が高くメンテナンス経費が大きい、食堂施設のベルトコンベア方式下膳設備の改善を、今後の検討課題とすることを考えました。

つきましては、以下の2項目について、正確な情報を調査いただきたく、よろしくお願い申し上げます。

1. 食堂業者の光熱水費負担について

法政大学生生活協同組合、新東京食堂株式会社が営業する以下の食堂施設（厨房・事務室部分）に対する光熱水費の請求額（2008、2009年度実績）をご提供願います。

（1）法政大学生生活協同組合

- ①6号館食堂（社会学部棟）
- ②9号館食堂（経済学部棟）
- ③11号館食堂（経済学部棟）
- ④17号館食堂（現代福祉学部）
- ⑤EGG ドーム軽食堂（EGGDOME）

(2) 新東京食堂株式会社

⑥総合棟 1F 食堂 (総合棟)

⑦体育館食堂 (総合体育館)

注1) 食堂のうち、客席・ホール部分の光熱水費は大学負担 (2008年度までは客席・ホール部分についても業者負担)。

注2) 売店部分の光熱水費は、大学負担 (2008年度までは業者負担)。

2. 食堂施設のベルトコンベアー方式下膳設備の改善について

下記食堂施設のベルトコンベアー方式下膳設備を、より効率的・故障発生頻度が低い、かつ専門の要員を配置する必要がない (人件費がかからない) 方式へ交換可能かどうか調査、併せて既存食堂設備の改修・改装要望について2食堂業者へのヒアリングをお願いします。

(1) 法政大学生生活協同組合

①6号館食堂 (社会学部棟)

②9号館食堂 (経済学部棟)

③11号館食堂 (経済学部棟)

(2) 新東京食堂株式会社

④総合棟 1F 食堂 (総合棟)

以 上

資料番号44-1

2010年度他大学における食堂の負担区分

2011.3.4 現在

大学名	主な食堂業者	水光熱費		清掃		備考
		厨房	ホール	厨房	ホール	
早稲田大学	生協	業者	大学	業者	大学※	※ホール部分の清掃の基本は、大学負担だが、食堂により業者負担の場合もある
中央大学	生協	大学/業者	大学	業者	業者	厨房の水光熱費は二分の一で折半。食堂により異なるケースもある。
青山学院大学	アイビー・シー・エス	業者	大学	業者	大学	
日本大学(経済)	アイビー・シー・エス	大学	大学	業者	大学	
武蔵野美術大学(小平)	アイビー・シー・エス	業者	大学	業者	大学	
北里大学	アイビー・シー・エス	業者	大学	業者	大学	
学習院大学 (大学・女子大・男子中高)	アイビー・シー・エス	業者	大学	業者	大学	
東洋大学	スエヒロ	大学/業者	大学	業者	大学	2010年度より厨房水光熱費は大学25%、テナント75%の按分
東京工科大学(八王子・蒲田)	スエヒロ	業者	大学	業者	大学	
立正大学(大崎)	スエヒロ	業者	大学	業者	大学	
上智大学(四ツ谷)	スエヒロ	業者	大学	業者	大学	
東京工業大学(大岡山)	東京ケータリング	業者	大学	業者	大学	2011年3月終了 → シダックス
明治学院大学	東京ケータリング	業者	大学	業者	大学	
大東文化大学	東京ケータリング	業者	大学	業者	大学	
明海大学(浦安)	東京ケータリング	業者	大学	業者	大学	売上が少ないため、大学が水光熱費の一部を補助をする
明治大学(生田)	東京ケータリング	大学	大学	業者	大学	厨房の水光熱費は2010年度途中より大学負担とし、値下げやメニュー増加を促進させている。
国際基督大学	東京ケータリング	業者	大学	業者	大学	
法政大学		業者	大学	業者	大学	2009年度よりホール部分は全て大学負担となった。

『ホール』とは喫食スペース・食堂部分のこと、『厨房』にはテナント業者の事務室も含まれる。

2008年度食堂業者 水光熱費負担金額一覧表

棟	業者名	2008年度(上半期)		2008年度(下半期)		2008年度計		
		電気料	水道料	電気料	水道料	電気料	水道料	電+水
1号館	新東京食堂	353,686	165,906	349,050	172,232	702,736	338,138	1,040,874
6号館	生協	1,514,295	266,554	1,406,356	226,518	2,920,651	493,072	3,413,723
11号館	生協	574,702	598,360	419,899	550,909	994,601	1,149,269	2,143,870
14号館	新東京食堂	321,589	240,117	296,703	185,480	618,292	425,597	1,043,889
16号館	生協	382,624	89,135	360,198	77,785	742,822	166,920	909,742
17号館	生協	175,513	52,457	259,886	47,867	435,399	100,324	535,723
計		3,322,409	1,412,529	3,092,092	1,260,791	6,414,501	2,673,320	9,087,821

2009年度食堂業者 水光熱費負担金額一覧表

棟	業者名	2009年度(上半期)		2009年度(下半期)		2009年度計		
		電気料	水道料	電気料	水道料	電気料	水道料	電+水
1号館	新東京食堂	303,567	124,152	262,601	171,621	566,168	295,773	861,941
6号館	生協	1,377,629	169,457	1,060,528	304,390	2,438,157	473,847	2,912,004
11号館	生協	753,536	386,089	595,337	453,383	1,348,873	839,472	2,188,345
14号館	新東京食堂	232,606	155,043	150,182	163,083	382,788	318,126	700,914
16号館	生協	281,896	53,071	189,018	52,937	470,914	106,008	576,922
17号館	生協	242,892	39,726	181,414	42,691	424,306	82,417	506,723
計		3,192,126	927,538	2,439,080	1,188,105	5,631,206	2,115,643	7,746,849

※参考

棟	業者名	2009年度(上半期)			2009年度(下半期)			2009年度計			
		電気料	水道料	ガス	電気料	水道料	ガス	電気料	水道料	ガス	電+水+ガ
18号館	エームサービス	206,844	107,973	212,100	173,629	131,061	223,939	380,473	239,034	436,039	1,055,546

経済学部収容定員オーバー科目(62科目)

	授業コード	科目コード	科目漢字名称	履修期	曜日	時限	教室名称	収容定員	全体合計
1	K5269	AC530	社会学A	前期授業	月曜	4時限	多経済-101	405	467
2	K5270	AC531	社会学B	後期授業	月曜	4時限	多経済-101		448
3	K6160	Z3F26	経済地理A	前期授業	火曜	1時限	多経済-101		908
4	K6161	Z3F27	経済地理B	後期授業	火曜	1時限	多経済-101		872
5	K6066	Z3E33	金融論A	前期授業	火曜	2時限	多経済-101		546
6	K6068	Z3E34	金融論B	後期授業	火曜	2時限	多経済-101		524
7	K6243	Z3J29	社会保障論A	前期授業	火曜	3時限	多経済-101		429
8	K6244	Z3J30	社会保障論B	後期授業	火曜	3時限	多経済-101		429
9	K6152	Z3F20	経済人類学A	前期授業	水曜	3時限	多経済-101		477
10	K6153	Z3F21	経済人類学B	後期授業	水曜	3時限	多経済-101		474
11	K5265	AC528	法学(日本国憲法1単位含む)A	前期授業	水曜	4時限	多経済-101		536
12	K5266	AC529	法学(日本国憲法1単位含む)B	後期授業	水曜	4時限	多経済-101		530
13	K6055	Z3E27	日本経済論A	前期授業	木曜	1時限	多経済-101		503
14	K6057	Z3E28	日本経済論B	後期授業	木曜	1時限	多経済-101		504
15	K6017	Z3E03	経済史	年間授業	木曜	2時限	多経済-101		657
16	K5157	AC504	文章表現A	前期授業	月曜	1時限	多経済-102	517	847
17	K5158	AC505	文章表現B	後期授業	月曜	1時限	多経済-102		841
18	K5175	AC516	民俗学A	前期授業	月曜	2時限	多経済-102		645
19	K5176	AC517	民俗学B	後期授業	月曜	2時限	多経済-102		638
20	K5273	AC532	心理学A	前期授業	火曜	3時限	多経済-102		584
21	K5274	AC533	心理学B	後期授業	火曜	3時限	多経済-102		577
22	K6016	Z3E03	経済史	年間授業	水曜	2時限	多経済-102		577
23	K6098	Z3E49	西洋経済史A	前期授業	木曜	1時限	多経済-102		799
24	K6099	Z3E50	西洋経済史B	後期授業	木曜	1時限	多経済-102		774
25	K5357	AC538	地学A	前期授業	金曜	2時限	多経済-102		538
26	K6196	Z3G47	日本文化論	後期授業	月曜	2時限	多経済-103	405	448
27	K5111	Z3B01	日本文学	前期授業	月曜	3時限	多経済-103		925
28	K6050	Z3E25	現代経済学応用A	前期授業	火曜	3時限	多経済-103		598
29	K6052	Z3E26	現代経済学応用B	後期授業	火曜	3時限	多経済-103		541
30	K6058	Z3E29	国際経済論A	前期授業	水曜	2時限	多経済-103		584
31	K6060	Z3E30	国際経済論B	後期授業	水曜	2時限	多経済-103		572
32	K6104	Z3E56	企業経営入門	年間授業	水曜	3時限	多経済-103		445
33	K6013	Z3832	簿記	年間授業	月曜	2時限	多経済-201	305	375
34	K6234	Z3J20	社会政策論B	後期授業	月曜	3時限	多経済-201		365
35	K6166	Z3F32	現代アジア経済論A	前期授業	火曜	3時限	多経済-201		427
36	K6167	Z3F33	現代アジア経済論B	後期授業	火曜	3時限	多経済-201		429

37	K6223	Z3J09	環境政策論A	前期授業	水曜	2時限	多経済-201		326
38	K6224	Z3J10	環境政策論B	後期授業	水曜	2時限	多経済-201		328
39	K6229	Z3J03	経済政策論A	前期授業	火曜	2時限	多経済-202	305	389
40	K6230	Z3J04	経済政策論B	後期授業	火曜	2時限	多経済-202		368
41	K6040	Z3E21	社会経済学基礎	年間授業	水曜	3時限	多経済-202		343
42	K6155	Z3F22	環境経済論A	前期授業	木曜	2時限	多経済-202		364
43	K6157	Z3F23	環境経済論B	後期授業	木曜	2時限	多経済-202		354
44	K6197	Z3G48	外国の文化と思想A	前期授業	火曜	1時限	多経済-203	305	482
45	K6198	Z3G49	外国の文化と思想B	後期授業	火曜	1時限	多経済-203		476
46	K6206	Z3G57	自然環境論A	前期授業	火曜	2時限	多経済-203		363
47	K6208	Z3G58	自然環境論B	後期授業	火曜	2時限	多経済-203		374
48	K6221	Z3J07	公共経済論A	前期授業	水曜	3時限	多経済-203		399
49	K6222	Z3J08	公共経済論B	後期授業	水曜	3時限	多経済-203		385
50	K6168	Z3F34	中国経済論A	前期授業	月曜	2時限	多経済-205	165	309
51	K6169	Z3F35	中国経済論B	後期授業	月曜	2時限	多経済-205		260
52	K6150	Z3F18	国際関係論A	前期授業	木曜	2時限	多経済-206	165	267
53	K6151	Z3F19	国際関係論B	後期授業	木曜	2時限	多経済-206		269
54	K6251	Z3J35	企業金融論A	前期授業	月曜	1時限	多経済-304	165	268
55	K6252	Z3J36	企業金融論B	後期授業	月曜	1時限	多経済-304		276
56	K6245	Z3J31	産業組織論A	前期授業	水曜	1時限	多経済-304		630
57	K6246	Z3J32	産業組織論B	後期授業	水曜	1時限	多経済-304		638
58	K6247	Z3J33	金融各論ⅠA	前期授業	水曜	2時限	多経済-304		258
59	K6249	Z3J34	金融各論ⅠB	後期授業	水曜	2時限	多経済-304		266
60	K6132	Z3E80	企業経営史A	前期授業	木曜	3時限	多経済-304		273
61	K6133	Z3E81	企業経営史B	後期授業	木曜	3時限	多経済-304		268
62	K6267	Z3M09	国際貿易論	前期授業	水曜	1時限	多経済-305	135	139

社会学部収容定員オーバー科目(37科目)

	科目漢字名称	曜時	教室	収容定員	受講者数	授業コード	履修期	代表教員漢字氏名
1	現代社会と宗教Ⅰ	火3	B201	460	487	L0073	前期授業	岡野 守也
2	現代社会と宗教Ⅱ	火3	B201		464	L0074	後期授業	岡野 守也
3	ウェブメディア論[MCC]	金2	B201		527	L0732	前期授業	土橋 臣吾
4	歴史社会学Ⅰ[HSC]	水2	B201		684	L0692	前期授業	鈴木 智道
5	発達・教育の理論Ⅰ[HSC]	木2	B201		547	L0678	前期授業	平塚 眞樹
6	政治学理論Ⅰ[BT]	木4	B201		580	L0780	前期授業	白鳥 浩
7	政治学理論Ⅱ[BT]	木4	B201		580	L0781	後期授業	白鳥 浩
8	現代史Ⅰ	水4	B301	740	908	L0054	前期授業	相良 匡俊
9	現代史Ⅱ	水4	B301		754	L0055	後期授業	相良 匡俊
10	教職入門	火4	社102	149	233	L3101	後期授業	加美 越生
11	都市政策論[CDL]	月3	社102		298	L0661	後期授業	長谷部 俊治
12	教育心理学	木2	社102		232	L3107	前期授業	中島 浩壽
13	教育相談	木2	社102		229	L3109	後期授業	中島 浩壽
14	メディア社会論Ⅰ[MSC]	月3	社201	375	389	L0701	前期授業	津田 正太郎
15	公共性とCommunicationⅠ[MSC]	木3	社201		497	L0705	前期授業	鈴木 宗徳
16	公共性とCommunicationⅡ[MSC]	木3	社201		536	L0706	後期授業	鈴木 宗徳
17	スポーツ社会学[HSC]	火1	社202	270	436	L0690	前期授業	越部 清美
18	日本経済論[BIC]	火4	社202		322	L0634	前期授業	山岡 通宏
19	国際関係論[ISC]	月3	社202		356	L0753	前期授業	東郷 育子
20	国際法	月3	社202		311	L0098	後期授業	片柳 真理
21	音楽社会学Ⅰ[MCC]	月4	社202		302	L0737	前期授業	湯川 新
22	音楽社会学Ⅱ[MCC]	月4	社202		294	L0738	後期授業	湯川 新
23	ジェンダー論[HSC]	水3	社202		556	L0686	後期授業	柳 蓮淑
24	教育原理	火3	社301	153	173	L3105	前期授業	御園生 純
25	経済政策論[BIC]	火4	社301		317	L0633	後期授業	山岡 通宏
26	環境倫理	金3	社301		374	L0065	後期授業	山村 陽子
27	身体論	月1	社301		203	L0066	後期授業	越部 清美
28	教育方法論	土2	社301		201	L3122	後期授業	酒井 英光
29	社会政策科学入門A	木2	社301		157	L0553	後期授業	白鳥 浩
30	コミュニティ形成論[EPC]	木3	社301		279	L0612	前期授業	樋口 明彦
31	比較生活文化論	木3	社301		164	L0060	後期授業	謝 荔
32	社会学史Ⅰ[GSP]	火3	社302	153	308	L0907	前期授業	今野 晃
33	地域研究(北米)[ISC]	金4	社302		160	L0766	前期授業	増田 正人
34	国際社会論	月1	社302		165	L0096	前期授業	吉村 真子
35	社会ネットワーク論Ⅱ[BIC]	水3	社302		166	L0641	後期授業	宇野 齊
36	外書講読(英語)1-Ⅱ[PLP]	水3	社303	72	425	L0837	後期授業	相良 匡俊
37	生徒・進路指導論	土1	社402	56	129	L3116	後期授業	宮下 聡

現代福祉学部収容定員オーバー科目(22科目)

	代表科目漢字名称	曜時	開講期	担当教員氏名	教室名称		受講者数
1	統計学	水曜2時限	後期授業	佐藤 金吾	多現福-201	63	73
2	現代倫理	金曜1時限	後期授業	神島 裕子	多現福-202	63	124
3	専門演習Ⅲ	金曜4時限	年間授業	末武 康弘	多現福-211	22	24
4	専門演習Ⅲ	火曜4時限	年間授業	久保田 幹子	多現福-212		29
5	専門演習Ⅲ	金曜4時限	年間授業	関司 直也	多現福-212		31
6	専門演習Ⅲ	水曜4時限	年間授業	片桐 徹也	多現福-213		28
7	専門演習Ⅲ	木曜4時限	年間授業	石井 享子	多現福-213		24
8	専門演習Ⅲ	火曜4時限	年間授業	廣田 明	多現福-214		24
9	専門演習Ⅲ	木曜4時限	年間授業	伊藤 正子	多現福-216		29
10	英語5B	火曜3時限	後期授業	キャシー バード	多現福-217		25
11	ソーシャルワークⅢ	月曜3時限	後期授業	伊藤 正子	多現福-301	141	149
12	現代福祉論	水曜1時限	前期授業	大山 博	多現福-301		164
13	都市住宅政策論Ⅰ	水曜3時限	前期授業	海老塚 良吉	多現福-301		153
14	都市住宅政策論Ⅱ	水曜3時限	後期授業	海老塚 良吉	多現福-301		166
15	地域経営	木曜3時限	後期授業	岡崎 昌之	多現福-301		172
16	カウンセリングⅠ	金曜1時限	前期授業	清水 幹夫	多現福-301		155
17	家族福祉論	月曜2時限	後期授業	小林 理	多現福-302	141	169
18	社会思想史	火曜3時限	後期授業	廣田 明	多現福-302		225
19	認知心理学	水曜3時限	前期授業	石原 正規	多現福-302		145
20	地域ツーリズム	金曜1時限	前期授業	毛塚 宏	多現福-302		151
21	コンピュータ入門Ⅰ	金曜1時限	前期授業	名兎耶 厚	多現福-コンピ実	50	52
22	法学	金曜3時限	前期授業	清水 弥生	多社会-102	149	152

経済学部講義科目教室回転率

※講義コマ数/10(=経101・102・103・201・202・203・205・206・304・305の10教室)
 (語学・体育・演習・実習・教職資格科目・その他受講許可科目を除いた科目)

2002

		月				火				水				木				金				土			
		2007	2008	2009	2010	2007	2008	2009	2010	2007	2008	2009	2010	2007	2008	2009	2010	2007	2008	2009	2010	2007	2008	2009	2010
1限	前期	40%	80%	80%	80%	90%	100%	80%	80%	90%	80%	50%	100%	70%	100%	70%	100%	20%	10%	10%	20%	0%	0%	0%	0%
	後期	50%	80%	80%	70%	110%	80%	90%	70%	90%	90%	60%	90%	80%	100%	70%	100%	20%	10%	10%	20%	0%	0%	0%	0%
2限	前期	70%	60%	80%	80%	120%	110%	140%	120%	120%	100%	100%	100%	110%	110%	100%	130%	30%	0%	30%	30%	0%	0%	0%	0%
	後期	90%	70%	90%	90%	140%	130%	130%	120%	110%	80%	100%	90%	100%	120%	120%	140%	30%	10%	30%	40%	0%	0%	0%	0%
3限	前期	80%	90%	90%	90%	120%	120%	130%	120%	100%	140%	120%	130%	100%	120%	120%	100%	20%	20%	20%	30%	0%	0%	0%	0%
	後期	80%	80%	90%	90%	120%	120%	130%	120%	120%	120%	130%	140%	110%	120%	120%	100%	20%	10%	30%	30%	0%	0%	0%	0%
4限	前期	20%	10%	10%	20%	40%	40%	20%	10%	50%	60%	30%	10%	40%	30%	20%	0%	50%	50%	30%	40%	0%	0%	0%	0%
	後期	20%	10%	10%	20%	40%	30%	20%	10%	50%	50%	30%	10%	40%	30%	10%	10%	40%	40%	30%	30%	0%	0%	0%	0%
5限	前期	0%	0%	0%	0%	10%	0%	10%	0%	10%	10%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
	後期	0%	0%	0%	0%	10%	0%	0%	0%	10%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	10%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
	前期計	42%	48%	52%	54%	76%	74%	76%	66%	74%	78%	60%	68%	64%	72%	62%	66%	24%	16%	18%	24%	0%	0%	0%	0%
	後期計	48%	48%	54%	54%	84%	72%	74%	64%	76%	68%	64%	66%	66%	74%	64%	72%	22%	14%	20%	24%	0%	0%	0%	0%
	合計	45%	48%	53%	54%	80%	73%	75%	65%	75%	73%	62%	67%	65%	73%	63%	69%	23%	15%	19%	24%	0%	0%	0%	0%

社会学部講義科目教室回転率

※講義コマ数/7(=社102・201・202・301・302・B201・B301の7教室)

(語学・体育・演習・実習・教職資格・その他受講許可科目を除いた科目、ただし外書講読は各プログラムの科目であるためカウントした)

		月				火				水				木				金				土			
		2007	2008	2009	2010	2007	2008	2009	2010	2007	2008	2009	2010	2007	2008	2009	2010	2007	2008	2009	2010	2007	2008	2009	2010
1限	前期	57%	71%	71%	71%	114%	100%	114%	143%	71%	29%	57%	43%	100%	114%	100%	57%	57%	29%	14%	43%	0%	0%	0%	0%
	後期	86%	100%	57%	57%	71%	57%	71%	100%	71%	14%	29%	43%	86%	114%	100%	57%	71%	43%	29%	43%	0%	0%	0%	0%
2限	前期	100%	114%	114%	71%	143%	143%	100%	86%	114%	114%	100%	86%	100%	100%	86%	100%	57%	29%	29%	43%	0%	0%	0%	0%
	後期	100%	114%	71%	86%	143%	143%	86%	86%	100%	100%	86%	71%	129%	100%	86%	86%	57%	57%	43%	71%	0%	0%	0%	0%
3限	前期	86%	100%	100%	100%	57%	57%	71%	71%	129%	100%	100%	100%	100%	114%	114%	114%	160%	57%	71%	57%	0%	0%	0%	0%
	後期	86%	100%	100%	100%	57%	43%	86%	71%	86%	71%	86%	86%	100%	100%	100%	100%	71%	71%	71%	43%	0%	0%	0%	0%
4限	前期	86%	57%	86%	57%	14%	57%	29%	71%	129%	129%	114%	71%	114%	129%	129%	100%	57%	57%	29%	43%	0%	0%	0%	0%
	後期	86%	86%	86%	57%	14%	43%	29%	57%	129%	114%	129%	114%	129%	129%	100%	86%	57%	71%	43%	57%	0%	0%	0%	0%
5限	前期	0%	14%	29%	86%	0%	0%	0%	14%	14%	14%	14%	29%	14%	0%	14%	43%	0%	0%	14%	0%	0%	0%	0%	0%
	後期	0%	29%	29%	57%	0%	0%	14%	0%	14%	29%	14%	29%	29%	14%	0%	29%	29%	29%	14%	29%	0%	0%	0%	0%
	前期計	66%	71%	80%	77%	66%	71%	63%	77%	91%	77%	77%	66%	86%	91%	89%	83%	54%	34%	31%	37%	0%	0%	0%	0%
	後期計	71%	86%	69%	71%	57%	57%	57%	63%	80%	66%	69%	69%	94%	91%	77%	71%	57%	54%	40%	49%	0%	0%	0%	0%
	合計	69%	79%	74%	74%	61%	64%	60%	70%	86%	71%	73%	67%	90%	91%	83%	77%	56%	44%	36%	43%	0%	0%	0%	0%

※時間割調整について

講義科目は受講者数が読めないため、中教室以上に配置することを前提に時間割を調整する。

社会学部棟の中教室は5教室、B棟は3教室あるが、このうち現代福祉が1～2教室を使用を希望するため、

1時限あたりの配置コマ数は6～7コマが限度となってしまう。

月～木の2～4限が過密となっているので、この調整が必要である。

また、出講アンケートでは前期開講希望が傾向として多いので、前期後期の開講コマ数のバランスを取ることも必要である。

なお、1限・5限については、学生も履修を敬遠するので、必修科目の配置や、クラス指定等による誘導が必要である。

2010. かなづみ 2010
 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12)

150名 130名 270名

B1B2B3

現代福祉学部・人間社会研究科 講義課目教室回転率(2008-2010年度)
 (※各コマでの教室使用数を教室数で割ったもの。単位は%)

2011.1.21 現代福祉学部事務課

中教室(福201・202・203・204) $=n \div 4 \times 100$

	月	火			水			木			金			土					
		2008	2009	2010	2008	2009	2010	2008	2009	2010	2008	2009	2010	2008	2009	2010			
1	前	0	25	25	100	100	100	75	75	75	25	50	25	100	100	100	25	0	25
	後	25	25	25	100	100	100	50	50	50	25	50	25	100	50	75	0	25	25
2	前	0	0	50	125	125	100	25	50	75	125	75	75	150	150	100	25	0	50
	後	25	0	25	125	125	100	75	100	100	125	75	75	150	150	150	50	0	25
3	前	25	25	25	100	100	100	25	0	0	100	100	100	150	125	125	0	0	0
	後	50	50	25	100	100	125	25	0	0	75	50	50	150	125	125	0	0	75
4	前	100	100	125	50	75	25	25	25	0	100	100	100	150	125	125	0	0	0
	後	50	100	100	25	100	50	25	0	0	100	100	100	150	125	125	0	0	0
5	前	100	100	100	25	50	25	25	25	50	50	50	50	75	25	75	0	0	0
	後	0	0	0	50	75	25	25	25	50	75	50	50	100	100	75	0	0	0

<中教室について>

定員は201~204教室いずれも63名。

主に語学・実習関連授業・小規模授業に使用するため、語学が多い時間帯とソーシャルワーク実習が多い時間帯は回転率が高くなる。教室が不足した場合は総合棟および社会学部棟の教室を使用することになるが、休憩時間の移動となるため、学生の負担となる。

大教室(福301・302(定員141名)・B202(定員460名)) $=n \div 3 \times 100$

	月	火			水			木			金			土					
		2008	2009	2010	2008	2009	2010	2008	2009	2010	2008	2009	2010	2008	2009	2010			
1	前	100	100	100	0	66	66	33	33	100	33	33	33	100	100	100	0	0	0
	後	66	133	33	0	33	0	0	66	100	66	33	33	100	100	66	0	0	0
2	前	66	66	33	66	100	66	33	66	66	100	33	66	100	66	66	66	0	66
	後	33	66	100	66	100	133	33	33	33	100	33	66	100	66	66	33	33	33
3	前	100	100	166	100	100	66	100	33	100	100	66	33	100	100	100	0	0	0
	後	100	66	66	100	100	100	100	133	66	0	33	66	66	33	100	0	0	0
4	前	100	100	100	66	100	33	33	33	33	66	100	66	100	100	100	0	0	0
	後	66	33	66	66	33	0	0	0	33	33	0	66	66	33	0	0	0	0
5	前	33	33	66	0	0	0	0	0	0	66	66	33	33	33	0	0	0	0
	後	33	0	33	0	0	0	0	0	0	66	66	33	33	33	0	0	0	0

<大教室について>

定員は福祉301・302が141名(+予備机・補助イス)、B棟202教室が460名。

多人数の講義科目に使用されるが、国家試験受験のための指定科目や必修科目は多くの場合現代福祉学部棟の教室では収容できない場合が多い。

教室が不足した場合は社会学部棟やB棟201教室を使用することになるが、社会学部の教室確保とぶつかり、今年度はさらなる不足のため体育棟を使用する事態となっており、学生への負担をさらに強いる状態となっている。

現代福祉学部棟301・302教室は予備机・補助イスにより収容数の確保に努めているが、慢性的な座席数不足は学生のリアクションペーパーにも不満が現れることが少なくない。

180

2010年12月10日

教室・食堂問題を考えるプロジェクト 資料

教室問題に関する論点について（メモ）

社会学部事務課 渋沢

1. 受講者数の動向について（時限別受講者数および受講率）

2限・3限・4限は、各曜日ともおおむね50%を超える学生が履修登録を行っている。おおむね、開講コマ数が多い曜日・時限ほど、選択肢が広がるために学生の受講率は上昇するものと思われる。

一方、火曜午後については教授会があるため専任が授業を担当しない結果、開講コマ数が少なく履修登録が減少する。また、金曜日についても開講コマ数・受講者数ともに他曜日と比較して少ない傾向があるが、これは、専任が大学院を金曜日に担当することが多いために開講数が少ない、という説や、学生・教員（非常勤含）が金土日と三連休にしたいから、という説がある。

大・中教室（7教室）の座席数は2300席であり、2010年度の水曜3限前期・木曜3限前期は総座席数でオーバーしている状況である。また、個別の科目で見たときにも、どの教室を交換しても、前期の木曜3限についてはどこを交換しても定員オーバーになる、という状況であった。

2. 教室回転率（時限別開講コマ数および教室回転率）

社会学部では1999年以前までは社会101・102・201・202・301・302・B201・B202・B301の9教室を使用できた。しかし、2000年の現代福祉学部開設に伴い現代福祉学部もB棟や社会学部低層棟教室を使用することになったこと、また、101教室がメディア社会学科設置に伴いメディア実習室に変更となったため、社会学部が使用できる大・中教室は1時限あたり6～7教室となっている。

教室回転率のうち、100%を超える時限は2～3限に集中している。1限については学生も教員も選択を敬遠し、また、4・5限はゼミの開講ゾーンとなっているため専任教員が担当できず、結果として開講コマ数が少ない。

3. 教室調整の困難

いくつかの時限で、どのような教室変更を行っても教室収容定員に収まらない、という授業がいくつか出てしまっている。教室定員はさまざまであるが、履修登録者数はそれに対応せず、自然に収まるということは期待できない。結果、教室変更も限界となり、収容定員が超過したまま学期末を迎える授業がいくつか存在する。

また、教員も学生も、B棟のような大教室を避けたがる。B棟301は740名だが、教員にとって授業はしにくく、また、学生も授業に集中できず私語が多発する、などの問題が出ている。また、大教室の音響の悪さも、学生へのアンケート調査や教員から事務への苦情などで、確認されている。

4. 中規模教室設置要求

論点としては、定員超過の解消だけでなく、教員にとっての授業のしやすさ=学生にとっての授業の受けやすさ、を追及することが重要であると考え。そのための中規模教室、ということになるのではないだろうか。ハード面では建設であるが、同時に、ソフト面では、大規模授業解消のためのカリキュラム上の工夫（学科・クラス指定制の導入など）や、授業環境をどのようにデザインしていくか、という理念面での検討が必要ではないだろうか。

以上

社会学部講義科目教室回転率

※講義コマ数／7(=社102・201・202・301・302・B201・B301の7教室)

(語学・体育・演習・実習・教職資格・その他受講許可科目を除いた科目、ただし外書講読は各プログラムの科目であるためカウントした)

		月				火				水				木				金				土			
		2007	2008	2009	2010	2007	2008	2009	2010	2007	2008	2009	2010	2007	2008	2009	2010	2007	2008	2009	2010	2007	2008	2009	2010
1限	前期	57%	71%	71%	71%	114%	100%	114%	143%	71%	29%	57%	43%	100%	114%	100%	57%	57%	29%	14%	43%	0%	0%	0%	0%
	後期	86%	100%	57%	57%	71%	57%	71%	100%	71%	14%	29%	43%	86%	114%	100%	57%	71%	43%	29%	43%	0%	0%	0%	0%
2限	前期	100%	114%	114%	71%	143%	143%	100%	86%	114%	114%	100%	86%	100%	100%	86%	100%	57%	29%	29%	43%	0%	0%	0%	0%
	後期	100%	114%	71%	86%	143%	143%	86%	86%	100%	100%	86%	71%	129%	100%	86%	86%	57%	57%	43%	71%	0%	0%	0%	0%
3限	前期	86%	100%	100%	100%	57%	57%	71%	71%	129%	100%	100%	100%	100%	114%	114%	114%	100%	57%	71%	57%	0%	0%	0%	0%
	後期	86%	100%	100%	100%	57%	43%	86%	71%	86%	71%	86%	86%	100%	100%	100%	100%	71%	71%	71%	43%	0%	0%	0%	0%
4限	前期	86%	57%	86%	57%	14%	57%	29%	71%	129%	129%	114%	71%	114%	129%	129%	100%	57%	57%	29%	43%	0%	0%	0%	0%
	後期	86%	86%	86%	57%	14%	43%	29%	57%	129%	114%	129%	114%	129%	129%	100%	86%	57%	71%	43%	57%	0%	0%	0%	0%
5限	前期	0%	14%	29%	86%	0%	0%	0%	14%	14%	14%	14%	29%	14%	0%	14%	43%	0%	0%	14%	0%	0%	0%	0%	
	後期	0%	29%	29%	57%	0%	0%	14%	0%	14%	29%	14%	29%	29%	14%	0%	29%	29%	29%	14%	29%	0%	0%	0%	0%
	前期計	66%	71%	80%	77%	66%	71%	63%	77%	91%	77%	77%	66%	86%	91%	89%	83%	54%	34%	31%	37%	0%	0%	0%	0%
	後期計	71%	86%	69%	71%	57%	57%	57%	63%	80%	66%	69%	69%	94%	91%	77%	71%	57%	54%	40%	49%	0%	0%	0%	0%
	合計	69%	79%	74%	74%	61%	64%	60%	70%	86%	71%	73%	67%	90%	91%	83%	77%	56%	44%	36%	43%	0%	0%	0%	0%

※時間割調整について

講義科目は受講者数が読めないため、中教室以上に配置することを前提に時間割を調整する。

社会学部棟の中教室は5教室、B棟は3教室あるが、このうち現代福祉が1～2教室を使用を希望するため、

1時限あたりの配置コマ数は6～7コマが限度となってしまう。

月～木の2～4限が過密となっているので、この調整が必要である。

また、出講アンケートでは前期開講希望が傾向として多いので、前期後期の開講コマ数のバランスを取ることも必要である。

なお、1限・5限については、学生も履修を敬遠するので、必修科目の配置や、クラス指定等による誘導が必要である。

社会学部主催科目開講コマ数
(通年科目は前期・後期それぞれにカウント)

		月				火				水				木				金				土			
		2007	2008	2009	2010	2007	2008	2009	2010	2007	2008	2009	2010	2007	2008	2009	2010	2007	2008	2009	2010	2007	2008	2009	2010
1限	前期	21	24	23	22	34	29	30	31	22	21	22	19	10	10	10	7	30	17	18	18	1	0	0	0
	後期	24	26	22	21	31	26	26	28	25	18	20	19	9	10	10	8	31	18	19	19	2	1	1	1
2限	前期	25	30	27	26	32	33	32	29	34	36	34	31	13	12	12	13	39	33	32	33	2	2	2	4
	後期	24	31	25	29	32	33	32	28	35	35	33	31	15	12	12	12	39	34	33	35	1	1	1	3
3限	前期	26	30	31	31	13	13	12	12	27	26	23	22	23	21	20	18	39	41	35	37	0	0	0	0
	後期	26	30	32	29	13	12	14	13	23	24	22	24	22	21	19	18	37	41	35	35	0	0	0	0
4限	前期	30	33	32	33	4	11	4	8	27	27	26	27	28	25	26	27	32	39	37	35	0	0	0	0
	後期	29	33	32	33	8	10	5	8	27	25	28	33	30	26	25	27	39	39	38	35	3	3	2	2
5限	前期	19	14	14	20	3	2	1	2	24	19	21	19	23	17	16	19	16	17	16	11	0	0	0	0
	後期	20	16	15	17	3	2	2	1	25	21	23	21	24	19	16	19	17	19	15	12	3	3	2	2
	前期計	121	131	127	132	86	88	79	82	134	129	126	118	97	85	84	84	156	147	138	134	3	2	2	4
	後期計	123	136	126	129	87	83	79	78	135	123	126	128	100	88	82	84	163	151	140	136	9	8	6	8
	合計	244	267	253	261	173	171	158	160	269	252	252	246	197	173	166	168	319	298	278	270	12	10	8	12

社会学部講義科目開講コマ数

(語学・体育・演習・実習・教職資格・その他受講許可科目を除いた科目、※ただし外書講読は各プログラムの科目であるためカウントした)

		月				火				水				木				金				土			
		2007	2008	2009	2010	2007	2008	2009	2010	2007	2008	2009	2010	2007	2008	2009	2010	2007	2008	2009	2010	2007	2008	2009	2010
1限	前期	4	5	5	5	8	7	8	10	5	2	4	3	7	8	7	4	4	2	1	3	0	0	0	0
	後期	6	7	4	4	5	4	5	7	5	1	2	3	6	8	7	4	5	3	2	3	0	0	0	0
2限	前期	7	8	8	5	10	10	7	6	8	8	7	6	7	7	6	7	4	2	2	3	0	0	0	0
	後期	7	8	5	6	10	10	6	6	7	7	6	5	9	7	6	6	4	4	3	5	0	0	0	0
3限	前期	6	7	7	7	4	4	5	5	9	7	7	7	7	8	8	8	7	4	5	4	0	0	0	0
	後期	6	7	7	7	4	3	6	5	6	5	6	6	7	7	7	7	5	5	5	3	0	0	0	0
4限	前期	6	4	6	4	1	4	2	5	9	9	8	5	8	9	9	7	4	4	2	3	0	0	0	0
	後期	6	6	6	4	1	3	2	4	9	8	9	8	9	9	7	6	4	5	3	4	0	0	0	0
5限	前期	0	1	2	6	0	0	0	1	1	1	1	2	1	0	1	3	0	0	1	0	0	0	0	0
	後期	0	2	2	4	0	0	1	0	1	2	1	2	2	1	0	2	2	2	1	2	0	0	0	0
	前期計	23	25	28	27	23	25	22	27	32	27	27	23	30	32	31	29	19	12	11	13	0	0	0	0
	後期計	25	30	24	25	20	20	20	22	28	23	24	24	33	32	27	25	20	19	14	17	0	0	0	0
	合計	48	55	52	52	43	45	42	49	60	50	51	47	63	64	58	54	39	31	25	30	0	0	0	0

社会学部主催科目時限別受講者数
(他学部からの受講学生を含む)

		月				火				水				木				金				土			
		2007	2008	2009	2010	2007	2008	2009	2010	2007	2008	2009	2010	2007	2008	2009	2010	2007	2008	2009	2010	2007	2008	2009	2010
1限	前期				1216				1917				1537				644				919				0
	後期				1273				1196				1460				617				1019				129
2限	前期				1924				2259				2170				2009				1921				103
	後期				2079				2170				2083				1933				1895				207
3限	前期				2058				2089				2320				2555				2118				0
	後期				2376				2017				2065				2279				1655				0
4限	前期				2062				1601				2143				2294				1335				0
	後期				2004				1397				2263				2198				1098				47
5限	前期				987				25				780				749				170				0
	後期				703				8				806				634				523				47
	前期計	0	0	0	8247	0	0	0	7891	0	0	0	8950	0	0	0	8251	0	0	0	6463	0	0	0	103
	後期計	0	0	0	8435	0	0	0	6788	0	0	0	8677	0	0	0	7661	0	0	0	6190	0	0	0	430
	合計	0	0	0	16682	0	0	0	14679	0	0	0	17627	0	0	0	15912	0	0	0	12653	0	0	0	533

社会学部主催科目時限別受講率
※時限別受講者数合計／各年度社会学部在籍者数

		月				火				水				木				金				土			
		2007	2008	2009	2010	2007	2008	2009	2010	2007	2008	2009	2010	2007	2008	2009	2010	2007	2008	2009	2010	2007	2008	2009	2010
1限	前期				36%				57%				46%				19%				27%				0%
	後期				38%				36%				43%				18%				30%				4%
2限	前期				57%				67%				65%				60%				57%				3%
	後期				62%				65%				62%				58%				56%				6%
3限	前期				61%				62%				69%				76%				63%				0%
	後期				71%				60%				61%				68%				49%				0%
4限	前期				61%				48%				64%				68%				40%				0%
	後期				60%				42%				67%				65%				33%				1%
5限	前期				29%				1%				23%				22%				5%				0%
	後期				21%				0%				24%				19%				16%				1%
	前期計				49%				47%				53%				49%				38%				1%
	後期計				50%				40%				52%				46%				37%				3%
	合計				50%				44%				52%				47%				38%				2%

人数年次支給回数 (社会学部)

データの個数 / 科目漢字名称	年度							総計
履修期	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010 (空白)	
後期	59	59	48	56	58	65	60	405
前期 (空白)	58	59	54	62	63	75	62	433
総計	117	118	102	118	121	140	122	838

受講者 200名以上

2010年度 社会学部 受講者数 (講義科目)

授業コード	科目漢字名称	代表教員漢字氏名	履修期	曜時	受講者数	教室
L0664	行政法 I [CDC]	長谷部 俊治	前期授業	月1	326	B301
L0121	社会調査 I	堀川 三郎	前期授業	月1	44	社102
L0100	法と社会	白田 秀彰	前期授業	月1	96	社202
L0581	環境問題A	田中 充	前期授業	月1	141	社301
L0096	国際社会論	吉村 真子	前期授業	月1	165	社302
L0593	国際社会入門	田嶋 淳子	前期授業	月2	429	B201
L0707	情報と民主主義 [MSC]	石坂 悦男	前期授業	月2	379	B301
L0586	コミュニティ・デザイン論B	中筋 直哉	前期授業	月2	319	社201
L0714	情報・マスコミ関係法 I [MSC]	白田 秀彰	前期授業	月2	202	社301
L0834	外書講読(英語)2- I [PLP]	長沼 建一郎	前期授業	月2	27	社711
L0629	中小企業論[BIC]	相田 利雄	前期授業	月3	430	B201
L0753	国際関係論[ISC]	東郷 育子	前期授業	月3	356	B202
L0708	マス・コミ論[MSC]	石坂 悦男	前期授業	月3	209	B301
L0807	政策過程論[PLP]	間島 正秀	前期授業	月3	86	社102
L0701	メディア社会論 I [MSC]	津田 正太郎	前期授業	月3	389	社201
L0845	外書講読(英語)3- I [PLP]	湯川 新	前期授業	月3	35	社304
L0849	外書講読(英語)3- I [PLP]	鈴木 智道	前期授業	月3	10	社614
L0730	メディア史 I [MCC]	小川 直毅	前期授業	月4	346	B201
L0655	家族社会学 I [CDC]	菊澤 佐江子	前期授業	月4	549	B301
L0776	ミクロ経済学 I [BT]	桑名 謹三	前期授業	月4	162	社201
L0737	音楽社会学 I [MCC]	湯川 新	前期授業	月4	302	社202
L0063	社会思想史 I	壽福 眞美	前期授業	月5	111	社102
L0777	ミクロ経済学 II [BT]	桑名 謹三	前期授業	月5	140	社201
L0682	臨床社会学 I [HSC]	三井 さよ	前期授業	月5	233	社202
L0740	記号論[MCC]	高橋 徹	前期授業	月5	163	社301
L0639	企業法[BIC]	高橋 均	前期授業	月5	43	社302
L0676	人間論A[HSC]	鈴木 智之	前期授業	月5	97	社306
L0690	スポーツ社会学[HSC]	越部 清美	前期授業	火1	436	B201
L0561	社会学への招待	仁平 典宏	前期授業	火1	371	B202
L0637	雇用と法[BIC]	長谷川 珠子	前期授業	火1	173	B301
L0887	特講(社会保障法 I) [PSP]	長沼 建一郎	前期授業	火1	36	社102
L0635	国際経営論 I [BIC]	公文 溥	前期授業	火1	186	社201
L0808	政策分析評価論[PLP]	田口 博雄	前期授業	火1	26	社301
L0601	環境政策論[EPC]	田中 充	前期授業	火1	58	社302
L0107	多摩地域形成論 I	宮瀬 睦夫	前期授業	火1	40	社303
L0951	統計調査法[SRP]	斎藤 友里子	前期授業	火1	59	社304
L0605	環境社会学 I [EPC]	堀川 三郎	前期授業	火1	74	社306
L0551	社会政策科学への招待	白鳥 浩	前期授業	火2	291	B201
L0751	国際社会学 I [ISC]	田嶋 淳子	前期授業	火2	441	B202
L0662	財政学 I [CDC]	関口 浩	前期授業	火2	447	B301
L0571	メディア社会学への招待	藤田 真文	前期授業	火2	260	社201
L0818	国際経済論 I [PLP]	宮崎 礼二	前期授業	火2	187	社202
L0609	社会計画論 I [EPC]	松橋 晴俊	前期授業	火2	194	社302
L0073	現代社会と宗教 I	岡野 守也	前期授業	火3	487	B201
L0684	社会心理学 I [HSC]	南 宏幸	前期授業	火3	506	B301
L0765	地域研究(西欧)[ISC]	宮島 喬	前期授業	火3	262	社201
L0626	産業と企業の理論 I [BIC]	岸田 令子	前期授業	火3	230	社202
L0907	社会学史 I [GSP]	今野 晃	前期授業	火3	308	社302
L0589	マスコミ問題A	大井 浩一	前期授業	火4	532	B201
L0788	社会学理論A I [BT]	宮島 喬	前期授業	火4	397	B301
L0106	職業社会論	依田 素味	前期授業	火4	204	社201
L0634	日本経済論[BIC]	山岡 通宏	前期授業	火4	322	社202
L0643	特講(中国の労働事情 I) [BIC]	李 天国	前期授業	火4	119	社302
L0771	特講(実用中国事情)[ISC]	李 天国	前期授業	火5	15	社303
L0735	比較文化論 I [MCC]	田中 優子	前期授業	水1	429	B201
L0733	広告・消費文化論[MCC]	須藤 春夫	前期授業	水1	367	B301
L0713	アメリカのJournalism [MSC]	荒木 暢也	前期授業	水1	178	社202
L0756	国際社会と民族[ISC]	伊集院 立	前期授業	水2	220	B201
L0692	歴史社会学 I [HSC]	鈴木 智道	前期授業	水2	684	B301
L0616	市民運動論 I [EPC]	朝井 志歩	前期授業	水2	308	社201
L0688	社会教育概論 I [HSC]	荒井 容子	前期授業	水2	108	社202
L1034	Operations Research [ICP]	佐藤 金吾	前期授業	水2	74	社301
L0832	外書講読(英語)2- I [PLP]	堀川 三郎	前期授業	水2	7	社516
L0051	心理学 I	横山 浩司	前期授業	水3	335	B201
L0583	産業・企業論A	公文 溥	前期授業	水3	497	B301
L0123	社会調査 I	山田 一成	前期授業	水3	255	社201
L0056	文学	田中 優子	前期授業	水3	269	社202
L0836	外書講読(英語)1- I [PLP]	相良 匡俊	前期授業	水3	467	社301
L0640	社会ネットワーク論 I [BIC]	宇野 育	前期授業	水3	169	社302

L0840	外書講読(英語)1- I [PLP]	関口 浩	前期授業	水3	28 社304
L0587	人間・社会論A	横山 浩	前期授業	水4	287 B201
L0054	現代史 I	相良 匡俊	前期授業	水4	908 B301
L0082	自然環境論 I	東郷 正美	前期授業	水4	293 社201
L0631	産業社会学 I [BIC]	天島 一郎	前期授業	水4	101 社202
L0607	都市景観論[EPC]	矢部 恒彦	前期授業	水4	132 社301
L0076	生命の科学 I	鞠子 茂	前期授業	水5	281 B201
L0726	メディア文化論 I [MCC]	小林 正幸	前期授業	水5	180 B202
L0603	環境経済学 I [EPC]	島本 美保子	前期授業	木1	177 社201
L0562	社会学入門A	鈴木 智之	前期授業	木1	198 社202
L0552	社会政策科学入門A	白鳥 浩	前期授業	木1	110 社301
L0572	メディア社会学入門A	小林 直毅	前期授業	木1	117 社302
L0678	発達・教育の理論 I [HSC]	平塚 眞樹	前期授業	木2	547 B201
L0762	地域研究(アジア)[ISC]	吉村 真子	前期授業	木2	160 B202
L0615	農業・食料論[EPC]	天笠 啓祐	前期授業	木2	331 B301
L0575	メディア社会学入門B	土橋 臣吾	前期授業	木2	132 社201
L0565	社会学入門B	鈴木 宗徳	前期授業	木2	197 社202
L0555	社会政策科学入門B	増田 正人	前期授業	木2	153 社301
L1001	情報科学とCommunication[ICP]	金井 明人	前期授業	木2	146 社302
L0790	社会学理論B I [BT]	兼子 諭	前期授業	木3	485 B201
L0078	基礎数学 I	佐藤 金吾	前期授業	木3	624 B301
L0754	国際政治論[ISC]	白鳥 浩	前期授業	木3	91 社102
L0705	公共性とCommunication I [MSC]	鈴木 宗徳	前期授業	木3	497 社201
L0921	数理社会学 I [GSP]	斎藤 友里子	前期授業	木3	202 社202
L0612	コミュニティ形成論[EPC]	樋口 明彦	前期授業	木3	279 社301
L0058	異文化交流史 I	宮永 孝	前期授業	木3	78 社304
L0847	外書講読(英語)1- I [PLP]	加藤 徹郎	前期授業	木3	20 社306
L0780	政治学理論 I [BT]	白鳥 浩	前期授業	木4	580 B201
L0071	哲学 I	大橋 基	前期授業	木4	235 B202
L0703	コミュニケーション論 I [MSC]	藤田 真文	前期授業	木4	450 B301
L0101	憲法	奥田 劔志郎	前期授業	木4	269 社201
L0080	統計学 I	佐藤 金吾	前期授業	木4	253 社202
L0838	外書講読(英語)3- I [PLP]	楠 陽子	前期授業	木4	40 社304
L0758	南北問題[ISC]	岡野内 正	前期授業	木4	194 社401
L0591	情報メディア論A	藤田 真文	前期授業	木5	242 B201
L1089	Communication Design[MLP]	須藤 春夫	前期授業	木5	160 社201
L0711	Journalismの歴史と思想 I :MSC	根津 朝彦	前期授業	木5	131 社202
L0786	社会学理論A I [BT]	鈴木 智之	前期授業	金1	378 社201
L0628	地域産業論[BIC]	外戸保 大介	前期授業	金1	132 社202
L0770	Comparative Culture[ISC]	GEORGE HANN	前期授業	金1	17 社303
L0732	ウェブメディア論[MCC]	土橋 臣吾	前期授業	金2	527 B201
L0653	福祉社会学 I [CDC]	仁平 典宏	前期授業	金2	632 B301
L0102	法律学 I :日本国憲法1単位含む	清水 弥生	前期授業	金2	171 社201
L0783	民法(入門)[BT]	峯川 浩子	前期授業	金3	437 B201
L0659	地方自治論 I [CDC]	間島 正秀	前期授業	金3	339 社201
L0053	認知科学	森 健治	前期授業	金3	348 社202
L1067	メディア論[MLP]	小林 正幸	前期授業	金3	150 社301
L0094	社会科学の方法 I	中筋 直哉	前期授業	金4	299 B201
L0766	地域研究(北米)[ISC]	増田 正人	前期授業	金4	160 社302
L2585	コミュニケーションの歴史 I	小林 正幸	前期授業	金4	8 社619
L0665	行政法 II [CDC]	長谷部 俊治	後期授業	月1	299 B201
L0122	社会調査 II	堀川 三郎	後期授業	月1	39 社102
L0592	情報メディア論B	白田 秀彰	後期授業	月1	277 社201
L0066	身体論	越部 清美	後期授業	月1	203 社202
L0097	国際社会と言語文化	相良 匡俊	後期授業	月2	449 B201
L0588	人間・社会論B	三井 さよ	後期授業	月2	387 B202
L0611	地域社会学[EPC]	中筋 直哉	後期授業	月2	420 B301
L0715	情報・マスコミ関係法 II [MSC]	白田 秀彰	後期授業	月2	196 社301
L2590	情報と民主主義 II	石坂 悦男	後期授業	月2	8 社304
L0835	外書講読(英語)2- II [PLP]	長沼 建一郎	後期授業	月2	26 社711
L0630	中小企業政策論[BIC]	相田 利雄	後期授業	月3	367 B201
L0661	都市政策論[CDC]	長谷部 俊治	後期授業	月3	298 B202
L0791	社会学理論B II [BT]	西原 和久	後期授業	月3	476 B301
L0702	メディア社会論 II [MSC]	津田 正太郎	後期授業	月3	372 社201
L0098	国際法	片柳 真理	後期授業	月3	311 社202
L0846	外書講読(英語)3- II [PLP]	湯川 新	後期授業	月3	32 社304
L0850	外書講読(英語)3- II [PLP]	鈴木 智道	後期授業	月3	11 社614
L0731	メディア史 II [MCC]	小林 直毅	後期授業	月4	312 B201
L0656	家族社会学 II [CDC]	菊澤 佐江子	後期授業	月4	537 B301
L0738	音楽社会学 II [MCC]	湯川 新	後期授業	月4	294 社202

L0778	マクロ経済学Ⅰ〔BT〕	桑名 謹三	後期授業	月4	156	社501
L0683	臨床社会学Ⅱ〔HSC〕	三井 さよ	後期授業	月5	261	社202
L0064	社会思想史Ⅱ	壽福 眞美	後期授業	月5	124	社102
L2596	記号論Ⅱ	高橋 徹	後期授業	月5	3	社306
L0779	マクロ経済学Ⅱ〔BT〕	桑名 謹三	後期授業	月5	127	社501
L0638	雇用政策論〔BIC〕	長谷川 珠子	後期授業	火1	194	B301
L0636	国際経営論Ⅱ〔BIC〕	公文 溥	後期授業	火1	145	社201
L1082	特講(編集出版論)〔MLP〕	坂巻 克巳	後期授業	火1	165	社202
L0816	金融システム論〔PLP〕	田口 博雄	後期授業	火1	44	社301
L0602	環境自治体論〔EPC〕	田中 充	後期授業	火1	69	社302
L0888	特講(社会保障法Ⅱ)〔PSP〕	長沼 建一郎	後期授業	火1	33	社305
L0606	環境社会学Ⅱ〔EPC〕	堀川 三郎	後期授業	火1	88	社306
L0584	産業・企業論B	相田 利雄	後期授業	火2	315	B201
L0752	国際社会学Ⅱ〔ISC〕	田嶋 淳子	後期授業	火2	392	B202
L0663	財政学Ⅱ〔CDC〕	関口 浩	後期授業	火2	367	B301
L0590	マスコミ問題B	石坂 悦男	後期授業	火2	323	社201
L0610	社会計画論Ⅱ〔EPC〕	船橋 晴俊	後期授業	火2	194	社202
L0819	国際経済論Ⅱ〔PLP〕	宮崎 礼二	後期授業	火2	164	社301
L0074	現代社会と宗教Ⅱ	岡野 守也	後期授業	火3	464	B201
L0908	社会学史Ⅱ〔GSP〕	今野 晃	後期授業	火3	236	B202
L0685	社会心理学Ⅱ〔HSC〕	南 宏幸	後期授業	火3	462	B301
L0694	特講(文化の社会学)〔HSC〕	宮島 喬	後期授業	火3	381	社201
L0627	産業と企業の理論Ⅱ〔BIC〕	岸田 令子	後期授業	火3	209	社202
L0582	環境問題B	小澤 徳太郎	後期授業	火4	307	B201
L0789	社会学理論AⅡ〔BT〕	宮島 喬	後期授業	火4	384	B301
L0633	経済政策論〔BIC〕	山岡 通宏	後期授業	火4	317	社202
L0644	特講(中国の労働事情Ⅱ)〔BIC〕	李 天国	後期授業	火4	127	社302
L0736	比較文化論Ⅱ〔MCC〕	田中 優子	後期授業	水1	340	B201
L0734	広告・PR論〔MCC〕	須藤 春夫	後期授業	水1	388	B301
L0717	メディア政策論〔MSC〕	石坂 悦男	後期授業	水1	208	社202
L0757	市民社会とエスニシティ〔ISC〕	伊集院 立	後期授業	水2	234	B201
L0693	歴史社会学Ⅱ〔HSC〕	鈴木 智道	後期授業	水2	698	B301
L0617	市民運動論Ⅱ〔EPC〕	朝井 志歩	後期授業	水2	323	社201
L0689	社会教育概論Ⅱ〔HSC〕	荒井 容子	後期授業	水2	109	社202
L0833	外書講読(英語)2-Ⅱ〔PLP〕	堀川 三郎	後期授業	水2	10	社516
L0052	心理学Ⅱ	横山 浩司	後期授業	水3	335	B201
L0686	ジェンダー論〔HSC〕	柳 蓮淑	後期授業	水3	556	B202
L0837	外書講読(英語)1-Ⅱ〔PLP〕	相良 匡俊	後期授業	水3	425	B301
L0124	社会調査Ⅱ	山田 一成	後期授業	水3	227	社201
L0641	社会ネットワーク論Ⅱ〔BIC〕	宇野 斉	後期授業	水3	166	社302
L0841	外書講読(英語)1-Ⅱ〔PLP〕	関口 浩	後期授業	水3	27	社304
L0099	平和論	鴨志田 恵一	後期授業	水4	403	B201
L0055	現代史Ⅱ	相良 匡俊	後期授業	水4	754	B301
L0677	人間論B〔HSC〕	横山 浩司	後期授業	水4	103	社102
L0083	自然環境論Ⅱ	東郷 正美	後期授業	水4	226	社201
L0632	産業社会学Ⅱ〔BIC〕	天畠 一郎	後期授業	水4	85	社202
L0608	景観文化論〔EPC〕	矢部 恒彦	後期授業	水4	93	社301
L0761	国研:欧州統合論〔ISC〕	清水 聡	後期授業	水4	52	社303
L0057	文化表象論	加太 宏邦	後期授業	水4	56	社501
L0077	生命の科学Ⅱ	鞠子 茂	後期授業	水5	264	B201
L0727	メディア文化論Ⅱ〔MCC〕	小林 正幸	後期授業	水5	176	B202
L0604	環境経済学Ⅱ〔EPC〕	島本 美保子	後期授業	木1	150	社201
L0564	社会学入門B	鈴木 宗徳	後期授業	木1	202	社202
L0554	社会政策科学入門B	増田 正人	後期授業	木1	107	社301
L0574	メディア社会学入門B	土橋 臣吾	後期授業	木1	103	社302
L0679	発達・教育の理論Ⅱ〔HSC〕	平塚 眞樹	後期授業	木2	541	B201
L0742	認知映像論〔MCC〕	金井 明人	後期授業	木2	396	B301
L0760	国研:開発とジェンダー〔ISC〕	吉村 真子	後期授業	木2	172	社201
L0563	社会学入門A	鈴木 智之	後期授業	木2	191	社202
L0553	社会政策科学入門A	白鳥 浩	後期授業	木2	157	社301
L0573	メディア社会学入門A	小林 直毅	後期授業	木2	140	社302
L0585	コミュニティ・デザイン論A	樋口 明彦	後期授業	木3	265	B201
L0706	公共性とCommunicationⅡ〔MSC〕	鈴木 宗徳	後期授業	木3	536	B202
L0079	基礎数学Ⅱ	佐藤 金吾	後期授業	木3	586	B301
L0922	数理社会学Ⅱ〔GSP〕	斎藤 友里子	後期授業	木3	234	社202
L0060	比較生活文化論	謝 荔	後期授業	木3	164	社301
L0059	異文化交流史Ⅱ	宮永 孝	後期授業	木3	78	社304
L0848	外書講読(英語)1-Ⅱ〔PLP〕	加藤 徹郎	後期授業	木3	19	社402
L0781	政治学理論Ⅱ〔BT〕	白鳥 浩	後期授業	木4	580	B201
L0072	哲学Ⅱ	大橋 基	後期授業	木4	238	B202

L0704	コミュニケーション論Ⅱ[MSC]	藤田 真文	後期授業	木4	529 B301
L0081	統計学Ⅱ	佐藤 金吾	後期授業	木4	239 社202
L0839	外書講読(英語)3-Ⅱ[PLP]	楠 陽子	後期授業	木4	41 社304
L0763	地域研究(イスラーム)[ISC]	岡野内 正	後期授業	木4	180 社401
L0642	コンテンツ産業論[BIC]	田中 優子	後期授業	木5	244 社201
L0712	Journalismの歴史と思想Ⅱ:MSC	根津 朝彦	後期授業	木5	113 社202
L0787	社会学理論AⅡ[BT]	鈴木 智之	後期授業	金1	349 社201
L0614	環境法[EPC]	井上 秀典	後期授業	金1	95 社301
L0739	Cultural Studies[MCC]	山家 歩	後期授業	金1	151 社302
L0716	メディア産業論[MSC]	小田桐 誠	後期授業	金2	288 B201
L0654	福祉社会学Ⅱ[CDC]	仁平 典宏	後期授業	金2	600 B301
L0103	法律学Ⅱ:日本国憲法1単位含む	清水 弥生	後期授業	金2	156 社201
L0075	芸術文化論	濱中 春	後期授業	金2	196 社202
L0764	地域研究(中国)[ISC]	大崎 雄二	後期授業	金2	74 社301
L0065	環境倫理	山村 陽子	後期授業	金3	374 B201
L0660	地方自治論Ⅱ[CDC]	間島 正秀	後期授業	金3	341 社201
L0784	民法(財産法)[BT]	峯川 浩子	後期授業	金3	186 社202
L0095	社会科学の方法Ⅱ	増田 正人	後期授業	金4	296 B201
L0785	民法(家族法)[BT]	峯川 浩子	後期授業	金4	136 社202
L0933	原典講読[GSP]	鈴木 智道	後期授業	金4	19 社614
L2586	コミュニケーションの歴史Ⅱ	小林 正幸	後期授業	金4	7 社619
L0594	国際社会と日本	岡野内 正	後期授業	金5	307 社201
L0691	保健医療論[HSC]	森岡 崇	後期授業	金5	61 社304

社会学部 前期教室変更について

2010/6/8

曜日	時限	授業科目名	担当者名(敬称略)	変更前	変更後	備考
月	1	Basic English 2- I	石垣 弥麻	305	LLA	
月	1	Basic English 2- I	田中 長子	306	LLC2	
月	1	国際社会論	吉村 真子	201	302	5/24~
月	2	Basic English 2- I	石垣 弥麻	305	LLA	
月	2	Basic English 2- I	広川 治	407	LLC1	
月	2	Basic English 2- I	田中 長子	306	LLC2	
月	2	社会調査実習	菊澤 佐江子	617	社会調査室	
月	2	国際社会入門	田嶋 淳子	201	B201	5/24~
月	2	コミュニティ・デザイン論B	中筋 直哉	B201	社201	5/24~
月	3	Basic English 1- I	広川 治	302	LLC1	
月	3	調査研究法A	菊澤 佐江子	617	社会調査室	
月	3	国際関係論	東郷 育子	202	B202	6/7~
月	4	Basic English 1- I	広川 治	LLC1	LLB	5/17~
月	4	Basic English 1- I	田中 長子	408	LLC2	
月	4	社会調査実習	山田 一成	616	304	
月	5	調査研究法B	山田 一成	616	304	
月	5	社会思想史 I	壽福 眞美	B201	102	5/31~
月	5	人間論A/人間論 I -(1)	鈴木 智之	202	306	5/31~
月	5	臨床社会学 I	三井 さよ	B301	社202	6/7~
火	1	環境社会学 I	堀川 三郎	B201	306	
火	1	スポーツ社会学	越部 清美	202	B201	6/15~
火	2	図書館特講	丹 一信	304	多目的ゼミ室A	
火	2	メディア分析実習	小林 直毅	303	多目的ゼミ室C	
火	2	国際社会学 I	田嶋 淳子	202	B202	6/8~
火	2	社会計画論 I	船橋 晴俊	302	社202	6/15~
火	3	フランス語中級1	数藤 征枝	403	LLC2	
火	4	日本経済論/社会政策科学総論 I	山岡 通宏	301	社202	
水	2	歴史社会学 I	鈴木 智道	B201	B301	6/16~
水	2	国際社会と民族	伊集院 立	B301	B201	6/16~
水	3	外書講読(英語)1- I	相良 匡俊	303	社301	
水	3	社会教育演習	山崎 功	306	619	
水	4	中国語上級A1・A4・B1・B4	大崎 雄二	713	502	
水	4	産業社会学 I	天島 一郎	社201	社202	
水	4	国研(欧州統合論)	清水 聡	302	303	9/29~
水	5	生命の科学 I	鞠子 茂	202	B201	
水	5	メディア文化論 I	小林 正幸	B301	B202	
木	1	日本史 I	岩橋 清美	経306	経206	
木	2	情報科学とコミュニケーション	金井 明人	201	302	
木	2	メディア社会学入門B	須藤・土橋	302	社201	
木	3	広告制作実習	伊藤 一枝	401	多目的ゼミ室B・C	
木	3	外書講読(英語)1- I	加藤 徹郎	306	402	9/29~
木	4	広告制作実習	須藤 春夫	402	多目的ゼミ室B・C	
木	4	南北問題	岡野内 正	301	401	

社会学部 後期教室変更について

2010/T2/10

曜日	時限	授業科目名	担当者名(敬称略)	変更前	変更後	備考
月	1	Basic English 2- II	石垣 弥麻	305	LLA	
月	1	Basic English 2- II	田中 長子	306	LLC2	
月	1	身体論	越部 清美	社301	社202	
月	1	行政法 II	長谷部 俊治	社202	B201	
月	2	Basic English 2- II	石垣 弥麻	305	LLA	
月	2	Basic English 2- II	広川 治	407	LLC1	
月	2	Basic English 2- II	田中 長子	306	LLC2	
月	2	社会調査実習	菊澤 佐江子	617	社会調査室	
月	2	人間・社会論B	三井 さよ	社201	B202	
月	3	Basic English 1- II	広川 治	302	LLC1	
月	3	都市政策論	長谷部 俊治	102	B202	
月	4	Basic English 1- II	広川 治	LLC2	LLB	
月	4	Basic English 1- II	田中 長子	408	LLC2	
月	4	社会調査実習	山田 一成	616	304	
月	4	マクロ経済学 I	桑名 謹三	社201	501	
月	4	マクロ経済学 II	桑名 謹三	社201	501	
月	5	記号論 II	高橋 徹	304	306	05以前入学のみ
月	5	社会思想史 II	壽福 眞美	B201	102	
月	5	臨床社会学 II	三井 さよ	B301	社202	
火	1	社会保障法 II	長沼 建一郎	102	305	
火	1	ドイツ語上級A4	鈴木 宗徳	619	719	時間割変更(7/7)
火	2	図書館特講	丹 一信	304	多目的ゼミ室A	
火	2	メディア分析実習	小林 直毅	303	多目的ゼミ室C	
火	2	国際社会学 II	田嶋 淳子	社202	B202	
火	2	社会計画論 II	船橋 晴俊	302	社202	
火	3	社会学史 II	今野 晃	302	B202	
火	3	フランス語中級4	数藤 征枝	403	LLC2	
火	4	経済政策論	山岡 通宏	社301	社202	
火	4	環境問題B	小澤 徳太郎	社201	B201	
火	4	教職入門	加美 越生	社102	社201	
水	2	教育原理	児島 功和	社301	306	
水	2	歴史社会学 II	鈴木 智道	B201	B301	
水	2	市民社会とエスニシティ	伊集院 立	B301	B201	
水	3	社会教育演習	山崎 功	306	619	
水	3	外書講読(英語)1- II	相良 匡俊	社301	B301	
水	3	ジェンダー論	柳 蓮淑	社202	B202	
水	4	国研:欧州統合論	清水 聡	302	303	
水	4	中国語上級A1・A4・B1・B4	大崎 雄二	713	502	
水	4	産業社会学 II	天島 一郎	社201	社202	
水	5	生命の科学 II	鞠子 茂	202	B201	
水	5	メディア文化論 II	小林 正幸	B301	B202	
木	2	教育相談	中島 浩壽	102	B202	
木	3	広告制作実習	伊藤 一枝	401	多目的ゼミ室B・C	
木	3	外書講読(英語)1- II	加藤 徹郎	306	402	
木	3	公共性とコミュニケーション II	鈴木 宗徳	社201	B202	
木	4	地域研究(イスラーム)	岡野内 正	社301	401	
木	4	広告制作実習	須藤 春夫	402	多目的ゼミ室B・C	
木	4	エッセイ文章実習	根津 朝彦	403	617	
金	1	教育の制度・経営	松下 丈宏		102	
金	3	環境倫理	山村 陽子	社301	B201	
金	4	ドイツ語初級A	経塚 義人	303	612	
金	4	社会科学の方法 II	増田 正人	B301	B201	
金	4	コミュニケーションの歴史 II	小林 正幸	620	619	05以前入学のみ
金	5	映像制作実習B	長井 暁	303	612	
土	1	生徒・進路指導論	宮下 聡	402	社301	
土	2	教育方法論	酒井 英光	社301	社202	

※コース・プログラム名は省略しています。

2010年度後期教室変更について(案)

定員超科目						
曜日	時限	授業名	担当者	教室	定員	受講者数
月	1	身体論	越部	社301	153	211
月	1	行政法Ⅱ	長谷部	社202	270	304
月	2	人間・社会論B	三井	社201	375	395
月	3	都市政策論	長谷部	102	149	303
火	1	社会保障法Ⅱ	長沼	102		
火	1	ドイツ語上級A4	鈴木宗	-		2
火	2	社会計画論Ⅱ	船橋	302	153	153
火	2	国際社会学Ⅱ	田嶋	社202	270	394
火	3	社会学史Ⅱ	今野	302	153	245
火	4	経済政策論	山岡	社301	153	326
火	4	環境問題B	小澤	社201		
火	4	教職入門	加美	102	149	231
水	2	歴史社会学Ⅱ	鈴木道	B201	460	708
水	3	外書講読(英語)1-Ⅱ	相良	社301	153	435
水	3	ジェンダー論	柳	社202	270	566
木	2	教育相談	中島	102	149	229
木	3	公共性とコミュニケーションⅡ	鈴木宗	社201	375	544
金	3	環境倫理	山村	社301	153	387
土	1	生徒・進路指導論	宮下	402	56	127
土	2	教育方法論	酒井	社301	153	200

入替対象科目						
授業名	担当者	教室	定員	受講者数	調整状態	
-	-	社202	270	-	済	*1
-	-	B201	460	-	済	
社会福祉概論(福祉)	-	B202	460	292	済	
-	-	B202		-	済	
-	-	719		-	済	
国際社会学Ⅱ	田嶋	社202	270	394	済	
精神分析学(福祉)	-	B202		134	済	*2
異文化心理学(福祉)	-	B202	460	157	済	
-	-	社202	270	-	済	
-	-	B201		-	済	
-	-	社201		-	済	
市民社会とエスニシティ	伊集院	B301		241	済	
-	-	B301	740	-	済	
現代レジャー論(福祉)	-	B202	460	284		
グループアプローチ(福祉)	-	B202	460	111	済	
地域創造入門(福祉)	-	B202	460	307	済	
-	-	B201	460	-	済	
-	-	社301	153	-	済	
-	-	社202	270	-	済	

*1 長谷部先生がB201に行かないため

*2 現代福祉学部棟内で調整

	教室	定員	1時限		2時限		3時限		4時限		5時限	
			9:30~11:00	11:10~12:40	12:40~13:30	13:30~15:00	15:10~16:40	16:50~18:20	18:20~			
月	B201	460	前期 後期	行政法Ⅱ 国際社会入門	国際社会と言語文化		中小企業論 中小企業政策論	メディア史Ⅰ メディア史Ⅱ				
	B202	460	前期 後期	発達心理学 地域福祉論	生活問題論 人間・社会論B		国際関係論 都市政策論	臨床心理Ⅰ	心理学			
	B301	740	前期 後期	行政法Ⅰ	情報と民主主義 地域社会学		マス・コミ論 社会学理論BⅡ	家族社会学Ⅰ 家族社会学Ⅱ				
	社102	149	前期 後期	社会調査Ⅰ 社会調査Ⅱ						社会思想史Ⅰ 社会思想史Ⅱ		
	社201	375	前期 後期	情報メディア論B	コミュニティデザインB 社会福祉概論		行政社会学Ⅰ 行政社会学Ⅱ	ミクロ経済学Ⅰ ミクロ経済学Ⅱ	ミクロ経済学Ⅰ ミクロ経済学Ⅱ			
	社202	270	前期 後期	法と社会 身体論	公的扶助論		ソーシャルワークⅠ 国際法	音楽社会学Ⅰ 音楽社会学Ⅱ	臨床社会学Ⅰ 臨床社会学Ⅱ			
	社301	153	前期 後期	環境問題A	情報・マスコミ関係Ⅰ 情報・マスコミ関係Ⅱ		学習心理学			記号論		
	社302	153	前期 後期	国際社会論			BEⅠ-Ⅰ BEⅠ-Ⅱ	BEⅠ-Ⅰ BEⅠ-Ⅱ	企業法			
火	B201	460	前期 後期	スポーツ社会学	社会政策科学への招待 産業・企業論B		現代社会と宗教Ⅰ 現代社会と宗教Ⅱ	マスコミ問題A				
	B202	460	前期 後期	社会学への招待	国際社会学Ⅰ 国際社会学Ⅱ		社会思想史Ⅰ 社会学史Ⅱ	社会学				
	B301	740	前期 後期	雇用と法 雇用政策論	財政学Ⅰ 財政学Ⅱ		社会心理学Ⅰ 社会心理学Ⅱ	社会学理論AⅠ 社会学理論AⅡ	キャリアC キャリアC			
	社102	149	前期 後期	社会保障法Ⅰ 環境社会学Ⅱ	精神保健学			教職入門				
	社201	375	前期 後期	国際経営論Ⅰ 国際経営論Ⅱ	行政社会学への招待 マスコミ問題B		地域研究(西欧) 文化の社会学	職業社会学 環境問題B	エクステ エクステ			
	社202	270	前期 後期	特講(編集出版論)	社会計画論Ⅰ 社会計画論Ⅱ		産業と企業の理論Ⅰ 産業と企業の理論Ⅱ	日本経済論 経済政策論				
	社301	153	前期 後期	政策分析評価論 金融システム論	国際経済論Ⅰ 国際経済論Ⅱ		教育原理 教育の制度・経営					
	社302	153	前期 後期	環境政策論 環境自治体論	精神分析学		社会学史Ⅰ 異文化心理学	中国の労働事情Ⅰ 中国の労働事情Ⅱ				
水	B201	460	前期 後期	比較文化論Ⅰ 比較文化論Ⅱ	国際社会と民族 市民社会とエスニティ		心理学Ⅰ 心理学Ⅱ	人間・社会論A 平和論	生命の科学Ⅰ 生命の科学Ⅱ			
	B202	460	前期 後期	発達臨床心理学 児童精神医学	女性学 地方財政論		社会福祉調査(4人学習) ジェンダー論	メディア文化論Ⅰ メディア文化論Ⅱ				
	B301	740	前期 後期	広告・消費文化論 広告PR論	歴史社会学Ⅰ 歴史社会学Ⅱ		産業・企業論A 外書講読(英語)Ⅰ-Ⅱ	現代史Ⅰ 現代史Ⅱ				
	社102	149	前期 後期	社会・地歴科教育法	社会・公民科教育法			人間論B				
	社201	375	前期 後期	市民運動論Ⅰ 市民運動論Ⅱ			社会調査Ⅰ 社会調査Ⅱ	自然環境論Ⅰ 自然環境論Ⅱ				
	社202	270	前期 後期	アカカのジャーナリズム メディア政策論	社会教育概論Ⅰ 社会教育概論Ⅱ		文学 現代レジャー論	産業社会学Ⅰ 産業社会学Ⅱ				
	社301	153	前期 後期	オレーション・リサーチ 教育原理			外書 相良	都市景観論 景観文化論				
	社302	153	前期 後期				社会ネットワーク論Ⅰ 社会ネットワーク論Ⅱ	欧州統合論				
木	B201	460	前期 後期		発達・教育の理論Ⅰ 発達・教育の理論Ⅱ		社会学理論BⅠ コミュニティ・デザイン論A	政治学理論Ⅰ 政治学理論Ⅱ	情報メディア論A			
	B202	460	前期 後期	企業と経済の動向 FS入門	地域研究(アジア)		まちづくりの思想 公共性とコミュニケーションⅡ	哲学Ⅰ 哲学Ⅱ				
	B301	740	前期 後期		農業・食料論 認知映像論		基礎数学Ⅰ 基礎数学Ⅱ	コミュニケーション論Ⅰ コミュニケーション論Ⅱ				
	社102	149	前期 後期		教育心理学 教育相談		国際政治論 特別活動論		特別活動論			
	社201	375	前期 後期	環境経済学Ⅰ 環境経済学Ⅱ	メディア社会学入門B 開発とジェンダー		公共性とコミュニケーションⅠ 地域創造入門	憲法	コミュニケーション・デザイン コンテンツ産業論			
	社202	270	前期 後期	社会学入門A 社会学入門B	社会学入門B 社会学入門A		数理社会学Ⅰ 数理社会学Ⅱ	統計学Ⅰ 統計学Ⅱ	メディアの歴史と思想Ⅰ メディアの歴史と思想Ⅱ			
	社301	153	前期 後期	社会政策科学入門A 社会政策科学入門B	社会政策科学入門B 社会政策科学入門A		コミュニティ形成論 比較生活文化論	南北問題 地域研究(イスラム)				
	社302	153	前期 後期	メディア社会学入門A メディア社会学入門B	情報科学とコミュニケーション メディア社会学入門A		教育心理学 教育相談	教職入門				
金	B201	460	前期 後期		ウェブメディア論 メディア産業論		民法(入門) 環境倫理	社会科学の方法Ⅰ 社会科学の方法Ⅱ				
	B202	460	前期 後期	カウンセリングⅡ								
	B301	740	前期 後期		福祉社会学Ⅰ 福祉社会学Ⅱ			キャリアC キャリアC	キャリアC キャリアC			
	社102	149	前期 後期	保健医療サービス 教育の制度・経営	レクリエーション論		法学 日本国憲法	コミュニケーション				
	社201	375	前期 後期	社会学理論AⅠ 社会学理論AⅡ	法律学Ⅰ 法律学Ⅱ		地方自治論Ⅰ 地方自治論Ⅱ		国際社会と日本			
	社202	270	前期 後期	地域産業論	芸術文化論		認知科学 民法(財政法)	民法(家族法)				
	社301	153	前期 後期	環境法	地域研究(中国)		メディア論 環境倫理	道徳教育の研究				
	社302	153	前期 後期	カルチュラル・スタディーズ	福祉国家論		教育課程論	地域研究(北米)				

2009年度後期教室変更について（案）

【月曜1限】

- ①行政法Ⅱ（長谷部）299名：社302教室 → 社202教室
※現代福祉「児童福祉特講」（受講者数41名）との交換を交渉する

【月曜2限】

- ①地域社会学（中筋）636名：社201教室 → B301教室
②法と社会（長沼）244名：社102教室 → 社201教室

【月曜3限】

- ①社会学総合特講（田中義）145名：社202 → 社102教室
②社会思想史（壽福）276名：社102 → 社202教室

【月曜4限】

- ①家族社会学Ⅱ（菊澤）578名：B201 → B301教室
②メディア史Ⅱ（小林）276名：B301 → B201教室

【火曜3限】

- ①地域産業論（外戸保）137名：社202 → 社301教室
②社会心理学Ⅱ（南）450名：社301 → B201教室
③社会学理論BⅡ（左古）371名：B201 → 社202（B202）
※現代福祉「異文化心理学」（受講者数213名）が社202に入れるなら、
異文化心理学＝社202、社会学理論＝B202、への変更を交渉する

【水曜2限】

- ①社会教育概論Ⅱ（荒井）216名：社301 → B202教室
②地域研究（北米）（宮崎）235名：社202 → B201教室
③比較文化論Ⅱ（彭）389名：B201 → B301教室
③法律学Ⅱ（清水）200名：社102 → 社202教室

【水曜3限】

- ※現代福祉「日本国憲法」（106名）を201 → 102に移せるか打診

⇒OKなら産業社会学Ⅱ 社102 → 社201教室

【水曜4限】

①人間論B(横山) 158名: B202 → 社302教室

②環境社会学Ⅱ(池田) 367名: 社302 → B201教室

【木曜2限】

①開発とジェンダー(吉村) 381名: 社302 → B301教室

②教育相談(中島) 112名: 社305 → 社302教室

【木曜3限】

福祉社会学Ⅱ(仁平) …529名(社301)

基礎数学Ⅱ(佐藤) …489名(B201)

コミュニケーション論Ⅱ(藤田) …741名(B301)

コミュニティデザイン論A(樋口) …273名(社201)

公共性とコミュニケーションⅡ(鈴木宗) …208名(社202)

※現福:「心理学概論」…336名(B202)

↓

(公共性とコミュニケーションⅡ=社301へ
コミュニティデザイン論A=社202へ
心理学概論=社201へ
福祉社会学Ⅱ=B202へ
というのはどうか?)

【木曜3限】

①教育相談(中島) 106名: 社305 → 社302教室

【木4限】

①教職入門(加美) 112名: 社304 → 社301教室

(地研イスラーム(岡野内) 130名: 社401 → 社202?)

【金曜2限】

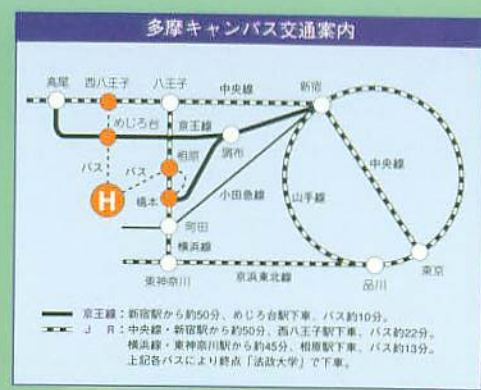
①メディア政策論(清水) 327名: 社302 → B201教室

③財政学Ⅱ(江波戸): 580名: 社202 → B201 → B301教室

【金曜5限】

①国際社会と日本(岡野内) 286名: 社202 → 社201教室

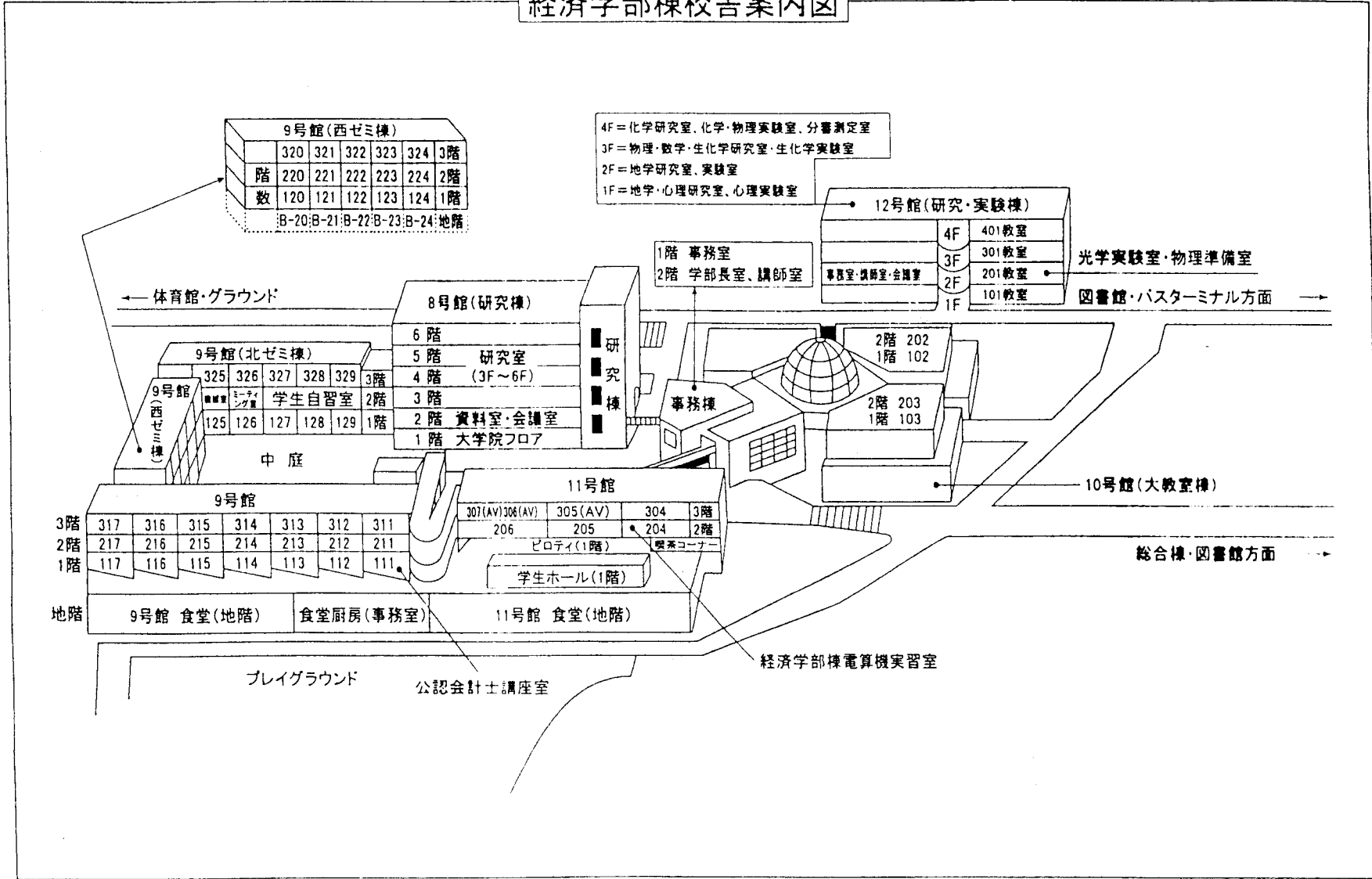
HOSEI 法政大学 多摩キャンパスマップ

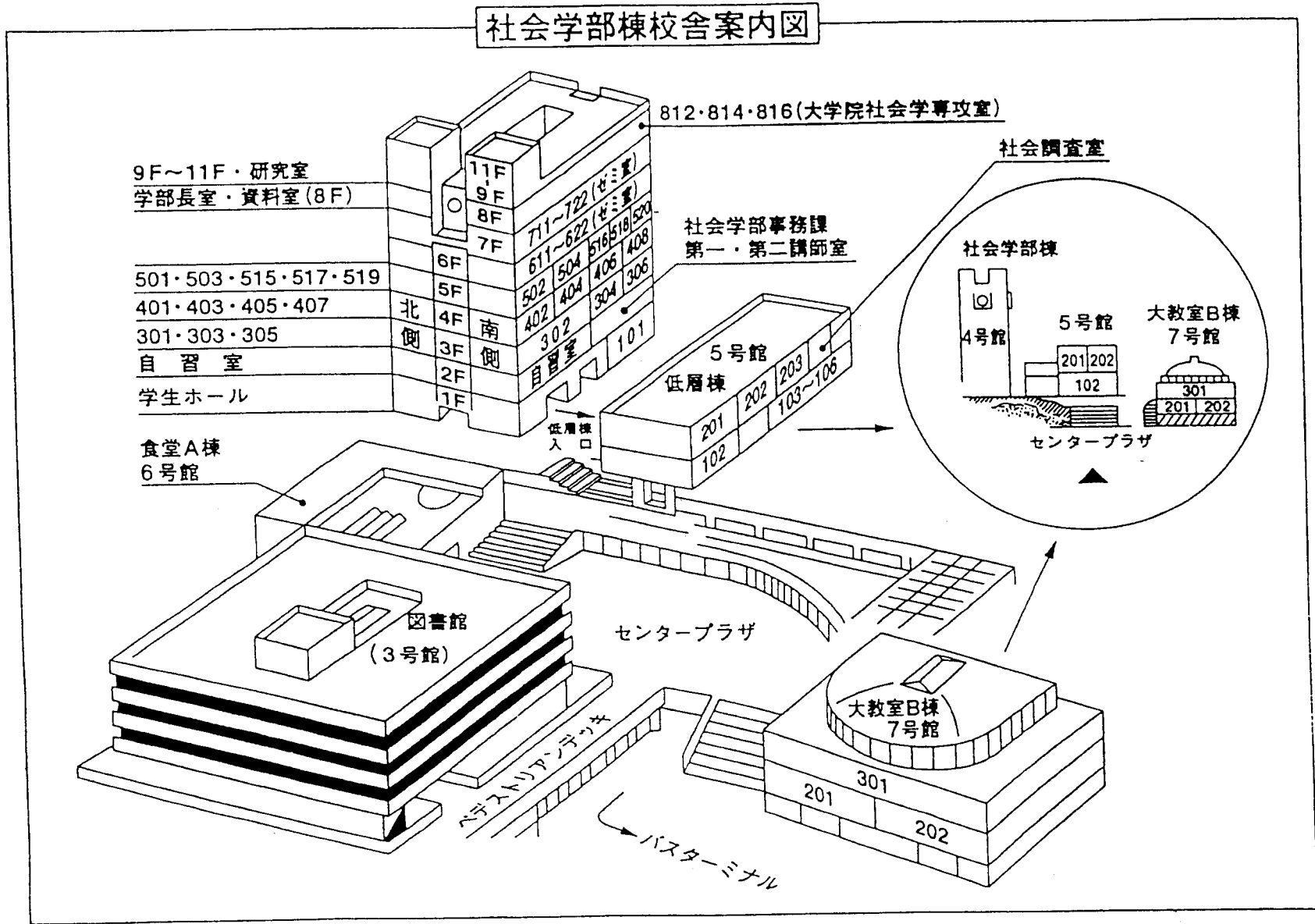


- 1号館(総合棟)**
役員室、事務室、LL教室、総務課、環境センター、総合情報センター、多摩就職課、診療所、店舗、食堂、大学院室、臨床心理相談室、多摩学生相談室、多摩ボランティアセンター
- 2号館(大教室A棟)**
1,600席大ホール
- 3号館(図書館・研究所棟)**
書庫、閲覧室、共同読書室、軽読書室、視聴覚室、オープンPCエリア、サイダンスルーム、対面的読書室、事務室、大原社会問題研究所、日本統計研究所、比較経済研究所
- 4号館(社会学部A棟)**
小・中教室、ゼミ教室、事務室、自習室、学生ホール、メディア表現実習室、研究室、資料室、大学院室
- 5号館(社会学部B棟)**
中教室、視聴覚教室、多目的スタジオ
- 6号館(食堂A棟)**
食堂550席、喫茶
- 7号館(大教室B棟)**
500人教室×2、800人教室×1
- 8号館(経済学部A棟)**
研究室、資料室、大学院室
- 9号館(経済学部B棟)**
小教室、ゼミ教室、自習室、ミーティング室、食堂
- 10号館(経済学部C棟)**
300人教室×3、400人教室×2、500人教室×1、事務室
- 11号館(食堂B棟)**
食堂530席、学生ホール、中教室×3
- 12号館(研究・実験棟)**
物理・化学・生物・地学・心理、各教室、実験室
- 13号館(100周年記念館)**
国際会議場、研修室、校友室、教職員クラブ室
- 14号館(総合体育館)**
アリーナ、スイミングプール、各種競技施設、トレーニング場、事務室
- 15号館(体育棟)**
部室、合宿室、ミーティングルーム
- 16号館(EGG DOME)**
学生生活課、国際交流センター、軽食室、売店、サークルBOX、スタジオ、音楽練習室、会議室、ATM(郵便局・東京三菱銀行)、バスターミナル
- 17号館(現代福祉学部棟)**
教室、ゼミ室、研究室、プレイセラピー室、学生ラウンジ、事務室、障がい学生支援室
- 18号館(スポーツ健康学部棟)**
教室、各種実習室、演習室、研究室、事務室、資料室、食堂、地域研究センター

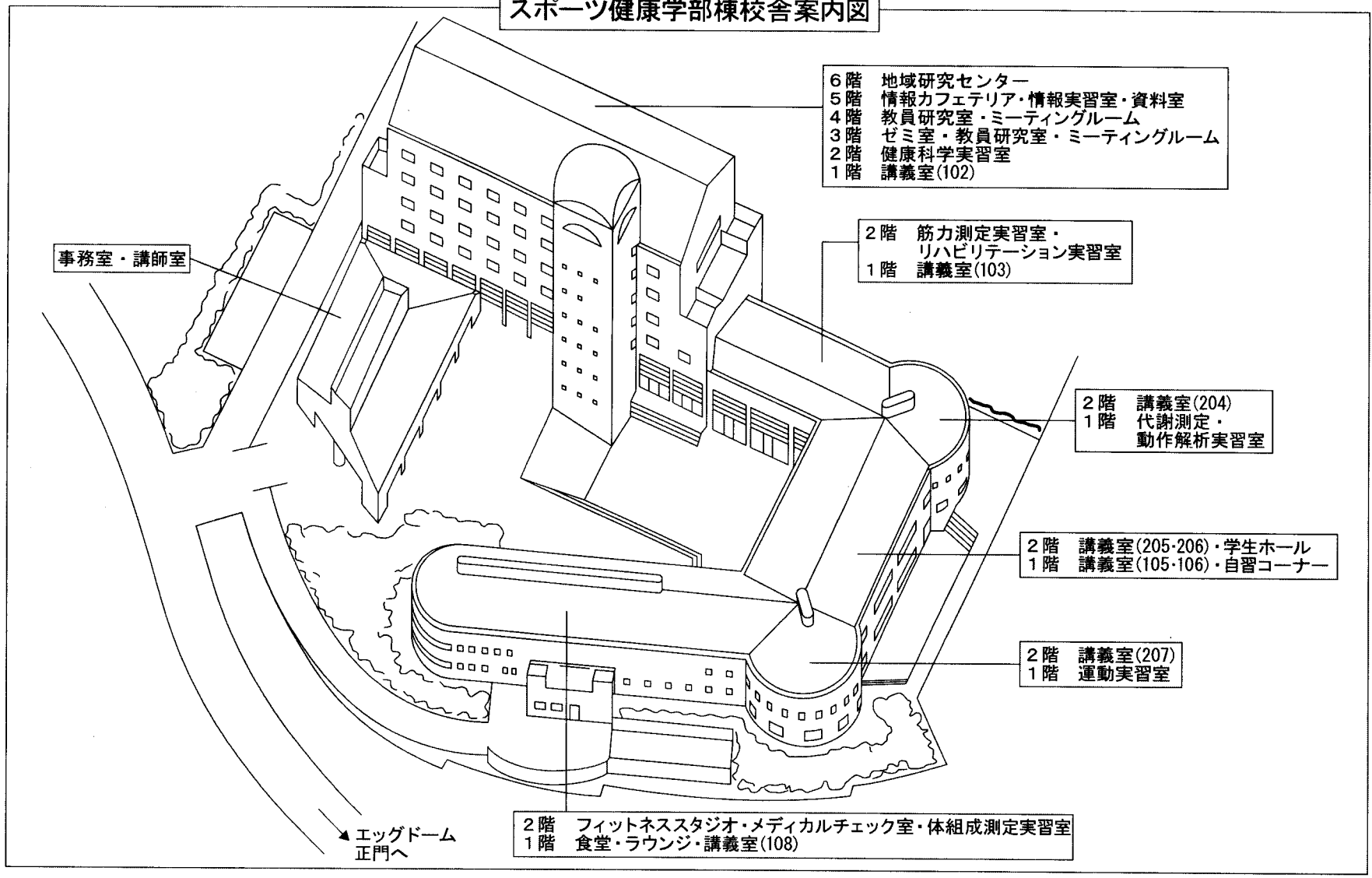
経済学部校舎案内図

経済学部棟校舎案内図





スポーツ健康学部棟校舎案内図



- 6階 地域研究センター
- 5階 情報カフェテリア・情報実習室・資料室
- 4階 教員研究室・ミーティングルーム
- 3階 セミ室・教員研究室・ミーティングルーム
- 2階 健康科学実習室
- 1階 講義室(102)

- 2階 筋力測定実習室・リハビリテーション実習室
- 1階 講義室(103)

- 2階 講義室(204)
- 1階 代謝測定・動作解析実習室

- 2階 講義室(205-206)・学生ホール
- 1階 講義室(105-106)・自習コーナー

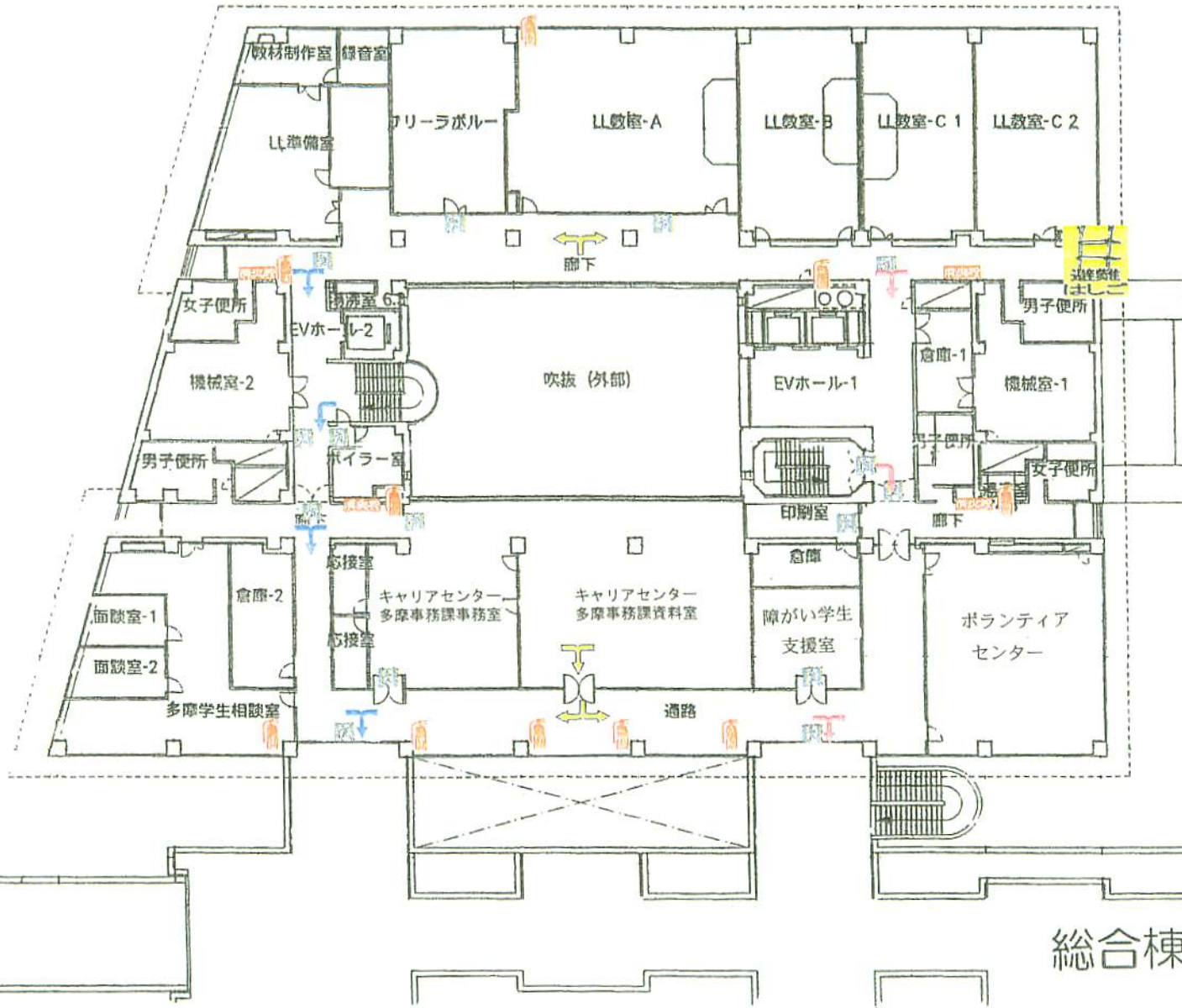
- 2階 講義室(207)
- 1階 運動実習室

- 2階 フィットネススタジオ・メディカルチェック室・体組成測定実習室
- 1階 食堂・ラウンジ・講義室(108)

事務室・講師室

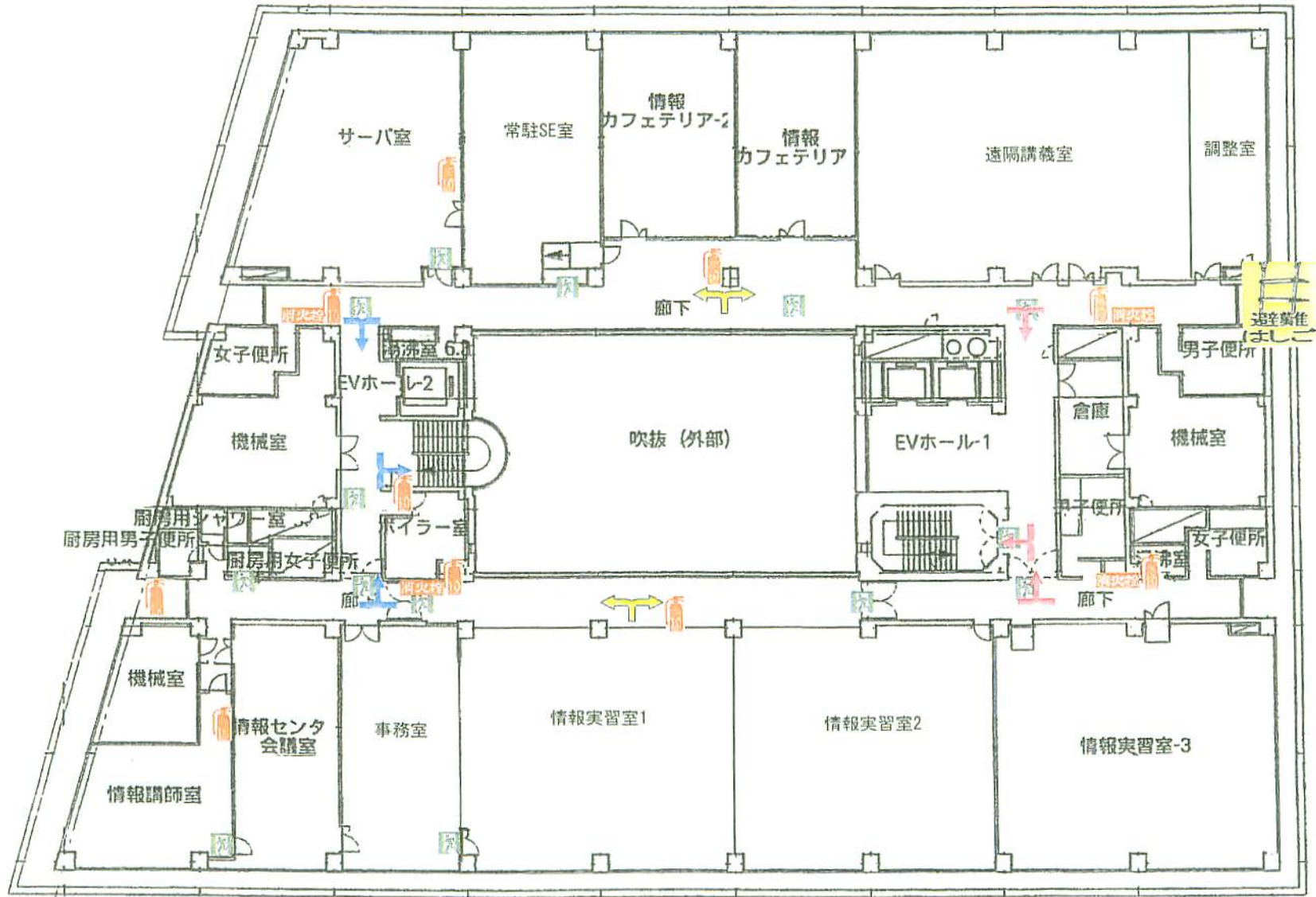
▲エッグドーム
正門へ

避難経路



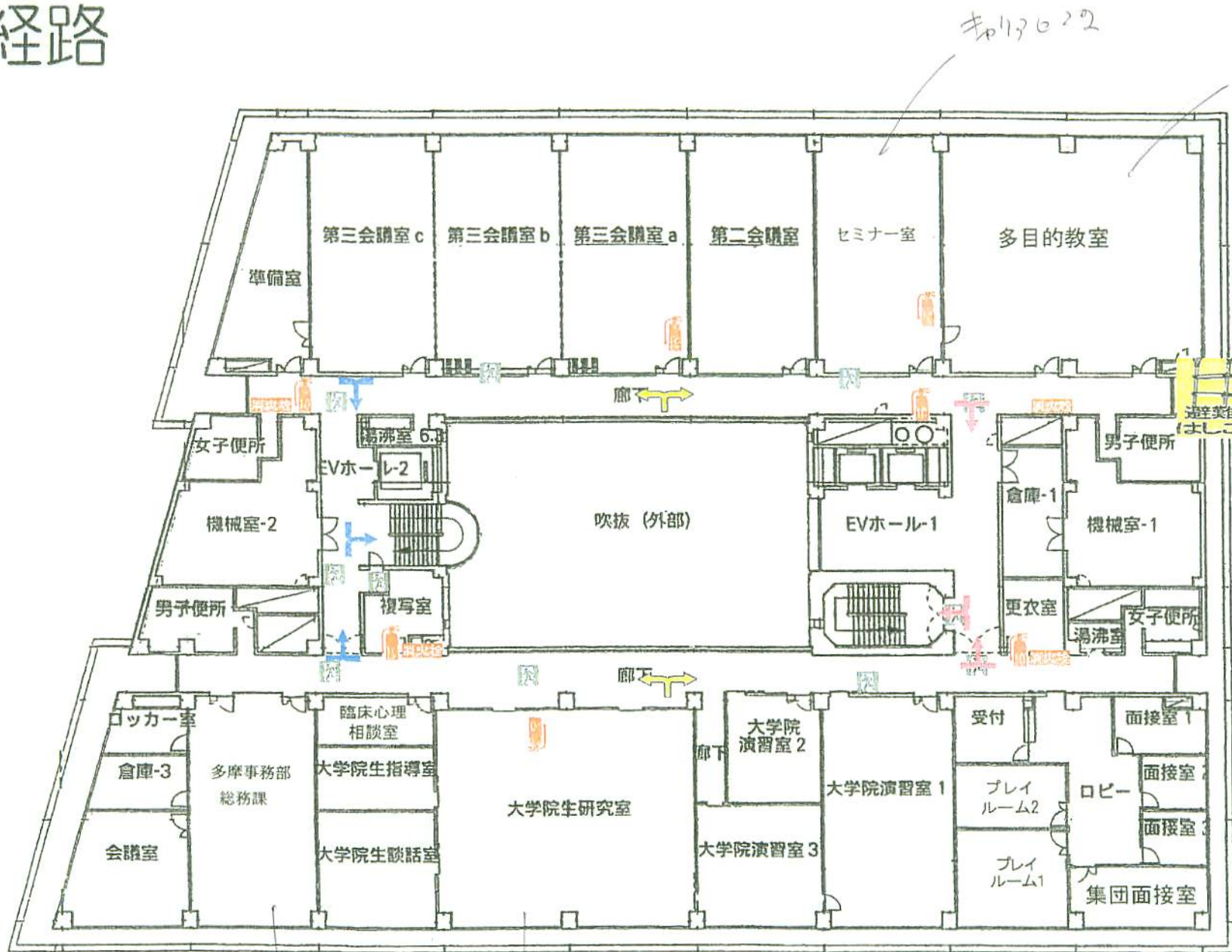
総合棟 2F

避難経路



総合棟 3F

避難経路

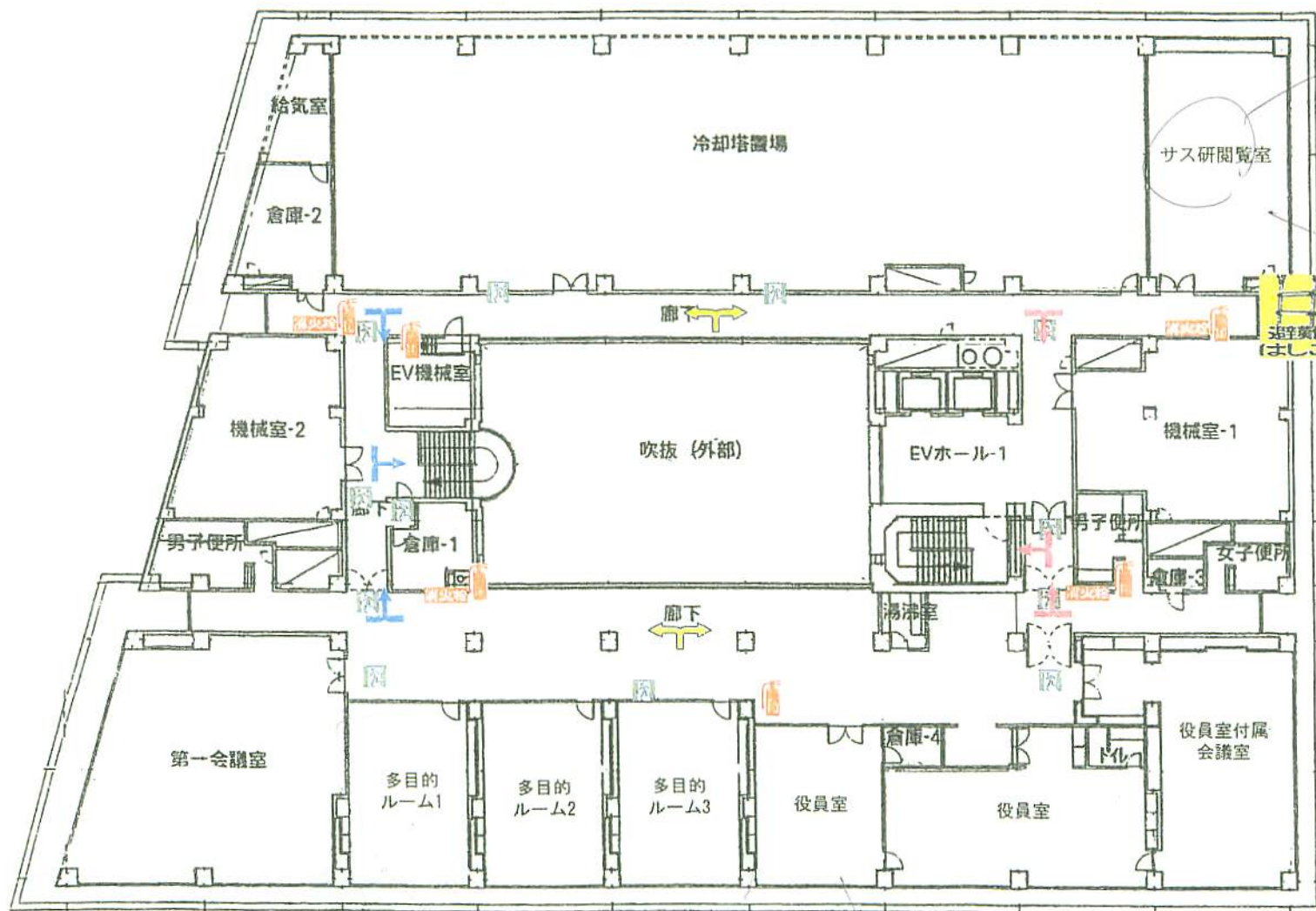


4F

理学院

総合棟 4F

避難経路

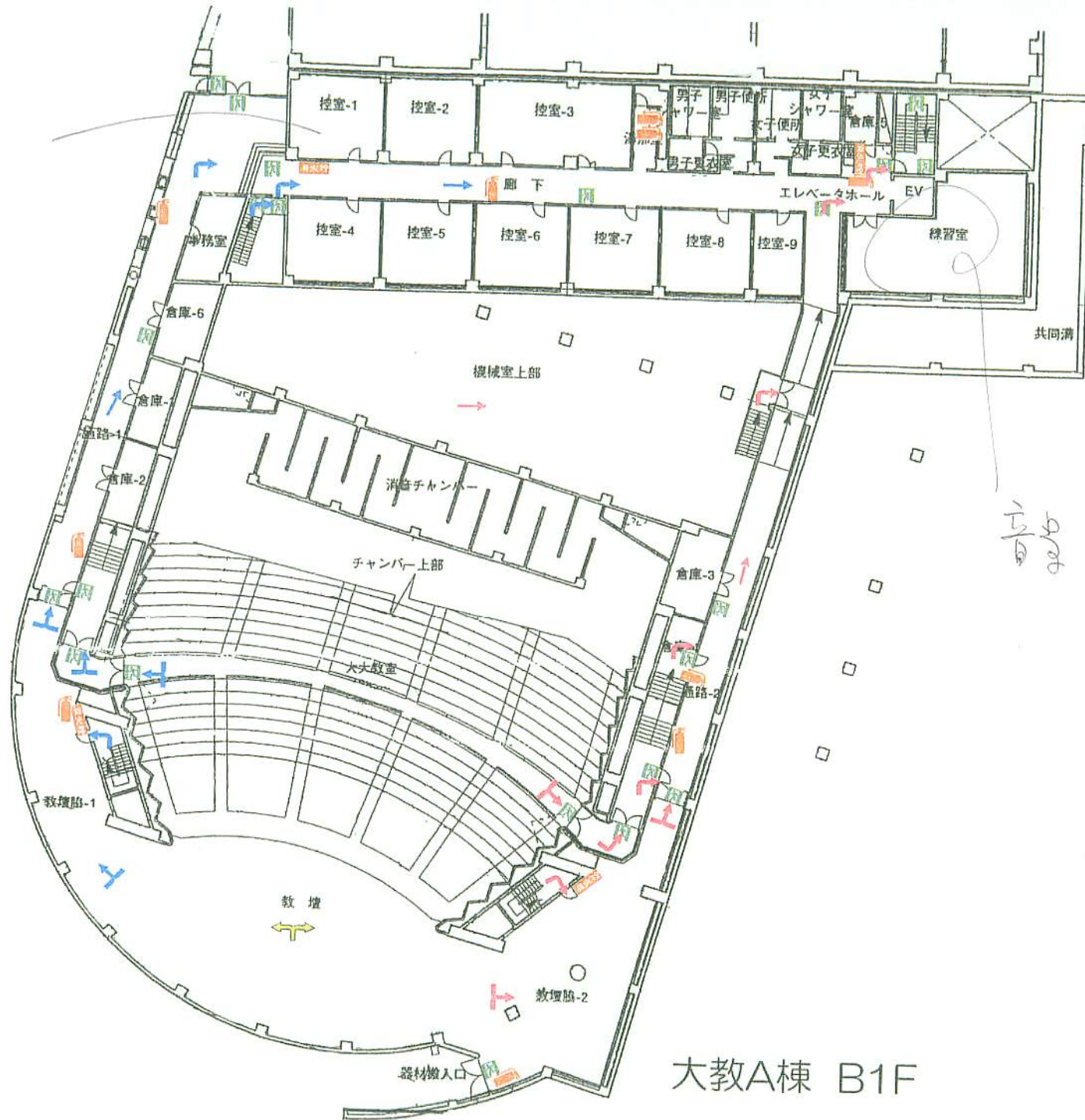


初回
③
逆活定

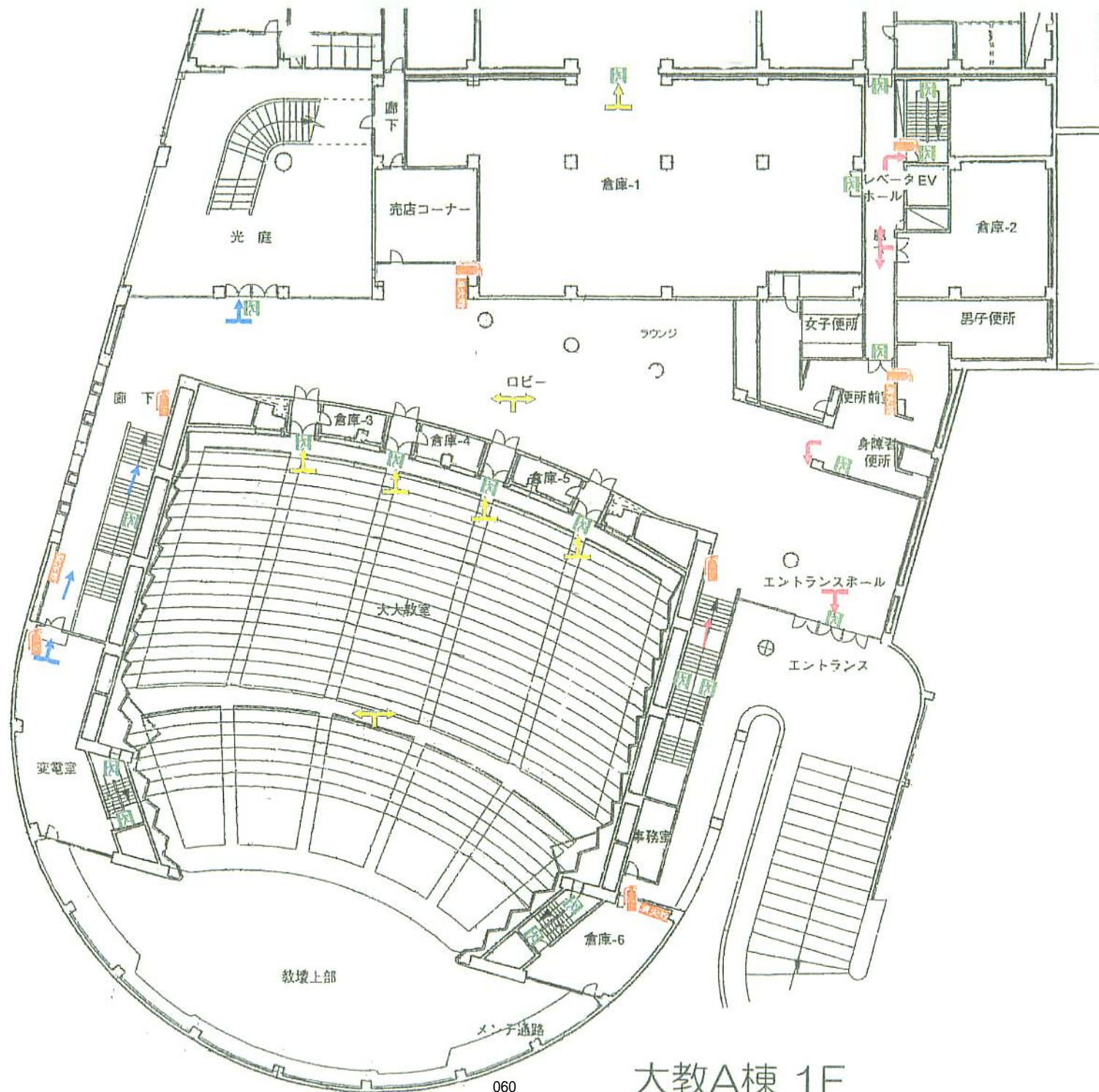
B2 書庫

総合棟 5F

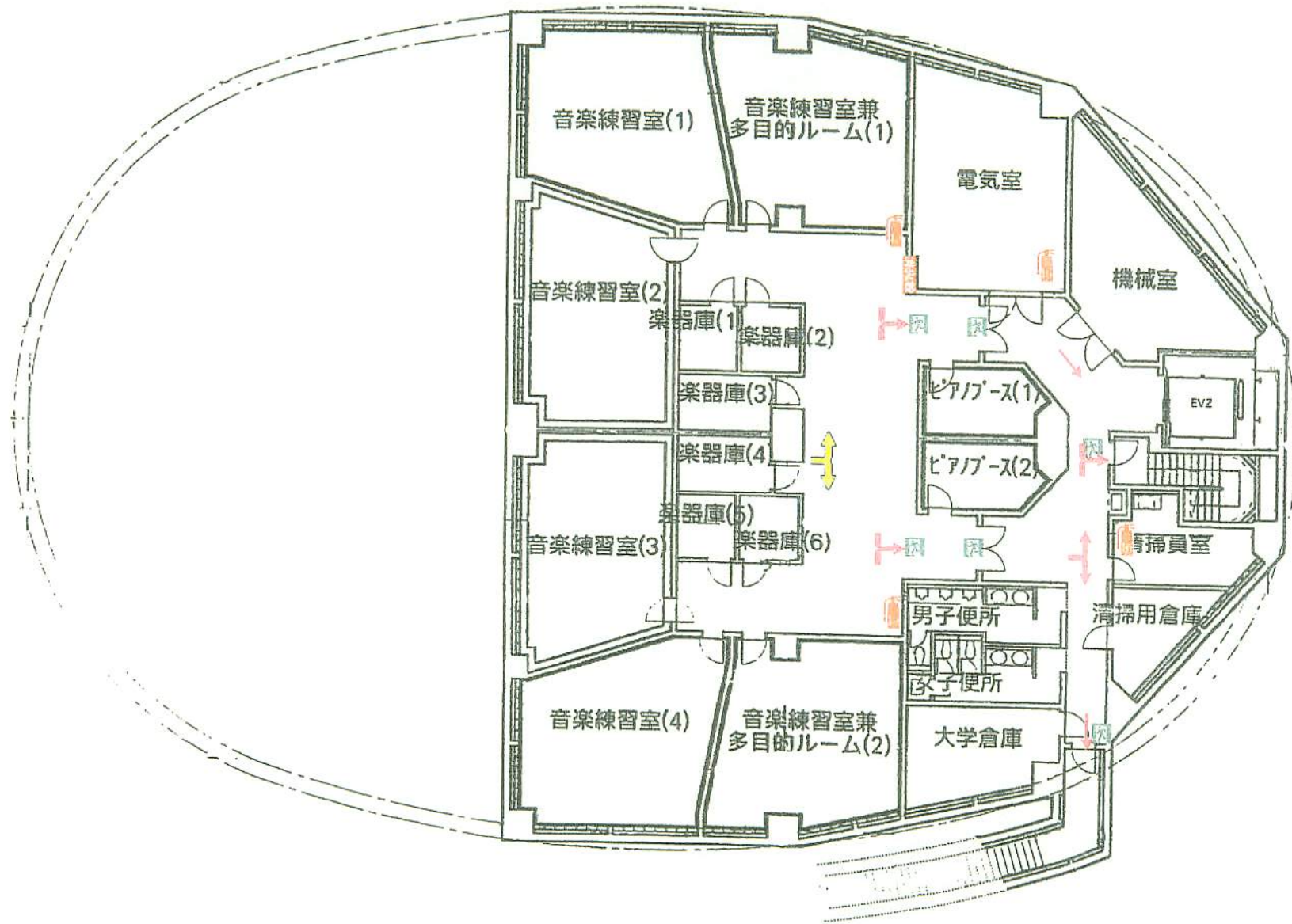
避難経路



避難経路

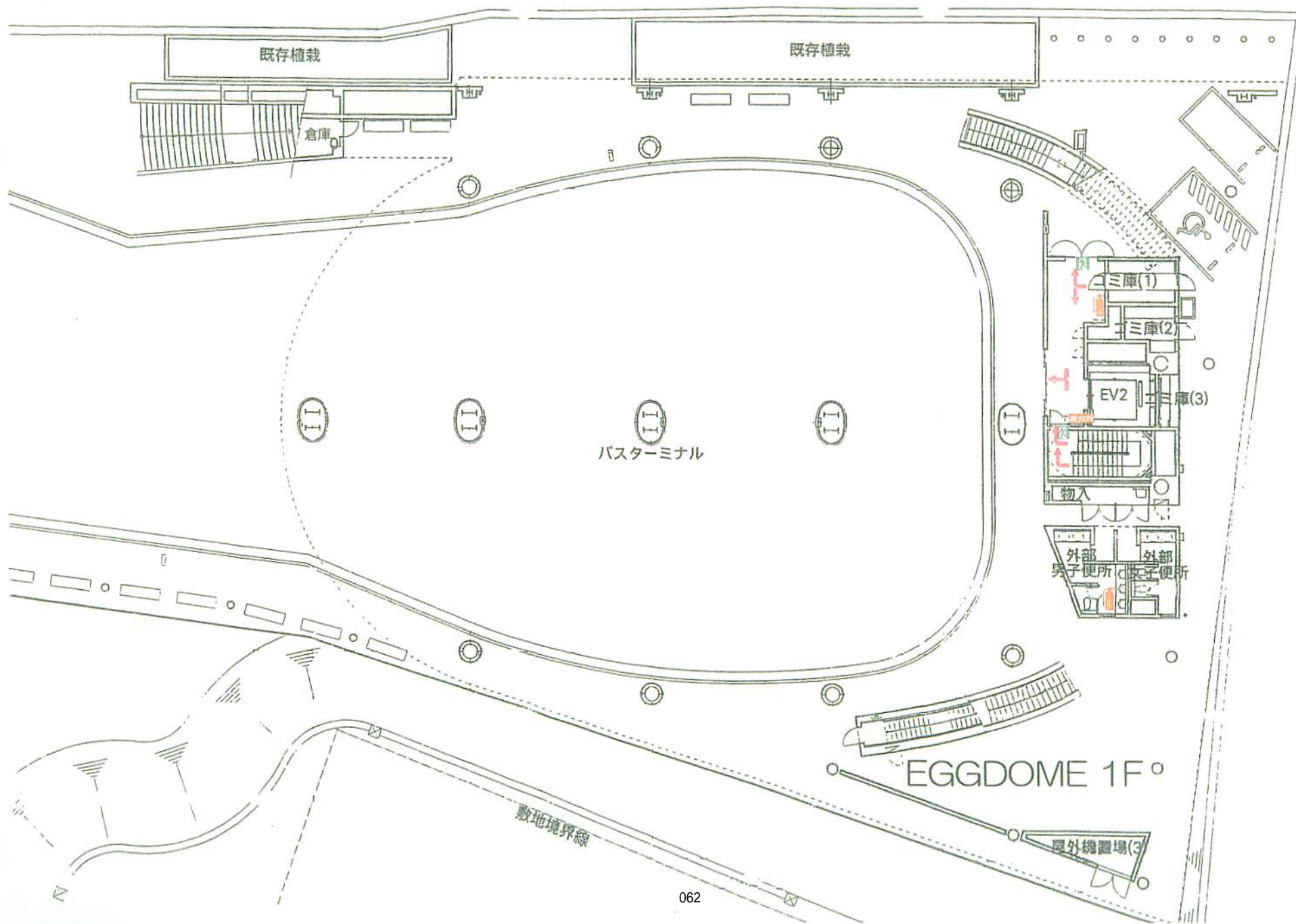


避難経路

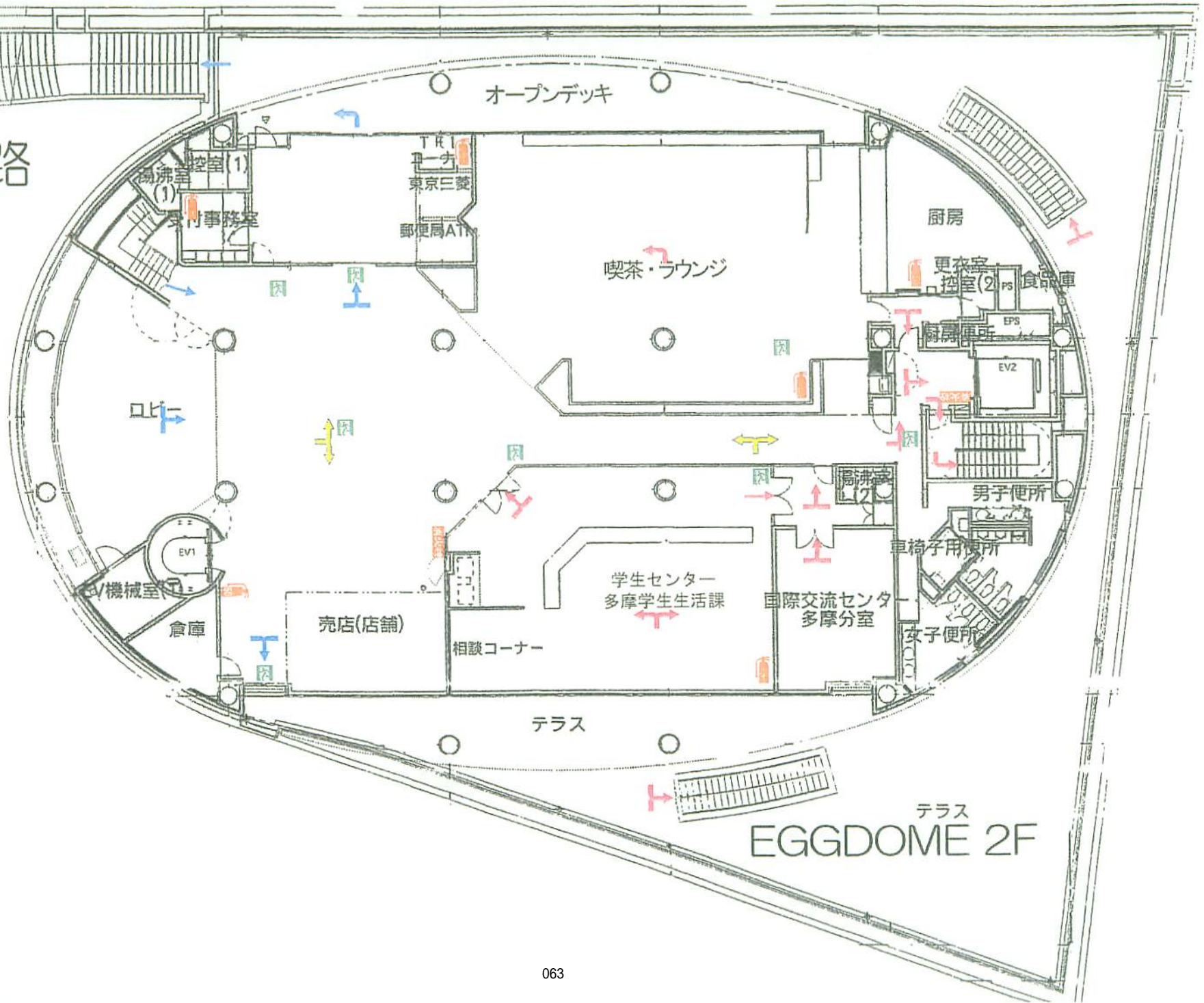


EGGDOME B1F

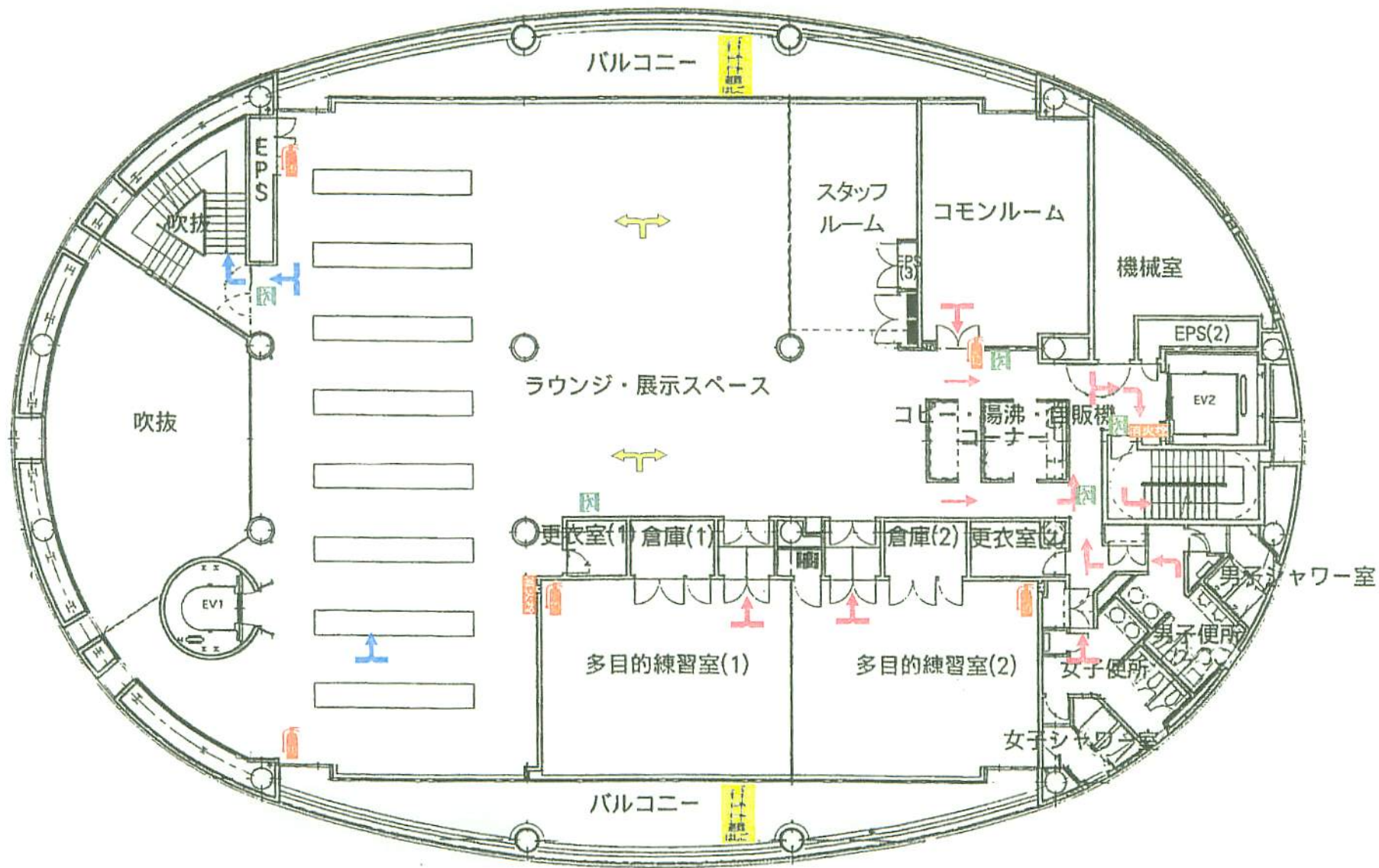
避難経路



避難経路

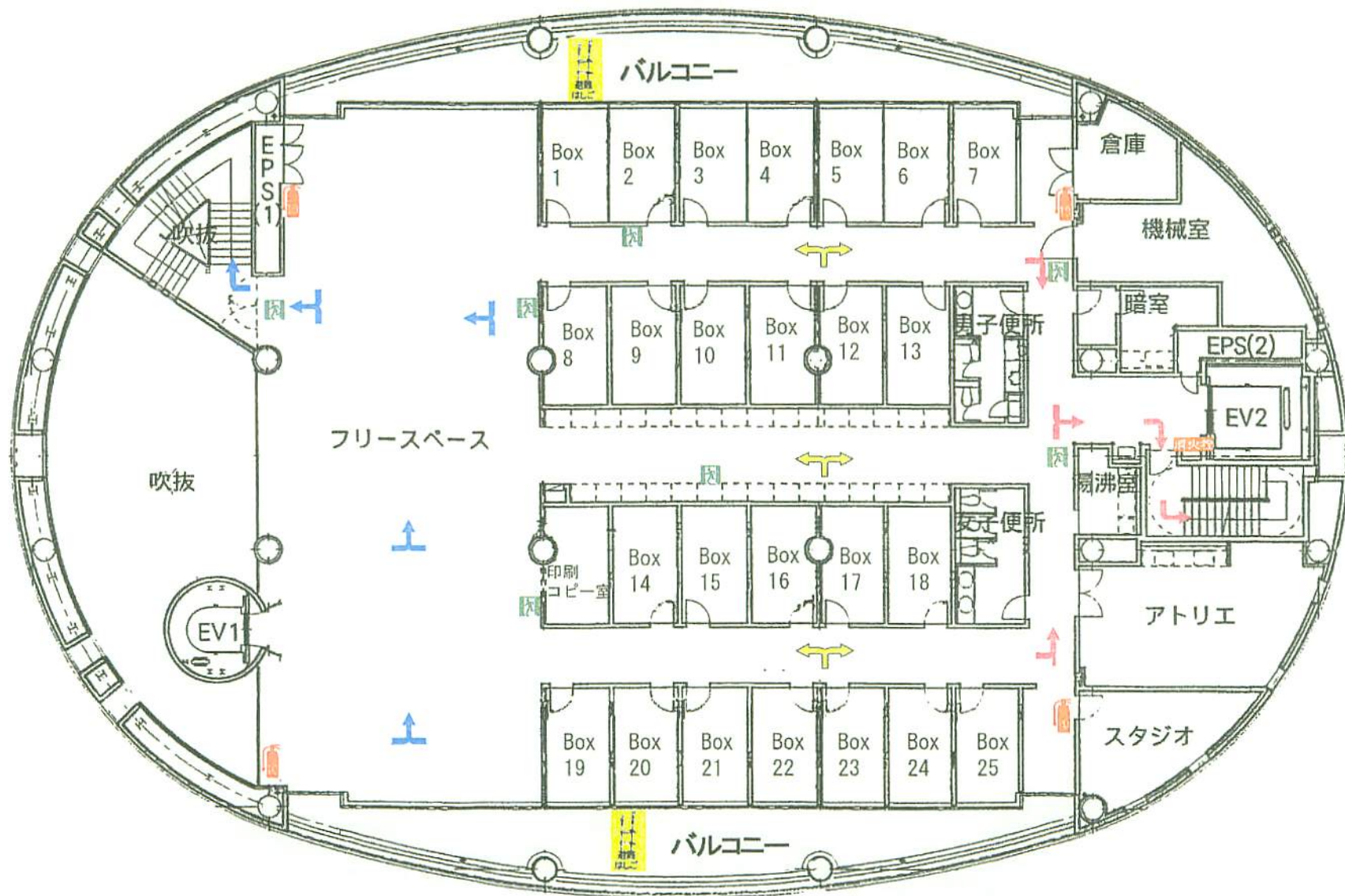


避難経路



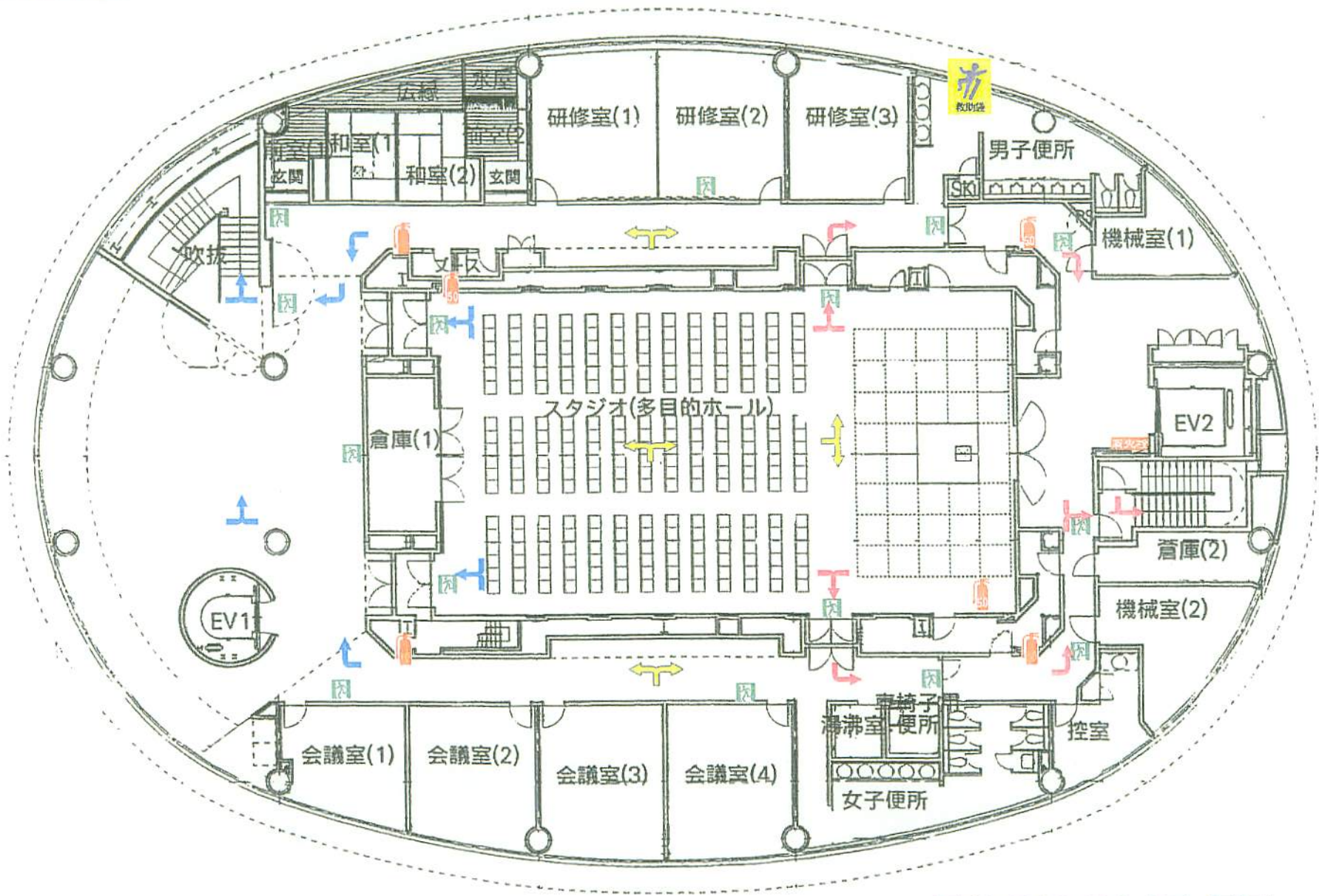
EGGDOME 3F

避難経路



EGGDOME 4F

避難経路



EGGDOME 5F

多摩地区教室一覧表(1)

【経済学部棟】

教室番号	収容定員	移動機	スクリーン	モニター	設備
B20	30	○			◆●
B21	30	○			◆●
B22	30	○			◆●
B23	30	○			◆●
B24	30	○			◆●
101	405		○		液晶プロジェクター, VTR, DVD, CD, OHC, マイク, BD ◆●
102	517		○		液晶プロジェクター, VTR, DVD, CD, OHC, マイク, BD ◆●
103	405		○		液晶プロジェクター, VTR, DVD, CD, OHC, マイク, BD ◆●
111	52	○	○		◆●
112	52	○	○		◆●
113	52	○	○		液晶プロジェクター, VTR, DVD, CD, OHC, BD ◆●
114	52	○	○		液晶プロジェクター, VTR, DVD, CD, OHC, BD ◆●
115	52	○	○		液晶プロジェクター, VTR, DVD, CD, OHC, BD ◆●
116	52	○	○		液晶プロジェクター, VTR, DVD, CD, OHC, BD ◆●
117	52	○	○		液晶プロジェクター, VTR, DVD, CD, OHC, BD ◆●
120	24	○			◆●
121	24	○			◆●
122	24	○			◆●
123	24	○			◆●
124	24	○			◆●
125	24	○			◆●
126	24	○			◆●
127	24	○			◆●
128	24	○			◆●
129	24	○			◆●
201	305		○		液晶プロジェクター, VTR, DVD, CD, OHC, BD, マイク ◆●
202	305		○		液晶プロジェクター, VTR, DVD, CD, OHC, BD, マイク ◆●
203	305		○		液晶プロジェクター, VTR, DVD, CD, OHC, BD, マイク ◆●
204 (電算機実習室)	40		○		マルチメディア機器, インターネット利用, PC実習 ●
205	165		○		液晶プロジェクター, VTR, DVD, CD, OHC, BD, マイク ◆●
206	165		○		液晶プロジェクター, VTR, DVD, CD, OHC, BD, マイク ◆●
211	52	○	○		液晶プロジェクター, VTR, DVD, CD, OHC, BD ◆●
212	52	○	○		液晶プロジェクター, VTR, DVD, CD, OHC, BD ◆●
213	52	○	○		液晶プロジェクター, VTR, DVD, CD, OHC, BD, 遠隔講義システム ◆●
214	52	○	○		液晶プロジェクター, VTR, DVD, CD, OHC, BD ◆●
215	52	○	○		液晶プロジェクター, VTR, DVD, CD, OHC, BD ◆●
216	52	○	○		液晶プロジェクター, VTR, DVD, CD, OHC, BD ◆●
217	52	○	○		液晶プロジェクター, VTR, DVD, CD, OHC, BD ◆●
220	30	○			◆●
221	30	○			◆●
222	30	○			◆●
223	30	○			◆●
224	30	○			◆●
304	165		○		液晶プロジェクター, VTR, DVD, CD, OHC, BD, マイク ◆●
305	135	○	○	○	OHC, 液晶プロジェクター, VTR, DVD, CD, ハンコン, マイク, BD ◆●
306	47		○		液晶プロジェクター, VTR, DVD, CD, OHC, BD, マイク ◆●
307	47	○	○		液晶プロジェクター, VTR, DVD, CD, OHC, BD, マイク ◆●
311	52	○	○		液晶プロジェクター, VTR, DVD, CD, OHC, BD ◆●
312	52	○	○		液晶プロジェクター, VTR, DVD, CD, OHC, BD ◆●
313	52	○	○		液晶プロジェクター, VTR, DVD, CD, OHC, BD ◆●
314	52	○	○		液晶プロジェクター, VTR, DVD, CD, OHC, BD ◆●

教室番号	収容定員	移動機	スクリーン	モニター	設備
315	52	○	○		液晶プロジェクター, VTR, DVD, CD, OHC, BD ◆●
316	52	○	○		液晶プロジェクター, VTR, DVD, CD, OHC, BD ◆●
317	52	○	○		液晶プロジェクター, VTR, DVD, CD, OHC, BD ◆●
320	30	○			◆●
321	30	○			◆●
322	30	○			◆●
323	30	○			◆●
324	30	○			◆●
325	30	○			◆●
326	30	○			◆●
327	30	○			◆●
328	30	○			◆●
329	30	○			◆●

※全室冷房完備

【社会学部棟】

教室番号	収容定員	スクリーン	モニター	マイク	設備
メディア表現実習室	42	○	○	○	VTR, DVD, BD, CD, OHC, 電算機 (映像編集) ◆●
102	149	○		○	液晶プロジェクター, VTR, DVD, CD, OHC, BD ◆●
201	375	○		○	VTR, DVD, CD, OHC, 液晶プロジェクター, ドームカメラ, BD ◆●
202	270	○		○	VTR, 映写機, CD, DVD, OHC, スライド, 液晶プロジェクター, 暗幕, ピアノ, BD ◆●
203 (スタジオ実習室)	-				スタジオ設備一式 ◆●
社会調査室					◆●
政策研究室					◆●
301	153	○	○	○	液晶プロジェクター, VTR, DVD, CD, OHC, BD ◆●
302	153	○	○	○	液晶プロジェクター, VTR, DVD, CD, OHC, BD ◆●
303	72	○	○		VTR, DVD, CD, MD, OHC, 液晶PJ, 遠隔講義システム ◆●
304	72	○			液晶プロジェクター, VTR, DVD, CD, OHC, BD ◆●
305	72	○			液晶プロジェクター, VTR, DVD, CD, OHC, BD ◆●
306	72	○			液晶プロジェクター, VTR, DVD, CD, OHC, BD ◆●
401	56	○			移動機, VTR, DVD, CD, OHC, 液晶PJ, BD ◆●
402	56	○			移動機, VTR, DVD, CD, OHC, 液晶PJ, BD ◆●
403	56	○			移動機, VTR, DVD, CD, OHC, 液晶PJ, BD ◆●
404	56	○			移動機, VTR, DVD, CD, OHC, 液晶PJ, BD ◆●
405	56	○			移動機, VTR, DVD, CD, OHC, 液晶PJ, BD ◆●
406	56	○			移動機, VTR, DVD, CD, OHC, 液晶PJ, BD ◆●
407	56	○			移動機, VTR, DVD, CD, OHC, 液晶PJ, BD ◆●
408	56	○			移動機, VTR, DVD, CD, OHC, 液晶PJ, BD ◆●
501	72	○			VTR, DVD, CD, OHC, 液晶PJ, BD ◆●
502	72	○			液晶プロジェクター, VTR, DVD, CD, OHC, BD ◆●
503	72	○			VTR, DVD, CD, OHC, 液晶PJ, BD ◆●
504	72	○			液晶プロジェクター, VTR, DVD, CD, OHC, BD ◆●
515	24	○			◆●
516	24	○			◆●
517	24	○			◆●
518	24	○			◆●
519	24	○			◆●
520	24	○			◆●
611	24	○			◆●
612	24	○			◆●
613	24	○			◆●
614	24	○			◆●
615	24	○			◆●
616	24	○			◆●
617	24	○			◆●
618	24	○			◆●
619	24	○			◆●
620	24	○			◆●
多目的ゼミ室ARC		○		○	液晶プロジェクター, VTR, DVD, CD, OHC, BD ◆●

多摩地区教室一覧表(2)

【社会学部棟】

教室番号	収容定員	スクリーン	モニター	マイク	設備
621	24	○			◆●
622	24				◆●
711	24	○			◆●
712	24				◆●
713	24	○			◆●
714	24				◆●
715	24	○			◆●
716	24				◆●
717	24	○			◆●
718	24				◆●
719	24	○			◆●
720	24				◆●
721	24	○			◆●
722	24				◆●
812	24				◆●
814	24				◆●
816	24				◆●

※全室冷暖房完備
※812～816教室は大学院専攻室

【現代福祉学部棟】

教室番号	収容定員	移動機	モニター	VTR	設備
201	63	○		○	◆●
202	63	○		○	◆●
203	63	○		○	◆●
204	63	○		○	◆●
211	22	丸型			◆●
212	22	丸型			◆●
213	22	丸型			◆●
214	22	角型			◆●
215	22	角型			◆●
216	22	角型			◆●
217	22	角型			◆●
行動分析室				○	編集機, 電算機 ◆●
フットセラピー室			○	○	箱庭療法セット, 遊具, モニタカメラ ◆●
コンピュータ実習室	50				マルチメディア装置, インターネット利用, PC実習 ◆●
301	141		○	○	スクリーン, VTR, DVD, プロジェクター, 遠隔講義システム, 書画カメラ, BD ◆●
302	141		○	○	スクリーン, VTR, DVD, プロジェクター, 書画カメラ, BD ◆●
心理学実験室	90	○	○	○	スクリーン, VTR, DVD, プロジェクター, 書画カメラ, BD ◆●
実習指導室	-		○	○	高齢者疑似体験キット, 車椅子, 介護用ベッド等, 個室相談ブース, ホワイトボード ◆●

※全室冷暖房完備
◆無線LAN対応

【研究・実験棟】

教室番号	収容定員	スクリーン	VTR	設備
101 (地学)	48	○		デスクプロジェクター ◆●
201 (物理)	54	○		◆●
301 (生物)	48	○	○	モニター, ビデオ ◆●
401 (化学)	72	○	○	テレビ, OHP, ビデオ ◆●

※全室冷暖房完備

【スポーツ健康学部棟】

教室番号	収容定員	スクリーン	マイク	暗幕	設備
101 実習指導室	-				◆●
102	234	○	○	○	遠隔講義システム1式 ◆●
103	99	○	○		マルチメディア一式 ◆●
104 代謝測定・動作解析実習室	27	○	○	○	◆●
105	72	○	○		マルチメディア一式 ◆●
106	72	○	○		マルチメディア一式 ◆●
107 運動実習室	-	○	○	○	◆●
108	66	○	○		マルチメディア一式 ◆●
201 健康科学実習室	48	○	○	○	マルチメディア一式 ◆●
202 リハビリテーション実習室	-	○			◆●
203 筋力測定実習室	-				◆●
204	174	○	○	○	マルチメディア一式 ◆●
205	72	○	○	○	マルチメディア一式 ◆●
206	72	○	○	○	マルチメディア一式 ◆●

207	174	○	○	○	マルチメディア一式 ◆●
208 体組成測定実習室	-				◆●
209 クリニック	-				◆●
210 フィットネススタジオ	-				◆●
301 ミーティングルーム	8				◆●
302 ミーティングルーム	36	○		○	マルチメディアシステム ◆●
303 セミ室	36	○			マルチメディアシステム ◆●
304 セミ室	36	○			マルチメディアシステム ◆●
305 セミ室	36	○			マルチメディアシステム ◆●
306 ミーティングルーム	36	○			マルチメディアシステム ◆●
307 ミーティングルーム	36	○			マルチメディアシステム ◆●
401 ミーティングルーム	8				◆●
402 ミーティングルーム	8				◆●
403 ミーティングルーム	8				◆●
404 ミーティングルーム	8				◆●
405 ミーティングルーム	8				◆●
501 情報実習室	52	○	○		PC, プリンタ, 液晶プロジェクタ, マルチメディア一式 ◆●

【総合棟】

教室番号	収容定員	スクリーン	マイク	設備
LL教室A	56	○	○	CALL, ビデオプロジェクター, 冷房, 暗ブラインド, DVD/BD, VTR, OHC, カセットテープ, MD ◆●
LL教室B	48	○	○	CALL, ビデオプロジェクター, 冷房, 暗ブラインド, DVD/BD, VTR, OHC, カセットテープ, MD ◆●
LL教室C1	48	○	○	CALL, ビデオプロジェクター, 暗ブラインド, DVD/BD, VTR, OHC, カセットテープ, MD ◆●
LL教室C2	48	○	○	ビデオプロジェクター, 暗ブラインド, DVD/BD, VTR, OHC, カセットテープ, MD ◆●
情報実習室1	52	○	○	マルチメディア装置, インターネット利用, PC実習 ◆●
情報実習室2	52	○	○	マルチメディア装置, インターネット利用, PC実習 ◆●
情報実習室3	52	○	○	マルチメディア装置, インターネット利用, PC実習 ◆●
遠隔講義室	108	○	○	遠隔講義システム, 演習室, マルチメディア装置 ◆●
臨床心理相談室				ホワイトボード, 遊具, VTR, DVD, モニタ, 電算機, 箱庭療法セット, デジタルカメラ, 行動観察装置 ◆●
大学院演習室1	49	○	○	ホワイトボード, OHP, OHC, プロジェクターシステム, 遠隔講義システム, 冷暖房 ◆●
大学院演習室2	16			ホワイトボード, 冷暖房 ◆●
大学院演習室3	20	○		ホワイトボード, VTR, DVD, モニタ, 冷暖房 ◆●
大学院生指導室	16			ホワイトボード, VTR, DVD, モニタ, 冷暖房 ◆●

【大教室A棟】

教室番号	収容定員	スクリーン	マイク	設備
101	1,619	○	○	照明装置, 映写機, 冷房, プロジェクター, マルチメディア装置 ◆●

【大教室B棟】

教室番号	収容定員	マイク	スクリーン	マイク	設備
201	460	○	○	○	VTR, DVD, CD, 書画カメラ, 液晶プロジェクター, BD ◆●
202	460	○	○	○	◆●
301	740	ローレルカーテン	○	○	ビデオ, VTR, DVD, CD, MD, 書画カメラ, 液晶プロジェクター, ドーム型カメラ, BD, 遠隔講義システム ◆●

※全室冷暖房完備

【多摩総合体育館】

教室番号	収容定員	VTR	テレビ	設備
2A	49	○		スクリーン ◆
2B	49	○		スクリーン ◆
2C	49	○		スクリーン ◆
3A	210	○		◆
2D	50	○		液晶プロジェクター (スクリーン使用), 暗ブラインド ◆
2E	50	○	○	冷房 ◆
2F	50	○	○	B S, 冷房 ◆

●→情報コンセント
◆→無線LANアクセスポイント

エッグドーム食堂問題ワーキング・グループ

最終報告

<性格と課題>

本ワーキング・グループは、エッグドーム食堂の現事業者大学生協からの営業撤退の意向表明を受けて、多摩学生委員会のもとに設けられたアドホックな作業グループであり、エッグドーム食堂問題の今後に関する同委員会の意見を取りまとめるため、その原案作成の役割を担う。主たる検討課題は、以下2点である。

検討課題1. どのようなコンセプト・ヴィジョンをもった食堂を構想するか？

検討課題2. それを、いかにして（どのような運営主体・体制で）実現するか？

<メンバー>

多摩学生センター長	原 伸子
経済学部	粕谷信次、後藤浩子
社会学部	金原瑞人、平塚眞樹（座長）
現代福祉学部	関司直也
スポーツ健康学部	泉 重樹

<会議日程>

11月2日（月）、11月16日（月）、11月27日（金）、11月30日（月）、12月14日（月）、1月7日（木）、1月22日（金）、2月4日（木）、2月15日（月）、2月19日（金）

<会議の経過>

11月2日

1. 本WGにおける検討に向けたテンポの確認
2. 本WGにおける検討の前提となる多摩教学サイドの基本的スタンスの確認
3. 今後の具体的検討課題の確定

11月16日

1. 学生・教職員からの意見聴取の報告
2. 方向性の検討に向けた情報交換（ボランティアセンター、その他）
3. 多摩学生生活委員会への審議経過報告について

11月27日

加藤理事との懇談

法政大学生協（専務理事、教員理事）との懇談

11月30日

1. ヴィジョン・コンセプトをめぐる意見交換
2. 今後の段取りやテンポに関して

12月14日

1. 法政大学生協（専務理事、理事会室長、多摩食堂店長）との意見交換
2. 中間報告に関する検討
3. 今後の方向性と検討のスケジュール

12月18日

多摩学生委員会に中間報告を提出

（その後、各学部および四学部長連絡会議で報告・検討）

1月7日

1. 周辺地域における事業・活動とのコラボレーションをめぐる
：ワーカーズ・コレクティブ関係者からのヒアリング
2. 中間報告の審議経過に関する報告

1月22日

1. 周辺地域における事業・活動とのコラボレーションをめぐる
：若者自立支援事業としての有機農業、ベーカリー経営のヒアリング
2. 理事、法政大学生協と多摩学生センター長との懇談内容報告
3. 最終報告に関する検討

2月4日

1. 周辺地域における事業・活動とのコラボレーションに関する現地視察
（訪問先は本報告末尾に記載）
2. 法政大学生協との懇談

2月15日

1. 最終報告に関する検討
2. ワーキング・グループ活動終了後の進行に関する検討

2月19日

加藤理事、中嶋部長らとの懇談

1. エッグドーム食堂をめぐる経過と現状

(1) 営業撤退の申し出（2009年5月）に至る経過と背景

① 2008年度

2008年12月、エッグドームの食堂を運営する法政大学生協から大学あてに、「多摩エッグドーム営業補填のお願い」として、(1)水光熱費、消耗品費用などの全額補填と事務管理手数料減免、(2)営業時間の見直し、(3)多摩学生委員会との協議のお願い、が提出される。

続いて2009年1月には同じく法政大学生協から、春休み期間中のエッグドーム食堂の閉店の要請がなされ、同2月～3月末まで同食堂は閉店となる。

要請にあたっては、その背景として同食堂をめぐるいくつかの営業環境の変化が指摘された。環境変化とは具体的には、(1)市ヶ谷からの体育履修学生の大幅減少、(2)旧工学部棟における授業履修者の大幅減少、(3)セブン・イレブンの出店という、同食堂・売店の主たる顧客層をめぐり、同年度集中的に生じた変化を指す。生協は、これらの変化により年度末には大幅赤字が予想されるとし、同食堂の営業受託条件そのものの変化と認識せざるを得ない状況に対して、大学側に営業基盤再確立のための措置を要請した。

② 2009年度

4月、同年度から法政大学内食堂施設における水光熱費（ホール部分）と清掃費が、大学負担となる。

5月、前年度の要請実現は困難との回答を事業室から受け、法政大学生協は同年度前期いっぱいでのエッグドーム食堂・売店営業からの撤退を申し出る。ここでは、2008年度大幅な営業赤字（同食堂・売店で280万円超）が報告されるとともに、多摩キャンパスにおける各学部棟食堂の構造的な営業赤字も報告され、エッグドーム食堂・売店の赤字経営は、各学部棟食堂への間接的負荷となり、多摩全体の食堂経営に悪影響を及ぼすことになるとの懸念が示された。

7月、法政大学生協から、持続的営業のための条件の見直しとして、(1)営業に不可欠な器具備品、消耗品及び水光熱費の補填、(2)エッグドームにおける自販機設置 が要請され、これが実現困難な場合には営業撤退せざるを得ないとの意向が示される。

(2) 多摩学生委員会および多摩4学部における議論と対応の経過

2009年度多摩学生委員会では、6月、7月の委員会において、生協からのエッグドーム食堂の営業撤退申し出をめぐり審議が交わされ、途中各学部教授会にも持ち帰り、あわせて審議がなされた。その過程で、多摩キャンパス全体におけるゆるやかな共通認識として確認されてきたのは以下の諸点である。

- ①（とりわけ郊外型キャンパスの）大学における食の環境は、学生・教職員にとって重要な福利厚生条件、教学を支える環境であり、大学間競争が激化する今日、そ

の充実は大学経営上でも喫緊の課題になっている。

- ② 多摩キャンパスにおける食環境をめぐるのは、移転以来の設計・設備環境から赤字が生み出される構造があるとの指摘もあり、大学はその指摘の妥当性を調査・確認するとともに、指摘が妥当である場合には、エッグドーム食堂問題の背景として、本キャンパス全体の食堂施設に関する対応も視野に入れるべきである。それに加え、多摩4学部教授会においてもそれぞれに学生の食環境をめぐる課題は認識・議論されており、キャンパス全体の食環境の点検・検討は必要な課題と考えられる。
- ③ エッグドームの食環境は、学生厚生施設に配置された食堂として、各学部エリアにおける食環境とは異なる独自の意味も有しており、その場のあり方は多摩キャンパス全体の活気や学生生活の豊かさに固有の影響を及ぼすと考えられ、軽視すべきでない。

7月には、あわせて多摩4学部長連絡会議で4学部長連名による総長あて「エッグドーム内食堂に関するお願い」が提出された。(添付資料)ここでは、同食堂が多摩キャンパスの教学全体に果たす意味の大きさにかんがみ、目下進行中の多摩学生委員会における本件をめぐる審議の機会と期間を保証するよう、理事会に要請された。

8月には、多摩学生委員会と法政大学生協、および多摩学生委員会と加藤理事、徳安理事との懇談が開催された。

法政大学生協との懇談においては、前年度来生協から要請されていた多摩学生委員会との協議が実現したことが評価されるとともに、エッグドームを初め多摩キャンパスにおける食堂営業全体の状況が報告された。同生協からは、移転時における食堂設計のロスからコストがかさむ構造があることや、加えて近年食堂利用が減少していることなど、キャンパス全体の食環境をめぐる状況が、エッグドーム食堂の赤字を放置できない事情と関連していることがあらためて報告された。多摩学生委員会側では、教学を担う立場からはエッグドームの食環境は固有に重要な位置を占めており、何らかの形で再活性化を試みたいとの意向が示された。双方とも今後も継続的協議を続ける意向が示された。

担当理事との懇談では、目下理事会においても学内食環境の整備・改善を課題化していること、あわせて多摩キャンパス活性化も理事会の課題であり、食堂業者が短期で入れ替わるような事態はその点からも望ましくないと考えていること、本件については、4学部長要請にあるように教学側が時期を区切って検討するのであれば、その期間を理事会としても担保する方向で考えたいとの報告や意向が示された。

9月、法政大学生協から、同年度後期からのエッグドーム食堂・売店の営業時間短縮、土日の営業休止、2010年2、3月の営業休止が示される。

こうした経過を受けて、10月の多摩学生委員会において、多摩学生センター長の諮問機関として本ワーキング・グループが組織された。

(3) 多摩キャンパスにおける食環境をめぐる現状と課題

本格的検討は本グループの課題を超えており、今後の調査・検討課題になると考えられるが、本グループにおける検討を通じて既にいくつかの点で、多摩キャンパス全体における食環境をめぐる現状と課題が浮上した。

第一に、先述した食堂施設環境の点検課題である。主たる食堂業者である法政大学生協からは食堂施設は移転時の予定人口にあわせて設計されており、職員配置、水光熱費、消耗品費等でコスト高になる構造があり、これが社会学部・経済学部両学部棟食堂の構造的赤字の原因の一つを構成しているとの指摘がある。この点について調査・確認する課題がある。また新設学部の現代福祉学部においては、学部棟内に学生数に見合った食堂施設を設ける条件がなく、これが社会学部棟食堂の混雑原因の一つにもなっており、両学部エリア全体を見渡した食環境のリデザインが課題になっている。

第二に、食堂施設の修繕の課題である。当初移転学部である経済学部・社会学部両学部棟食堂は、すでに25年以上を経過しているが、その間厨房・ホールとも修繕・改装がなされていない。現在多摩キャンパスにおいては修繕事業が進行中であるが、これに食堂施設の修繕は計上されていないと聞いている。食堂の修繕事業をどのような形で実施するか、早急に検討し、必要に応じた要請を行う必要がある。

第三に、第一の課題と関連するが、多摩キャンパスの学生・教職員人口が、食堂事業の営業環境として十分なものであるかについて検討する課題がある。過去の多摩学生委員会が行った調査に拠れば、他大学でのヒアリングにおいて、大学における人口が6000人以下になると食堂影響が赤字化するとの知見も得たという。仮にキャンパスの人口規模そのものが食堂営業の環境として不十分であるのだとすると、どのような業者が受託しても長期的営業は望めない。この点もあらためて調査等を通して検討することが課題であろう。

2. エッグドーム食堂の今後の方向性をめぐる提言

本グループにおける検討の結果、以下の諸点を提言したい。

- ① エッグドームの食堂は、本キャンパスにおける学生厚生施設内に位置し、加えてバスターミナル上に位置するという二重の意味において、キャンパス内の全学部学生が共通に利用しうる唯一の食環境であり、学生生活にとって固有の重要な意味がある。したがって、多摩4学部ならびに理事会は積極的に協力・連携しあい、この食環境を維持することはもちろん、さらに改善・魅力化することがキャンパス運営上、重要かつ有意義な課題である。
- ② 上に述べたエッグドーム食堂のキャンパス内における独自の位置にかんがみれば、本来その場は、消極的な意味での学部棟食堂の補完としてよりも、積極的な意味で学部棟食堂から差別化された、周辺地域との接点に立地する学生厚生施設という位置づけにふさわしい食環境として構想・運営されるべきであろう。

本グループではその一つの方向性として、本キャンパスにおける食環境の改善・魅力化に、学生や周辺地域の参加も得て先導的に取り組む実験的な食環境づくりを提言したい。それは例示的に挙げるならば、地産地消、フェアトレード、有機農業、

スロービジネス、福祉・協同労働、食育、文化の発信・交流などが多様に織り合わされた食環境の創出を含意する。¹

これの実現のためには、営業主体と教学主体さらには法人主体がその協働・連携のもとに取り組むことが必要であろう。その際、主たる営業主体としては、本学教職員・学生を構成員とする法政大学生協が引きつづき担われることが望ましい。

近年、他大学においても、大学における「食」を学生厚生事業としてだけでなく、教学上の研究・教育活動にも関連づけた実験的事業展開を試みる例が生まれつつある。多摩キャンパスにおける学部構成を生かす観点からも、「食」環境づくりを媒介とした、キャンパス横断的な実践的教育・研究活動を志向することができれば、それは多摩キャンパスの複合的意味での活性化として極めて有意義であろう。

- ③ 本グループにおいても、その先導的実験の方向性・具体性について一定の調査・検討をおこない、実現可能性に一定の目途を見いだしてきたが、今後本格的な企画・実現のためには、営業主体・教学主体（学生院生含む）・その他当事業に関心と経験をもつ周辺地域主体などの参加のもとに「エッグドーム食堂企画運営委員会（仮称）」を速やかに組織し、大学・法人からの理解・支援も仰ぎつつ、2010年度後期からの事業開始に向けて、前期期間中に企画検討、多様な主体によるコラボレーションの具体的態勢準備、実験的事業などに段階的に取り組んでいく必要がある。
- ④ 最後に、本グループの任務を超えた指摘であるが、上記提言を実現していくための基盤・条件をなす課題としても、多摩キャンパス全体の食環境、ひいては法政大学全体における食環境の点検・改善に向けた具体的検討と取り組み・条件整備を、今後の多摩キャンパス、および大学全体、法人に課題としていただくよう、提言したい。食の問題は交通問題とともに、学生・保護者から近年とりわけ強い関心が寄せられており、今後のキャンパス運営、あるいは大学経営にとっても、決して軽視できない課題である。

こうした提言に至った背景には、多摩キャンパスにおける4学部の教員で構成された本グループが、発足後4ヶ月近くの間で集中的に実施した各方面との交渉・意見交換・ヒアリングを通して、多摩キャンパスにおける食環境についてはじめて本格的に議論を交え、その過程でさまざまな認識を共有できたことが大きい。以下では、その内容について幅広い関係者にご理解・共有頂きたく、若干の説明を加えておきたい。

第一には、学生の状況と動きである。現在本キャンパスにおける学生の食をめぐる状況には、課題と可能性双方が併存していると考えられる。課題としては、食生活への無関心（朝食抜き、カップ麺など栄養バランスを欠いた食事など）や食費切り詰め（昼食の上限はおよそ400円）が挙げられるが、これらはいずれも近年一層の広がりを見せていると認識される。そしてこうした学生の食問題はとりわけ下宿学生の保護者にとって強い関心・懸念であることも多方面から伝えられた。他方で可能性としては、キャンパス内で農業に

¹ ここまでの検討を通して、さまざまな事業構想が論議されたが、一つの具体案としては、焼きたてパンとスープを中心とした、ベーカリー・カフェの可能性もありうる。

関心を寄せキャンパス内で野菜の作付を試みる有志の学生・教員グループや、有機農業や食問題をテーマとするゼミやサークルも一定数存在することが挙げられる。また今年度発足した多摩ボランティア・センターを通して、学生の主体性・自主性を重視したボランティア活動がキャンパス周辺地域において精力的に展開され始めており、地域住民からも大きな期待が寄せられている。このような活動からは、同センターの枠を超え、学生と地域住民が協働する形でのコミュニティ・ビジネスへの展開可能性も見出される。こうした、学生の間広がる食を取り巻く課題と可能性の双方をすくい上げていくことが必要かつ有意義であろうと本グループでは考えている。

第二に、教員層の関心と動きである。本グループの検討過程においては各学部教員と公式・非公式な意見交換が交わされたが、その中には、学内外で農業や食問題に関する活動に取り組む教員の数は多く、学生参加のコミュニティ・ビジネスに意欲的な教員たち、キャンパス内に学生・教職員の「居場所」となりうるカフェ・アート空間の創出を構想する教員たち、またキャンパスの環境問題に関心をもち地域との協働事業を志向する教員たちなど、多摩キャンパスには食・環境・地域・大学を貫く実にさまざまな関心・研究・実践が存在する。しかしそれらはこれまで必ずしも意識的にネットワーク化されてはおらず、とりわけ「大学づくり」という観点での連携・集約はされていない。郊外型キャンパスの強みを最大限生かすためには、こうした教員層の関心や動きを何らかの形で周辺地域とつなぎつつ連関化していく試みがなされるべきではないかと本グループでは考えている。

第三に、現行の営業主である法政大学生協、および大学理事会と本グループとの間で、それぞれ数回にわたる意見交換を行い、ゆるやかな共通認識が形成されつつあることである。本案件は、同生協の撤退意向表明に端を発するものであるが、その背景には先述したように、エッグドームに留まらず、多摩キャンパス他食堂にも存在する営業活動の困難がある。もとより、生協はじめ営業主が工夫を重ね学生・教職員に支持される魅力ある食堂経営を目指すことは前提であるが、それを以てしても赤字構造を補えない場合には、その補完の責任は多摩地区にキャンパスを設置した大学にもあるのではないかと考えられる。本グループでは、こうした認識を持ちながら同生協および担当理事との意見交換を重ねてきた。その過程で法人側からは、これまで法政大学は他大学に比して食事提供に関する予算配分が著しく少なく、今期理事会ではこの点を課題と認め、食堂業者との意見交換も積極的に行いつつ、学内の食環境の改善に向けて鋭意取り組みつつある段階にあることが示された。また多摩キャンパス全体の食環境についても、改善すべき課題については教学側から積極的に指摘されたいこと、それが構造的困難と認められた場合には大学側で対処する必要があることなどの意向も示されてきた。こうした法人側の認識・姿勢も踏まえつつ同生協との協議を進めるなかで、生協側からも、キャンパス・大学全体での食事業に対して大学側が積極的な姿勢を示すもとであれば、自分たちも本学教職員・学生から構成される協同組合組織にふさわしい食環境づくりに加わる意義は大きく、今後の議論に参加していく可能性も見出されるのではないかと意向も示されてきた。

第四に、本グループでヒアリング・訪問を続けてきた周辺地域の活動や大学への期待である。本グループでは、補足に掲げるような、食・農業に関連して周辺地域で事業・活動を展開する多様な主体を訪問し、ヒアリングを実施してきた。今回関わりを持った主体は、

教員層が有する、あるいは多摩ボランティア・センターが結びつつあるネットワークのなかで、今後エッグドーム食堂における食環境づくりの「実験」を進める上で、その先行事例あるいは協働のパートナーとなりうる事業・活動である。コンタクトはいまだ初歩的な段階であるが、これらの主体からは、われわれの想像以上に、近隣に位置する大学とのコラボレーションへの期待が寄せられている。とりわけその期待感は、これまで大学が取り組んできた狭義の研究・調査活動あるいは実習・演習など教育活動の枠を超えた、新たな「協働的事业」への強い関心でもあると考えられる。今後、より本格的なプランニングを行う段階では、これらの主体に対してさまざまな形で相談や協力を求められる関係ができつつあり、さらにそのネットワークを活用させて頂きながら、多摩キャンパス周辺地域における豊富な活動主体の情報もあわせて確認されてきている。

本グループでは、今回の食堂問題に関する議論を通して、交通至便とは言い難い郊外型キャンパスの立地をプラスに転じさせるためには、多摩地域というこの地域特性を活用した学生生活の支援やキャンパス運営が不可欠であり、その展開可能性が十分豊かにありうることを萌芽的ながらも確認できたと考えている。

■補足資料■

1. 食堂の利用の状況および学生・教職員の要望・期待

限られた範囲・期間ではあるが、本グループによる検討に先立ち、委員周辺にて学生・教職員からエッグドーム食堂の利用実態と、今後の方向性に関する意見聴取をおこなった。そのなかで、今後の検討に向けて留意すべきと考えた点は、以下の諸点である。

- * エッグドーム、および同食堂は、学生・教職員の大学生活で素通りされる空間になっている場合が少なからずある。
- * 一方で、学部棟食堂の（量や座席の）不足を補完する場として同食堂・売店が利用されている場合も一定ある。
- * 利用者の間では、現在の同食堂について、味、価格、雰囲気などいずれの点でも評価・満足度は総じて高くない。
- * 学生が一回の食事にかかる上限は 400 円までとみられ、それ以上の価格帯では内容以前に支持されない可能性がある。
- * 同食堂の今後の方向性をめぐっては、総じて男子学生と女子学生の期待に違いがある。女子学生は総じてカフェ志向。男子学生は総じて多量安価な食事志向。学部棟食堂の不足が補われたら、男子学生の期待に変化が生まれる可能性もある。専門店志向（ラーメン、うどん、カレー、丼ものなど）も相応にある。また食堂でイベントやパフォーマンスが行われていたら立ち寄るかもしれないとの声もある。いずれにしても、わざわざ立ち寄るだけの理由がある場であれば、利用が一定増える可能性がある。
- * 夕方以降、学生・教職員が立ち寄りた雰囲気・価格で、アルコールも楽しめるカ

フェ・バーができれば利用するとの声も一定ある。また、週末（土曜日）の利用に対する期待感が一定ある。

- * 法政大学生協の学生実態調査（2009年度）によれば、多摩キャンパスでは学生の5割近くが10時迄に登校し、約5割が午後5時迄に下校する。投稿日数は4日と5日に7割が集中している。こうした学生の大学利用状況も視野に入れて食を考える必要がある。

2 今後の方向性を検討するうえでの参考情報

本グループの検討過程においては、郊外型キャンパスにふさわしい豊かな食環境づくりに向けて、大学が協働しうる地域社会の事業・活動主体が多様にありうることが報告、共有された。多摩ボランティア・センターでは、これまで活動目的の制約から応じてこれらななかったが、地域からの売買を伴う事業活動の打診・提案も多く寄せられている。

また、実際に近年各地の大学にて以下のように、地産地消など、大学と地域社会の連携で食の改善に取り組む例が生まれつつあることについても確認されてきた。

- ・法政大学小金井キャンパスにおける、地産地消のサラダバー（陣内ゼミ学生・院生）
- ・滋賀県立大学生協の地産地消（率向上）プロジェクト
- ・神奈川大学横浜キャンパス 地産地消を積極的導入した学生食堂「カルフル」（生協）
- ・近畿大学工学部 地元農家からの旬の野菜を使った献立、および焼きたてパン工房を設けた食の提供
- ・兵庫県立大学 生協と学内の地域経済研究所との連携企画「ゼロマイル・サラダ」

こうした情報を受けて、本グループでは、以下の地域事業主体・関係者への訪問・ヒアリングを実施した。

(1) ワーカーズ・コレクティブ

柏井宏之さん 共生型経済推進フォーラム運営委員

藤木千草さん ワーカーズ・コレクティブネットワークジャパン(WNJ) 事務局長

斉藤恵美子さん NPO「たがやす」(農家とボランティアのコーディネート)

(2) ゆいまーる生活館 (障がいをもつ方たちで営むベーカリー・レストラン)

八王子市南新町17-5 田村ビル1F

(3) ニローネ農場 (若者自立支援+地域再生で行う若者による有機農業)

上記運営主体 佐藤洋作さん (NPO文化学習協同ネット代表理事)

相模原市津久井町長竹 2713

(4) 明星大学 Star Shops (NPO法人やまぼうしと学生によるベーカリーカフェ)

日野市程久保 2-1-1

(5) NPO こすもす、花結び (ワーカーズ・コレクティブで営むベーカリーとお弁当)

八王子市片倉町 440-15

以上

**教室問題・食堂問題の現状と
解決策検討のための諸条件
—郊外型キャンパスの特徴を生かして—**

教室・食堂問題を考えるプロジェクトチーム 答申
(法政大学 多摩キャンパス 2010年度)

2011年8月22日